### This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

#### BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

#### IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problem Mailbox.

DIALOG(R)File 352:Derwent WPI

(c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

011752602 \*\*\*Image available\*\* WPI Acc No: 1998-169512/199815

XRAM Acc No: C98-054369 XRPX Acc No: N98-134561

Organic electroluminescent device - comprises coumarin derivative-incorporated luminescent layer, tetraaryldiamine

derivative-incorporated hole implanting and/or transporting layer, etc.

Patent Assignee: TDK CORP (DENK)

Inventor: INOUE T; NAKAYA K; OSHISA K; KOBORI I; OHISA K; OHHISA K

Number of Countries: 019 Number of Patents: 007

Patent Family:

Patent No	Kind	Date A	Applicat No	Kind	Date	Week	
WO 9808360	A1	19980226	WO 97JP2869	9 <i>A</i>	19970	819 199815	В
EP 857007	<b>A1</b>	19980805	EP 97935819	Α	1997081	9 199835	
			WO 97JP2869	$\cdot$ <b>A</b>	1997081	19	
JP 10510578	X	19990907	WO 97JP2869	Α	1997081	9 199947	
			JP 98510578	Α	19970819	•	
US 6285039	<b>B</b> 1	20010904	WO 97JP2869	, <b>A</b>	199708	19 200154	
			US 9851479	A	19980603	3	
US 2002003886	67 A1	20020404	WO 97JP2869	9 · A	19970	819 200227	
			US 9851479	Α	19980603	3	
			US 2001805244	4 A	20010314	4	
US 6603140	<b>B2</b>	20030805	US 9751479	· <b>A</b>	1997081	9 200353	
			WO 97JP2869	A	1997081	9	
			US 2001805244	4 A	20010314	4	
EP 1342769	A1	20030910	EP 97935819	Α	19970819	9 200367	

Priority Applications (No Type Date): JP 96235898 A 19960819

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes

WO 9808360 A1 J 382 H05B-033/14

Designated States (National): JP US

Designated States (Regional): AT BE CH DE DK ES FI FR GB GR IE IT LU MC NL PT SE

EP 857007 A1E Based on patent WO 9808360 H05B-033/14

Designated States (Regional): DE FR GB NL JP 10510578 Based on patent WO 9808360 H05B-033/14 X Based on patent WO 9808360 US 6285039 H01L-035/24 **B**1 Div ex application WO 97JP2869 US 20020038867 A1 H01L-035/24 Div ex application US 9851479 Div ex application US 9751479 US 6603140 H01L-035/24 **B2** Div ex application WO 97JP2869 Div ex patent US 6285039 A1E C09K-011/06 Div ex application EP 97935819 EP 1342769

Div ex patent EP 857007

Designated States (Regional): DE FR GB NL

Abstract (Basic): WO 9808360 A

An organic electroluminescent device comprises: (i) a luminescent layer containing a coumarin derivative of formula (I); and (ii) a hole implanting and/or transporting layer incorporated with tetraaryldiamine derivative of formula (II).

(I) R1, R2, R3 = independently H, CN, carboxyl, alkyl, aryl, acyl, ester, or heterocyclyl; R1-R3 may link with each other through ring-formation; R4, R7 = H, alkyl, or aryl; R5, R6 = alkyl or aryl; R4 and R5, R5 and R6, as well as R6 and R7 may form bonds via ring-formation;

(II) Ar1, Ar2, Ar-3, Ar4 = aryl; Ar1-Ar4 contain at least 2 or more benzene ring-containing condensed rings or polycyclic aryl groups derived from ring aggregate(s); R11, R12 = alkyl; p, q = 0-4; R13, R14 = aryl; r, s = 0-5.

Also claimed are: (1) a similar electroluminescent device with a mixed layer containing hole as well as electron implanting and transporting compounds, and additionally a doped luminescent layer with compounds of formula (I), quinacridone compound of formula (III) and styryl-type amino compound of formula (IV) as dopant; and (III) R21, R22 = independently H, alkyl, or aryl; R23, R24 = alkyl or aryl; t, u = 0-4; when t or u not less than 2, the adjacent R23 and R24 groups may link to each other by ring-formation; (IV) R31 = H or aryl; R32, R33 = H, aryl, or alkenyl; R34 = arylamino or arylaminoaryl; v = 0-5; and (2)another electroluminescent device with a luminescent layer containing at least 2 layers of bipolar-type luminescent layer in which the anode side of the layer contains a hole implanting and/or transporting layer while the cathode side of such layer with an electron implanting and/or transporting layer, and furthermore, this luminescent layer and similar luminescent layers may combine and group into a combination of luminescent layers with anode and cathode formed as above. USE - Such electroluminescent devices may be used e.g. for illumination or display.

ADVANTAGE - The devices give high-luminance emission, enable continuous light emission, and have high reliability and stability. Realisation of multi-colour light emission is possible.

Title Terms: ORGANIC; ELECTROLUMINESCENT; DEVICE; COMPRISE; COUMARIN; DERIVATIVE; INCORPORATE; LUMINESCENT; LAYER; TETRA; ARYL; DI; AMINE; DERIVATIVE; INCORPORATE; HOLE; IMPLANT; TRANSPORT; LAYER

Derwent Class: E13; E14; E23; L03; U11; U14; X26

International Patent Class (Main): H01L-035/24; H05B-033/14

International Patent Class (Additional): C09K-011/06; H01L-027/15;

H01L-031/12; H01L-033/00; H01L-051/00; H01L-051/20

File Segment: CPI; EPI

[特許請求の範囲]

3

再公费特許(41)

WO98/08360

**本非国公園団(三)** 

発行日 平成11年(1999)9月7日

(51) Int CL.\* #81£1.9 H 0 5 B 33/14

# COBK 11/06

響空防泉 未請求 予備審查請求 未請求(全302頁)

(71) 出題人 ディーディーケイ格式会社 東京都中央区日本権 1 丁目13番 1 号(27) 路田舎 小雄 島		(72)発明者 大久、和寿東京都中央区日本価1丁目13番1号 ティーディーケイ株式会社内	(72)発明者 中谷 夏司 東京都中央区日本橋1丁目13巻1号 ティ ーディーケイ株式会社内 (74)代理人 弁理士 石井 陽一	お茶町に扱く
*	(31) 優先権主義書号 特麗平8—235898 (32) 優先日 平8 (1996) 8 月19日	(33) 個先權主戰囚 日本 (1P) (81) 指於国 EP(AT, BE, CH, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, 1E, 1T, L	C, MC, NL, PT, SE), JP, US	

(54) 【発明の名称】 有機巨工業子

(67) [JEEP3]

有種匠工業子の紀光層に移定のクマリン解導体を白着させ、正孔柱入住むよび/または他送住の層に特定のテトラアリールジアミン既導体を含有させる。また、超台階タイプの紀光圏に移定のクマリン解導体、移定のキナクリドン化合物またはお近のステリル系化合物を合有させる。 組合層タイプの紀光層を含むファリル系化合物を合有させる。 組合層タイプの紀光層を含むしまる信息にあっていていたの高度を含ませる。これにより高層度な出来が移られ、薬剤を光がは他では重体の高い者種匠にまずが実践する。また多色光光が印刷となる。

(43) 国际公司 平成10年(1998) 2 月26日

<u>-</u>

1. 下記式(I) で示されるクマリン誘導体を含有する正孔住入性および/または輸示されるテトラアリールジアミン誘導体を含有する正孔住入性および/または輸送性の層とを有する有様をL菓子。 $R_s = \begin{pmatrix} R_s & R_s$ 

[式(1)中、R<sub>1</sub>、R<sub>2</sub>およびR<sub>3</sub>は各々水素原子、シアノ基、カルボキシル基、アナル基、アシル基、エステル基または複素環基を設し、これらは同一でも異なるものであってもよく、R<sub>1</sub>~R<sub>3</sub>は各々互いに結合して環を形成してもよい。R<sub>4</sub>およびR<sub>7</sub>は各々水素原子、アルキル基またはアリール基を投し、R<sub>5</sub>およびR<sub>6</sub>は各々アルキル基またはアリール基を投し、R<sub>5</sub>およびR<sub>6</sub>は各々アルキル基またはアリール基を投し、LびR<sub>6</sub>とR<sub>7</sub>は各々互いに結合して環を形成してもよい。]

[式(II)中、Ar1、Ar2、Ar3およびAr4は各々アリール基を表し、Ar1~Ar4のうちの少なくとも1個は、2個以上のペンゼン環を有する館合環または聚集合から誘導される多環のアリール基である。R 11およびR12は各々アルキ

**1**098/08360

3

ル基を表し、pおよびgは各々0または1~4の整数である。R 13およびR 14は各々アリール基を表し、r およびsは各々0または1~5の整数である。] 2. 前記クマリン誘導体を含有する発光層が、ホスト材料に前記クマリン誘導体がドーパントとしてドープされたものである論求の範囲第1項の有機E1業子

. 前記ホスト材料がキノリノナト金属組体である請求の範囲第2項の有機E

4. 正孔柱入軸送性化合物と電子注入軸送性化合物とを含有する記合層に、さらに下記式(1)で示されるクマリン誘導体、下記式(11)で示されるキナクリドン化合物または下記式(7)で示されるステリル系アミン化合物をドーパントとしてドープした発光層を有する有機をし業子。

【式(1)中、R1、R2およびR3は各々水楽原子、シアノ基、カルボキシル基、アルキル基、アリール基、エステル基または投業環基を要し、これらは同一でも異なるものであってもよく、R1~R3は各々互いに結合して環を形成してもよい。R4およびR7は各々水素原子、アルキル基またはアリール基を表し、R6とR6は各々アルキル基またはアリール基を表し、R4とR6、R6とR6およびR6とR7は各々互いに結合して環を形成してもよい。]

[式 (III) 中,R 21 およびR 22 は各々水楽原子、アルキル基またはアリール基

を表し、これらは同一でも異なるものであってもよい。R 53およびR 54は各々アルキル基またはアリール基を表し、tおよびuは各々0または1~4の整数である。tまたはnが2以上であるとき、関接するR 53同士またはR 54同士は互いに結合して顕を形成してもよい。]

[式 (IV) 中、R31は水素原子またはアリール基を表す。R32およびR33は水素原子、アリール基またはアルケニル基を要し、これらは同一でも異なるものであってもよい。R34はアリールアミノ基またはアリールアミノアリール基を要し、vは0または 1~5の整数である。]

5. 前記正孔注入輸送性化合物が芳香族三級アミンであり、前記電子注入輸送

性化合物がキノリノナト金属組体である酸水の範囲第4項の有機をL菓子。 6. 前配芳香族三級アミンが、下配式(I)で示されるテトラアリールジアミン誘導体である酵水の範囲第5項の有機をL業子。

[式(II)中、Ari、Ari、Ari3およびAriは各々アリール基を摂し、Ari

W098/08360

は聚集合から誘導される多類のアリール基である。R 11およびR12は各々アルキ ル基を表し、p およびq は各々0または1~4の整数である。R 13およびR 14は ~A r4のうちの少なくとも1個は、2個以上のベンゼン現を有する絡合類また

各々アリール基を摂し、r およびs は各々0または1~5の整数である。] 7. 前紀発光層が、少なくとも1層の正孔注入性および/または正孔輸送性の間と少なくとも1層の電子注入性および/または電子輸送性の間とで決持される **樹次の範囲第1項~第6項のいずれかの有機EL業子。** 

9. 光の取り出し個にカラーフィルターおよび/または蛍光変換フィルターを . 的記述孔柱入柱および/または始送性の層に、さらにルブレンがドーパン トとしてドープされた鯖水の範囲第1項、第2項、第3項または第7項の有機E

記憶し、カラーフィルターおよび/または蛍光変換フィルターを通して光を取り

出すように構成した請求の範囲第1項~第8項のいずれかの有機EL業子。

10. /バイボーラ型発光層を含む2層以上の発光層を有し、この発光層より隔鏡的の個として正孔注入性および/または輸送性の間を有し、陰極側の層として電子注入性および/または輸送性の間を有し、

**10記2層以上の発光層がパイポーラ型発光層向士の組合せ、またはパイポーラ 型発光層と、このパイポーラ型発光層より移栖側の正孔輸送性の発光層および/** 

八子式一ラ型発光層が正孔注入輸送性化合物と電子注入輸送性化合物と (もし入は性価値の電子輸送性の発光層との組合せである有機をし来子。11.) バイボーラ型発光層が正孔注入輸送性化合物と電子注入輸送的 を含着する混合層である樹水の範囲第10項の有機EL業子。

2. 前記2層以上の発光層がすべて起合層である観求の範囲第11項の有機 **| 村記2階以上の発光層の少なくとも1層にドーバートがドーブされた膝** 日上独小

**村記2階以上の発光層のすべてにドーパートがドープされた様状の範囲** 次の範囲第10項~第12項のいずれかの有機EL素子。 4

16. 前記2冊以上の発光層の発光特性が互いに異なり、発光極大波長が長波 第10項~第13項のいずれかの有機E1業子。

長樹の発光層を陽極倒に設ける諸衆の範囲第10項~第14項のいずれかの有機

9

EL案子。

前記ドーパントが、下記式 (1) で示されるクマリンである間求の範囲 的配ドーパントが、ナフタセン骨格を有する化合物である謎求の範囲第 13項~第15項のいずれかの有機EL業子。 16.

第13項~第16項のいずれかの有機EL案子。

R6およびR6は各々アルキル基またはアリール基を扱し、R4とR6、R6とR6お [式(I)中、R<sub>1</sub>、R<sub>2</sub>およびR<sub>3</sub>は各々水楽原子、シアノ基、カルボキシル基、アルキル基、アリール基、アシル基、エステル基または複楽類基を摂し、これらは 同一でも異なるものであってもよく、R1~R3は各々互いに結合して類を形成し てもよい。R<sub>4</sub>およびR7は各々水果原子、アルキル基またはアリール基を表し、 よびR6とR7は各々互いに結合して類を形成してもよい。]

前記正孔注入輸送住化合物が汚香族三級アミンであり、前記電子注入輸 送性化合物がキノリノナト金属船体である融水の範囲第11項~第17項のいず れかの有機EL素子。

T098/08360

# (免明の詳細な説明)

有機匠上案子

技術分野

AMA/A 本発明は、有機EL(電界発光)素子に関し、詳しくは、有機化合物からなる 資験に電界を印加して光を放出する素子に関する。

少日特征

有機EL素子は、蛍光性有機化合物を含む薄膜を、陰極と陽極とで終んだ構成を有し、前配薄膜に電子および正孔を注入して両筋合させることにより励起子エキシトン)を生成させ、このエキシトンが失活する際の光の放出(蛍光・繚光)を利用して発光する素子である。

有機とし妻子の特徴は、10V程度の低電圧で100~10000にd/m2程度の高輝度の面発光が可能であり、また蛍光物質の福積を選択することにより青色から赤色までの発光が可能なことである。

① 有機化合物の物理的変化

(結晶ドメインの成長などにより界面の不均一化が生じ、妻子の電荷柱入館の劣化・短路・絶縁破壊の原因となる。特に分子盤500以下の低分子化合物を用いると結晶粒の出現・成長が起こり、現性が着しく低下する。また、1 T O等の界面が流れていても、顕著な結晶粒の出現・成長が起こり、発光効率の低下や、電域のリークを起こし、発光しなくなる。また、部分的非発光部であるダークスポットの原因にもなる。)

② 報道の数分・地震

(電子の注入を容易にするために仕事関数の小さな金属としてNaMg・Li・ Ca・K・Aiなどを用いてきたが、これらの金属は大気中の水分や酸素と反応

(本権化合物中に職権を指すので、通い制制を 、主権化合物中に職権を指すので、通い制制を が、事業からは流れられない。その数のため、本

(有機化合物中に電波を波すので、高い電界強度下に有機化合物を置かねばならず、発熱からは逃れられない。その熱のため、有機化合物の溶酸・結晶化・熱分解などにより素子の劣化・破壊が起こる。)

④有機化合物層の光化学的変化・電気化学的変化

などが挙げられる。

一方、有機E L業子の多色発光化に対応するものとして、秘暦型白色発光有機E L 菓子が投案されている [佐園佳晴、信学技術、OME 9 4 - 7 8 (1995-03)]。この場合の発光暦は、亜鉛のオキサゾール組体を用いた青色発光層、トリス (8-キノリノラト) アルミニウムを用いた緑色発光層およびトリス (8-キノリノラト) アルミニウムに赤色の蛍光色素 (b-660、DCM1)を

ープした赤色発光層を独層したものである。 このように、赤色発光層には発光値をドーピングすることで、赤色発光を可能

したり、有機層と整備の影離が起こり、電荷柱入ができなくなる。特に高分子化合物などを用い、スピンコートなどで成蹊した場合、成蹊時の残留路媒や分解的が電極の機化反応を促進し、電極の影離が起こり部分的な非発光部を生じさせる

1098/08360

にしている。他の層にはドーピングは行われていない。緑色兒光層・青色兒光層 はホスト材料のみで発光するように選ばれているが、ここで材料選定および発光 色の調整自由度が大きく制限されることになる。

一般に、有機をし妻子の発光色を変えるのに発光値の数量部泊、すなわちドーでして、キーピングが行われる。メリットとして、ドーピングの種類を変えることで容易に発光値を表えることが回節なためである。したがって、多色発光の方法としては、数値類の発光値をドーピングすることで原理的には回節であるが、単一のホストの中にそれら会ての発光値を一様にドーピングすると、ドーピングした発光値のは、一個数しか発光しない場合や、回種類かが発光しない場合がある。要するに、一つのホストに全てを配合してドーピングしても全てが発光することは困難である。これは移定の発光値にのみエネルギーが移動してしまっためである。

このような理由で、現在までには2種以上の発光値をドーピングにより安定に 発光させた例はなかった。

ところで、一般に有機を上業子の輝度半域寿命は発光輝度とトレードオフの関係にある。トリス(8ーキノリノラト)アルミニウムまたはN, N'ージフェニルーN, N'ーピス(3ーメチルフェニル)ー1, 1'ーピフェニルー4, 4'ージアミンにルブレンをドーピングすることで長寿命化が図られ、初期輝度500cd/m2程度、輝度半減寿命3500時回程度のレベルのものが得られることが最高されている(衛井哲夫、応用・4 年 6 6 0m付近)に限られている。また更なも長寿命化が図まれている。

### 保明の臨床

本発明の目的は、梅に物理的変化や光化学的変化、電気化学的変化の少ない光・電子機能材料を用い、個類性および発光効率の高い値々の発光色を持った有機EL素子を実現することである。梅に、分子豊の大きな化合物を蒸溜法で形成した

分的な非発光部の出現・成長を抑えた高信頼性かつ、高輝度発光素子を実現する

有機簡単を用い、来子の駆動時の駆動電圧上昇や輝度の低下、電波のリーク

ことである。さらには多色発光への対応が可能であり、発光スペクトルの調整が可能である有様を1.業子を提供することであり、これに加えて高輝度で長寿命の有機を1.業子を提供することである。

このような目的は、下記(1)~(18)の本発明により達成される。 (1) 下記式(1)で示されるクマリン誘導体を含有する発光層と、下配式(1) で示されるテトラアリールジアミン誘導体を含有する正孔性入性および/または 輸送性の層とを有する有機をし案子。

[式(I)中、R<sub>1</sub>、R<sub>2</sub>およびR<sub>3</sub>は各々水楽原子、シアノ基、カルボキシル基、アルキル基、アシル基、エステル基または複楽環基を扱し、これらは同一でも異なるものであってもよく、R<sub>1</sub>~R<sub>3</sub>は各々互いに結合して環を形成してもよい。R<sub>4</sub>およびR<sub>6</sub>は各々アルキル基またはアリール基を扱し、R<sub>5</sub>およびR<sub>6</sub>は各々アルキル基またはアリール基を扱し、A<sub>5</sub>およびR<sub>6</sub>は各々アルキル基またはアリール基を扱し、A<sub>5</sub>およびR<sub>6</sub>は各々アルギル基またはアリール基を扱し、A<sub>5</sub>とR<sub>6</sub>は各々互いに結合して環を形成してもよい。]

 $\widehat{\Xi}$ 

ル基を扱し、pおよびqは各々0または1~4の整数である。R 13およびR 14は 各々アリール基を摂し、r およびsは各々0または1~5の整数である。] は頭集合から誘導される多類のアリール基である。R 11 およびR 12は各々アルキ [式(II)中、Ar1、Ar2、Ar3およびAr4は各々アリール基を摂し、Ar1~Ar4のうちの少なくとも1個は、2個以上のベンゼン環を有する絡合環また

- 前記クマリン誘導体を含有する発光層が、ホスト材料に前記クマリン誘 単体がドーパントとしてドープされたものである (1) の有機EL業子。 (3)
  - 3
  - リドン化合物または下配式 (V) で示されるスチリル系アミン化合物をドーパン さらに下記式(1)で示されるクマリン領導体、下記式111)で示されるキナク 的配ホスト材料がキノリノナト金属組体である(2)の有機を上業子。 正孔柱入輸送性化合物と電子柱入輸送性化合物とを含有する起合層に、 トとしてドープした発光層を有する有機EL来子。 3

[式(1)中、R<sub>1</sub>、R<sub>2</sub>およびR<sub>3</sub>は各々水楽原子、シアノ基、カルボキシル基、

R6およびR6は各々アルキル基またはアリール基を扱し、R4とR6、R6とR6お 頃一でも異なるものであってもよく、R1~R3は各々互いに結合して景を形成し ルキル基、アリール基、アシル基、エステル基または複楽現基を扱し、これらは てもよい。R4およびR7は各々水素原子、アルキル基またはアリール基を扱し、 よびR6とR7は各々互いに結合して環を形成してもよい。]

る。 1または 1が2以上であるとき、関接する R 23周士または R 24周士は互いに ルキル基またはアリール基を扱し、1および4は各々0または1~4の整数であ を扱し、これらは岡一でも異なるものであってもよい。R 13およびR 24は各々ア [式(III)中、 $R_{21}$ および $R_{22}$ は各々水泉原子、アルキル基またはアリール基 結合して類を形成してもよい。]

[式 (IV) 中、R31は水素原子またはアリール基を恐す。R32およびR33は水素 原子、アリール基またはアルケニル基を扱し、これらは同一でも異なるものであ ってもよい。R34はアリールアミノ基またはアリールアミノアリール基を扱し、

v は0または1~5の数数である。]

- 的紀正孔注入輸送性化合物が芳香族三級アミンであり、前記電子注入輸
  - 送性化合物がキノリノナト金属循体である(4)の有機をL業子。 (6) 前配芳香族三級アミンが、下配式(1)で示されるテトラアリールジア ミン誘導体である (5) の有機EL素子。

ル基を摂し、pおよびQは各々0または1~4の整数である。R13およびR14は は類集合から誘導される多環のアリール基である。R 11およびR 12は各々アルキ 前記発光層が、少なくとも1層の正孔住入性および/または正孔輸送性 [式(II)中、Ari, Ari, Ari対よびAriは各々アリール基を投し、Ari ~A r4のうちの少なくとも1個は、2個以上のペンゼン環を有する絡合環また 各々アリール基を扱し、「およびs は各々0または1~5の盤数である。]

の職と少なくとも1層の電子注入性および/または電子輸送性の層とで換換され る (1) ~ (6) のいずれかの有機EL業子。

**村記正孔往入仕および/または韓送性の層に、さらにルブレンがドーパ** 光の取り出し倒にカラーフィルターおよび/または蛍光変換フィルター ントとしてドーブされた (1)、 (2)、 (3) または (7) の有機EL素子。

を配置し、カラーフィルターおよび/または蛍光変換フィルターを通して光を取 り出すように構成した (1) ~ (8) のいずれかの有機EL来子。

(10) バイボーラ型発光層を含む2層以上の発光層を有し、この発光層より 陽極側の層として正孔往入性および/または輸送性の層を有し、陰極側の層とし て電子注入性および/または始送性の層を有し、

**右記 2届以上の先光層がパイポーラ型発光層向士の組合せ、またはパイポーラ** 

型発光層と、このパイポーラ型発光層より陽極側の正孔倫送性の発光層および/ もしくは散極側の電子輸送性の発光層との組合せである有機EL兼子。

- パイポーラ型発光層が正孔往入輸送性化合物と電子注入輸送性化合物 とを含有する混合層である(10)の有機EL素子。
- **前記2層以上の発光層がすべて混合層である(11)の有機EL兼子** (12)
- 前記2周以上の発光層の少なくとも1層にドーパントがドーブされた (13)
  - (10)~ (12)のいずれかの有機EL業子。
- **| 付記2層以上の発光層のすべてにドーパントがドープされた (10)** ~ (13) のいずれかの有機EL菓子。 (14).
  - (15)
- 前記2層以上の発光層の発光特性が互いに異なり、発光極大波長が長 放長側の発光層を隔極側に設ける (10)~(14)のいずれかの有機EL菓子
- 的記ドーパントが、ナフタセン骨格を有する化合物である(13) (16)
  - (15) のいずれかの有機EL素子。
- 前記ドーパントが、下記式 (1) で示されるクマリン誘導体である (
  - 13) ~ (16) のいずれかの有機EL業子。

RgおよびRgは各々アルキル基またはアリール基を表し、RgとRg、RgとRgおよびRgとRgは各々互いに結合して環を形成してもよい。] 同一でも異なるものであってもよく、R₁~Rgは各々互いに結合して環を形成し [式(I)中、 $R_1$ 、 $R_2$ および $R_3$ は各々水素原子、シアノ基、カルボキシル基、ア ルキル基、アリール基、アシル基、エステル基または複素類基を費し、これらは てもよい。R4およびR7は各々水森原子、アルキル基またはアリール基を表し、

的記正孔注入輸送性化合物が芳香族三級アミンであり、前記電子注入

輸送性化合物がキノリノナト金属組体である(1.1)~(1.7)のいずれかの者 はここもる

本発明の有機E L素子は式(1)で示されるクマリン研算体を発光層に用い、かつ式(11)で示されるテトラアリールジアミン研導体を正孔柱入柱および/または 他送性の層に用いているため、また正孔柱入館送住(合物と電子柱入館送住(合 物との組合層に式(1)のクマリン誘導体、式(1)のキナクリドン化合物、式(11)のスチリル条アミン化合物をドープして発光層としているため、100000/m²程度、あるいはそれ以上の高減度が安定して得られる。また、式(30m/cm²程度、あるいはそれ以上の高減度が安定して得られる。また、式(30m/cm²程度でも長時間の安定した駆動が可能である。

上記化合物の蒸着膜はいずれも安定なアモルファス状態なので、薄膜性が良好となりムラがなく均一な発光が可能である。また、大気下で一年以上安定でありなほんを起てされた。

また、本発明の有機EL菓子は、低船動電圧・低船動電流で効率よく発光する。 なお、本発明の有機EL菓子の発光極大波長は、480~64 0m程度である。 例えば特朗平6-240243号には、ホスト物質にトリス8ーキノリノラト)アルミニウムを用い、本発明の近()で示されるクマリン誘導体に包含されるたり、これ輸送層に用いた光層を有する有機EL菓子が開示されている。しかし、正孔輸送層に用いられているのは、N、一ジフェニルーN、N、一ピス・ネ光明の式(!)で示される化合物とは異なるものである。また、混合層タイプの発光

層に式(1)のクマリン乾砕体、式(1)のキナクリドン化合物あるいは式(1)1)のスチリル米アミン化合物をドープした例は知られていない。

さらに、本発明では、各発光層のキャリア輸送能を変化させ2種以上の発光を可能にするため、発光層を2層以上とし、これらの発光層のうち少なくとも1層をパイポーラ型、好ましくは混合層タイプのものとし、パイポーラ型発光層は、好ましくは混合層は、あるいはパイポーラ型発光層、好ましくは混合層と、

このパイポーラ型発光層、好ましくは混合層より保護機に設けられた正孔輸送性の発光層および/または整価銀に設けられた電子輸送性の発光層との組合せとし、さらに好ましくは発光層に各々ドーパントをドープしている。

全域および混合層と正孔輸送性の発光層の界面近傍ないし混合層と電子輸送性の 光が可能になる。また、庭台層とする場合、正孔(ホール)および電子の注入に 対して安定な化合物を選択することで、混合層自体の電子耐性・ホール耐性を飛 の発光程の発光は可能になるが、発光層等のコントロールが据しく、2種の徴度 発光層である混合層におけるホスト材料の組合せや量比、あるいは戦厚比などを JI盤することによって電子および正孔のキャリア供給 能をJII盤することが可能に なる。このため、発光スペクトルの調整が可能になる。したがって多色発光型の 有機EL来子への対応が可能になる。さらにはルブレン等のナフタセン骨格を有 する化合物をドープした発光層(特に遅合層)を設けることによってルブレン等 のドーブ層のキャリアトラップ層としての複蛇などにより、階級層 (例えば電子 始送層や正孔輸送層)へのキャリア注入が成り、これらの層の劣化が抑制される このなかで、特に好ましい概様である混合層を設けドーピングする場合につい て考えると、混合間を投けてドーピングすることによって、再結合規模が混合層 発光層の界面近傍に広がり、励起子が生成され、各発光層のそれぞれのホストか ら、最も近い発光値にエネルギー移動し、2種以上の発光値(ドーパント)の発 躍的に向上させることができる。これに対し、バイボーラ型発光層である混合質 なしで、正孔始送性の発光層と電子輸送性の発光層とを組み合わせても 2種以上 寿命が短く実用に耐えない。また、発光層のホスト材料の組合せ、バイボーラ型 **比率等がすぐに変化したり、ホールおよび電子の関方に対する耐性が低いので、** 

ため、高輝度(1000cd/m3程度)で長寿命(輝度の半減期50000時回程度)となる。また、発光スペクトルの発光極大波長が長波長域にある発光層を偏極側に設けることによって、光学的干渉効果が利用でき、各々の発光の光取り出し効率が向上し、高輝度化が可能になる。

なお、信学技能、OME 94-78 (1995-03) には、白色発光の有機 EL案子が提案されているが、本発明と異なり、パイポーラ型発光層、特に混合

層を合む 2 層以上の発光層に各々ドーピングすることについては全く示されてい

## 図面の簡単な説明

の発光スペクトルを示すグラフであり、第8図は有機EL兼子の発光スペクトル り、第10回は有機EL菓子の発光スペクトルを示すグラフであり、第11回は 有機EL素子の発光スペクトルを示すグラフであり、勇12図は有機EL素子の 発光スペクトルを示すグラフであり、第13図は有機EL妻子の発光スペクトル を示すグラフであり、第14図は有機EL集子の発光スペクトルを示すグラフで Eし鼻子の発光スペクトルを示すグラフであり、第3図は有機Eし祟子の発光スペクトルを示すグラフであり、第4図は有機Eし祟子の発光スペクトルを示すグ ラフであり、第5図は有機Eし素子の発光スペクトルを示すグラフであり、第6 図は有機EL菓子の発光スペクトルを示すグラフであり、第7図は有機EL菓子 を示すグラフであり、第9図は有機EL素子の発光スペクトルを示すグラフであ 第1図は本発明の有機EL素子の一例を示す概略構成図であり、第2図は有機

発明を実施するための最良の形態

と式(11)で示されるテトラアリールジアミン財弾体を含有する正孔注入性および 本発明の有機EL素子は、式(1)で示されるクマリン誘導体を合有する発光層 以下、本発明の実施の形態について詳細に似明する。 /または倫送性の層とを有するものである。

を扱し、これらは同一でも異なるものであってもよい。 R1~R3で扱されるアルギル基としては、贷業数1~6のものが好ましく、値 ルポキシル基、アルキル基、アリール基、アシル基、エステル基または複素環基 式(I) について説明すると、式(I) 中、R 1~R 3は各々水楽原子、シアノ基、

僻伏であっても分岐を有するものであってもよく、置検基(ハロゲン原子等)を

有していてもよい。アルキル基の具体例としては、メチル基、エチル基、(n-

. 1-) プロピル様、(n-. 1-, s-, 1-) ブチル楢、n-ベンチル楢、インベンチル楢、t-ベンチル構、トリフルオロメチル褐色が挙げられる。

RI~R3で表されるアリール基としては、単聚のものが好ましく、炭素数は6 ~2 4 であることが好ましく、置徳基(ハロゲン原子、アルキル基等)を有して いてもよい。具体的にはフェニル基等が挙げられる。

 $R_1 \sim R_3$ で扱されるアシル基としては、炭素数は $2 \sim 1$ 0のものが好ましく、 具体的にはアセチル基、プロピオニル基、プチリル基質が挙げられる。

具体的にはメトキシカルボニル基、エトキシカルボニル基、プトキシカルボニル  $R_1 \sim R_3$ で要されるエステル基としては、炭素数 $2 \sim 10$ のものがfましく、 基等が挙げられる。

フタレン環に縮合した5員複楽環から誘導される基が好ましい。また縮合環とし てペンゼン環を有する合金素6員技業環から誘導される基も好ましい。具体的に 益、ペンゾイミダブリル基、ナフトチアゾリル基や、2ーピリジル基、3ーピリ ジル基、4-ピリジル基、2-ピラジニル基、2-キノリル基、7-キノリル基 **等であり、これらは間後基を有するものであってもよく、このときの配換基とし**  $R_1 \sim R_3$ で表される複素類基としては、ヘテロ原子として窒素原子(N)、整 は、好ましくはそれぞれ2 - イルの、ペンゾチアゾリル基、ペンゾオキサゾリル 森原子 (O) 、硫黄原子 (S) を有するものが好ましく、ペンセン類あるいはナ てはアルキル基、アリール基、アルコキシ基、アリーロキシ基督が挙げられる。 以下に、RI~R3で投される複楽環幕の好適例を示す。 (C)

**6**5

またはアリール基を扱し、これらは同一でも異なるものであってもよいが、通常 同一であり、特にはアルキル基が好ましい。

R4~R7で扱されるアルキル基としてはR1~R3のところのものと同じものを 挙げることができる。

 $R_4$ と $R_6$ 、 $R_5$ と $R_6$ および $R_6$ と $R_7$ は各々互いに結合して類を形成してもよく、特に $R_4$ と $R_6$ 、 $R_6$ と $R_7$ が各々互いに結合して炭素原子(C)、窒素原子(N)とともに $R_6$  員類を同時に形成することが好ましい。このようにして一部水素化したキノリジン類を形成する場合の構造式としては下記式 $R_7$ のできれるものが 好ましい。特に、クマリン化合物同士の相互作用による蛍光遺度消光を防止し蛍 光量子収率が向上する。

R71およびR72は水素原子またはアルキル基を扱し、このときのアルキル基とし 式(14)中、R1~R3は式(1)におけるものと同様のものである。R41. R42. てはR1~R3のところのものと同じものを挙げることができる。

に限定されるものではない。以下では近1)、式(11)中のR1等の組合せで表示する。なお、以下において、Phはフェニル基を表わす。 以下に式(1)に示されるクマリン誘導体の具体例を挙げるが、本発明はこれら

リール基(フェニル基、ナフチル基等)を授す。R6およびR6は各々アルキル基

式(I)中、R4およびR7は各々水素原子、アルキル基(メチル基等)またはア

うな複楽環基であるものが好ましい。

RI~R3は同時に水素原子とはならないことが好ましく、特にR1が上配のよ

としてはシクロベンデン毎の収表限が挙げられる。

式(I)中、R1~R3は各々互いに結合して現を形成してもよく、形成される類

ď

₽,

æ

化合物

1-101

CH3 p-c 7129A m-t' 7121/A CH CH3 m-t'71=18 2-ナフチル p-k' 71=1/1 0・トリル CHS Æ I I ď I I I I I ₽, Œ 1-110 1-111 1-115 1-109 1.112 1-114 1-116 1-117 化合物 1-108 1-107

I

-단

I

1-103

I

Ï

1-106

**R** 

**R** 

₹

ď

Ę

æ

化合物

н сн, сн, сн, сн,

I

	•		•		•		· .
R <sub>72</sub>	F.	CH <sub>3</sub>	Ę.	r	r	I	Ę
R	ch.	£.	អ័	I	<b>=</b>	I	Ą
R &	GH.	CH <sub>3</sub>	ษ์	I	r	I	Ę.
a.	អ្ន	CH <sub>3</sub>	អ្ន	I	I	x	អ្ន
£	r	I	I	. <b>エ</b>	I	I	I
a£°	I	I	I	r	I	<b>=</b>	'π
R <sub>1</sub>	Q <sub>x</sub>	Q <sub>z</sub>	Z Z	Q <sub>o</sub> -{	QZ o-Z	IZ-	
化合物	1-201	1-202	1-203 N	1-204	1-205	1-206	F207

H CH3 CH3 CH3 CH3

·**エ** 

1-210

н сн, сн, сн,

I

式(II)中、Ar1、Ar2、Ar3およびAr4は各々アリール基を表し、Ar1 ~A r4のうち少なくとも 1個は2個以上のペンゼン環を有する縮合環または類 集合から誘導される多類のアリール基である。

リル基等が挙げられ、多環のアリール基としては、2ーピフェニリル基、3ーピ AFI~AFiで扱されるアリール基としては、世後基を有していてもよく、総 フェニリル基、4-ピフェニリル基、1-ナフチル基、2-ナフチル基、アント 段素数6~24のものが好ましい。単環のアリール基としては、フェニル基、 リル基、フェナントリル基、ピレニル基、ペリレニル毎が挙げられる。

CH3

CH3

CH<sub>2</sub>

CH<sub>3</sub>

I

I

-CO<sub>2</sub>C<sub>2</sub>H<sub>5</sub>

化合物

CH3

CH3

£

I

S. F.

I

式(11)において、Ari,Ar2が筋合して得られるアミノ基部分とAr3・ r.tが結合して得られるアミノ基部分とは同一であることが好ましい。

式(II)中、R IIおよびR I2は各々アルキル基を扱し、pおよびqは各々0また は1~4の監数である。

同様のものを挙げることができ、メチル基等が好ましい。 p、q は0または1で RII、R12で表されるアルキル基としては近りのR1~R3のところのものと あることが好ましい。

たは1~5の数数である。

1であることが好ましい。

S,

£

£,

CH3

I

I

-CO2C2H,(t)

1-218

£

£ F

£

CH3

I

I

두

1-219

æ

£ F

£

S. F.

CH<sub>3</sub>

I

I

COL

1-217

£ £

CH3

C. H3

CH3

I

I

S

1-216

CH<sub>3</sub>

£

Ç H

G F3

I

I

COCH3

1-215

 $CH_3$ 

CH<sub>3</sub>

 $C_{\mathbf{f}_3}$ 

CH<sub>3</sub>

I

CF.

I

**I-214** 

£

£

£ S

£

I

**徳** センクロスソヤン 脳

RICRECT

示し、置後基があるときは置換基のみを示している

次に、正孔注入性および/または輸送性の層に用いられる式川のテトラアリ

ールジアミン統導体について説明する。

式(1)のクマリン誘導体は1種のみを用いても2種以上を併用してもよい。

5号等に配載の方法で合成することができる。

これらの化合物は砂菌平6-9952号、Ger. Offen. 109812

( a )

1. 1. R

式 (II) 中、R<sub>13</sub>およびR<sub>14</sub>は各々アリール基を扱し、r およびsは各々0ま

R13、R14で扱されるアリール基としては式(1)のR1~R3のところのもの **と同様のものを挙げることができ、フェニル基等が好ましい。 r、s は0または** 

を用いて示している。またR51~R68、R69~R68ではすべてのHのときはHで 発明はこれらに限定されるものではない。以下では式IIU中のAri参の組合せ 以下に式(11) で示されるテトラアリールジアミン誘導体の具体倒を示すが、本

Ţ	I	I	r	I	I	<b>#</b>	τ	I	Reı=Ree=Ph	Reo = Res = Ph	ResResPh
I	<b>=</b>	ľ	I	r	I	I	I	Azen Barec Ha	I	I	I
3-2, 71:44	3-1, 71-14	4-1, 76294	4-6, 7:248	2-1154	. F. 125	1-17f4	2-1754	3-6' 71=96	3-5, 71-94	3-£' 71=9/	3.t. 7 <u>1</u> =1J.k
3-1, 71-98	Æ	4-1, 7-11	<b>&amp;</b>	Æ	£	&	2-1774	3-է՝ 71=44	3-6, 72-94	3-ピ7129&	3-8, 712),4
3-1, 72246	3-1, 7,244	4-1, 73=18	4-2 71298	2-1754	r' 1/14	1-1754	2.1744	3-1, 77=11	3-€ 71-51	3-k° 71=4)A	9.t' 7 <u>.</u> 234
3-K 71-114	£	4-2, 71-94	<b>.</b> &	Ē	ā.	£	2-1741.	3-6, 72=14	3-6, 72:48	3-1,71=1)	3-ť 7125#
11-101	1102	11-103	11-104	1105	106	11-107	11-108	11-109	11-110	1111	1-112
	3-6'71-19.8 3-6'71-19.8 3-6'71-19.8 H	3-6'71246 3-6'71246 3-6'71246 H	3-6'71=114 3-6'71=114 3-6'71=114 H  Ph 3-6'71=114 Ph 3-6'71=114 H  4-6'71=114 4-6'71=114 4-6'71=114 H	3-6'71=114 3-6'71=114 3-6'71=114 H  Ph 3-6'71=114 4-6'71=114 H  Ph 4-6'71=114 4-6'71=114 H  Ph 4-6'71=114 Ph 4-6'71=114 H	3-6'71=94 3-6'71=94 H  Ph 3-6'71=94 Ph 3-6'71=94 H  4-6'71=54 4-6'71=94 Ph 4-6'71=94 H  Ph 4-6'71=54 Ph 4-6'71=94 H  Ph 2-77=54 Ph 2-77=54 H	3-672-94 3-672-94 3-672-94 H  Ph 3-672-94 Ph 3-672-94 H  4-672-94 4-672-94 4-672-94 H  Ph 4-672-94 Ph 4-672-94 H  Ph 2-77-94 Ph 2-77-94 H  Ph 2-77-94 Ph 2-77-94 H	3-67-1-14 3-67-1-14 3-67-1-14 H  Ph 3-67-1-14 Ph 3-67-1-14 H  4-67-1-14 4-67-1-14 Ph 4-67-1-14 H  Ph 4-67-1-14 Ph 4-67-1-14 H  Ph 2-77-14 Ph 2-77-14 H  Ph 2-77-14 Ph 2-77-14 H  Ph 1-77-14 Ph 1-77-14 H  Pr 1-77-14 Ph 1-77-14 H	3-£'7;244 3-£'7;244 3-£'7;244 H Ph 3-£'7;244 Th 3-£'7;244 H Ph 4-£'7;244 Th 4-£'7;244 H Ph 4-£'7;244 Ph 2-7;244 H Ph 2-7734 Ph 2-7734 H Pr E'D24 Ph E'D25 H Pr E'D24 Ph E'D25 H Pr E'D24 Ph E'D25 H	3-672-114 3-672-114 3-672-114 H  Ph 3-672-114 Ph 3-672-114 H  4-672-114 4-672-114 4-672-114 H  Ph 4-672-114 Ph 4-672-114 H  Ph 2-77-114 Ph 2-77-11 H  Ph 1-77-11 Ph 1-77-11 Ph 1-77-11 H  2-77-11 2-77-11 2-77-11 Ph 1-77-11 H  2-77-11 2-77-11 3-672-114 H  3-672-114 3-672-114 3-672-114 A  3-672-114 3-672-114 3-672-114 A	3-672-34 3-672-34 3-672-34 H  Ph 3-672-34 Ph 3-672-34 H  4-672-34 4-672-34 4-672-34 H  Ph 4-672-34 Ph 4-672-34 H  Ph 2-773-4 Ph 2-773-4 H  Pr 6.72-34 Ph 2-773-4 H  Pr 7-773-4 Ph 1-773-4 H  2-773-4 Ph 1-773-4 H  2-773-4 2-773-4 Ph 1-773-4 H  3-672-34 3-672-34 3-672-34 Azon Banch  3-672-34 3-672-34 3-672-34 H  8-1-72-4 Ph 1-773-4 H  3-672-34 3-672-34 3-672-34 H  8-1-72-34 3-672-34 3-672-34 H  3-672-34 3-672-34 H  3-672-34 3-672-34 3-672-34 3-672-34 H  3-672-34 3-672-34 3-672-34 3-672-34 H  3-672-34 3-672-34 3-672-34 3-672-34 3-672-34 11 3-672	3-672-34 3-672-34 3-672-34 1-672-44 H  Ph 3-672-34 4-672-34 4-672-34 H  4-672-34 4-672-34 4-672-34 H  Ph 4-672-34 4-672-34 4-672-34 H  Ph 2-7734 Ph 2-7734 H  Ph 1-7734 Ph 2-7734 H  2-7734 2-7734 Ph 1-7734 H  2-7734 2-7734 2-7734 2-7734 H  3-672-34 3-672-34 3-672-34 3-672-34 H  3-672-34 3-672-34 3-672-34 3-672-34 H  3-672-34 3-672-34 3-672-34 3-672-34 H

これらの化合物はEP0650955A1 (対応特闘平7-43564号) 毎に配載の方法で合成することができる。 これらの化合物は、1000~2000程度の分子量をもち、配点は200~400で程度、ガラス航移道度は130~200で程度である。このため、通常の真空蒸着等により透明で適適以上でも安定なアモルファス状態を形成し、平衡で真好な膜として得られ、しかもそれが長期間に放って維持される。また、バインダー樹脂を用いることなく、それ自体で複膜化することができる。 式(11)のテトラアリールジアミン誘導体は1種のみを用いても2種以上を併用

テトラアリールジアミン研導体を正孔柱入輸送服等の正孔柱入柱および/または また近日の 本発明の有機EL素子は、式()のグマリン誘導体を発光層に、 輸送性の層に用いたものである。

素子1には、これらの各層4~6、8、9ねよび電極3、7を観う封止層10が は、基板2上に、隔極3,正孔注入輸送層4、発光層5、電子注入輸送層6、陰 本発明の有機を1乗子の構成例を図1に示す。周図に示される有機を1乗子1 基板2個から発光光を取り出すものである。そして、基板2と 投げられており、これら全体がガラス基板2と一体化されたケーシング11中に ルター膜 8 および蛍光変換フィルター膜 8 が設けられている。さらに、有機EL 陽極3との間には、発光色をコントロールするために、基板2朝からカラーフィ 配置されている。また、対止闘10とケーシング11との関には気体あるいは数 和毎で基板2等と接合することができる。気体あるいは液体12としては乾燥空 ーシング11の材質はガラスやアルミニウム等とすればよく、光硬化性樹脂接着 気、N2、Arなどの不活性気体、フロン系化合物などの不活性液体や吸湿剤等 体12が完集されている。対止層10はテフロン等の機能で形成されており、 が用いられる。

発光層は、正孔(ホール) および電子の注入機能、それらの輸送機能、正孔と 電子の再結合により励起子を生成させる機能を有する。発光層にはバイボール ■子およびホールに安定な化合物で、かつ蛍光強度の強い化合物を用いること

電子輸送の各機能の高さを考慮し、必要に応じて設けられる。例えば、発光層に 用いる化合物の正孔往入輸送機能または電子注入輸送機能が高い場合には、正孔 注入輸送層または電子注入輸送層を設けずに、発光層が正孔注入輸送園または電 始送暦および電子注入輸送届のいずれも投げなくてよい。また、正孔注入輸送層 子往入始送船を兼ねる構成とすることができる。また、場合によっては正孔往入 および電子注入輸送層は、それぞれにおいて、注入機能を持つ層と輸送機能を持 つ層とに別個に使けてもよい。

発光層の厚さ、正孔往入輸送層の厚さおよび電子往入輸送層の厚さは特に限定 されず、形成方法によっても異なるが、通常、5~100個程度、特に10~ 200mとすることが好ましい。

正孔注入輸送層の厚さおよび電子注入輸送層の厚さは、再結合・発光頻映の設 計によるが、発光層の厚さと同程度もしくは1/10~10倍程度とすればよい • 電子もしくは正孔の、各々の注入層と輸送層を分ける場合は、注入層は 軸以 の上限は、通常、注入層で1000m程度、輸送層で100m程度である。この 上、輸送層は2 One以上とするのが好ましい。このときの注入層、輸送層の厚さ ような膜厚については注入輸送層を2層設けるときも同じである。

また、組み合わせる発光層や電子注入始送層や正孔注入始送層のキャリア移動 度やキャリア密度(イオン化ポテンシャル・電子観和力により決まる)を考慮し 、膜厚をコントロールすることで、再結合質域・発光領域を自由に設計すること が可能であり、発光色の設計や、阿電極の光の干渉効果による発光輝度・発光ス ペクトルの制御や、発光の空間分布の制御を可能にでき、所留の色純度や楽子や

効率な業子を得ることができる。

は、陰低からの電子の注入を容易にする機能、電子を安定に輸送する機能および

される正孔や電子を閉じ込めさせて正孔や電子の密度を増大させて再結合確立を

向上させ、阿話合領域を最適化させ、発光効率を改善する。正孔注入輸送層およ

び電子注入輸送層は、発光層に用いる化合物の正孔注入、正孔輸送、電子注入、

正孔の輸送を低下させる機能を有するものであり、これらの層は、発光層へ注入

好ましい。正孔柱入軸送層は、陽極からの正孔の注入を容易にする機能、正孔を

安定に輸送する機能および電子の輸送を低下させる機能を有し、電子注入輸送服

式(1)のクマリン誘導体は、高い蛍光強度をもつ化合物なので発光層に用いる ことが好ましい化合物であり、発光層におけるその合有量は0. 0 st 以以上 さらには1. OmiK以上であることが好ましい。

本発明において、発光層には式()のクマリン誘導体のほかの蛍光物質を用い ることができ、こうした蛍光物質としては、例えば、特関昭63-264692

(8 - キノリノラ トアルミニウム傷の 8 - キノリノールないしその誘導体を配位 トリス 子とする金属組体色素などのキノリン研得体、テトラフェニルブタジエン、アン トラセン、ペリレン、ゴロネン、12-フタロペリノン誘導体等が挙げられる。 さらには、特闘平8-12600号のフェニルアントラセン誘導体、特闘平8-母公報に聞示されているような化合物、例えばキナクリドン、ルブレン、スチリ ル来色素等の化合物から選択される少なくとも1種が挙げられる。また、 12969号のテトラアリールエテン誘導体質も挙げられる。

さらには0. 1~6mixであることが好ましい。ホスト材料と組み合わ せて使用することによって、ホスト材料の発光波長特性を変化させることができ スト材料と組み合わせて使用することが好ましく、ドーバントとしての使用が好 ましい。このような場合の発光層におけるクマリン誘導体の合有量は0.01~ 、長波長に移行した発光が可能になるとともに、来子の発光効率や安定性が向上 他に、式(1)のクマリン誘導体はホスト材料、体にそれ自体で発光が可能な水 1 Orts.

実際には、要求される算度・寿命・勧動電圧によりドーブ遺度を決めればよく 、1mis以上では、高輝度な来子が得られ、1. Gis以上 Gwis以下では高輝度

ナト金属組体、特にアルミニウム組体が好ましい。このときの8-キノリノール 好ましく、さらには8-キノリノールないしその誘導体を配位子とするキノリノ キノコン配導体が の誘導体は、8 -キノリノールにハロゲン原子やアルキル基等が値換したもの、ペンゼン蝦が協合したものなどである。このようなアルミニウム組体としては、 でかつ駆動電圧上昇が小さく、発光券命の長い来子が得られる。 式(1)のクマリン誘導体をドーブするホスト材料としては、

号、仲間平5-258859号、仲間平6-215874号等に関示されている -8-キノリノラト) 崩免、ピ (8-キノリノラト) アルミニウム、ピス (8-キ -70733 ものを挙げることができる。これらの化合物は電子輸送性のホスト材料である。 開昭63-264692号、韓国平3-255190号、韓国平5 ノリノラト) マグネシウム、ピス (ペンゾー(1) 具体的には、まず、トリス

リノラト) インジウム、トリス (6-メチル-8-キノリノラト) アルミニウム ム、ピス(5-クロロ-8-キノリノラト)カルシウム、5、7-ジクロル-8 、8-キノリノラトリチウム、トリス(5-クロロ-8-キノリノラト)ガリウ ーキノリノラトアルミニウム、トリス(5.7-ジブロモ-8-ヒドロキシキノリノラト)アルミニウム、ポリ [亜鉛(1) -ピス(8-ヒドロキシ-5-キノ (2ーメチルー8ーキノリノラト) アルミニウムオキシド、トリス (8ーキノ リニル メタン]、苺がある。

チルフェブラト) アルミニウム(III)、ピス (2-メチル-8-キノリノラト)(2,6-ジメチルフェノラ <math>) アルミニウム(III)、ピス(2-メチル-8-キノ)8-キノリノラト) (メタークレゾラト) アルミニウム(III)、ピス (2-メチル-8-キノリノラト) (バラ-クレゾラト) アルミニウム(III)、ピス(2-メ リノラト)(3, 4ージメチルフェノラ トアルミニウム(III), ピス (2ーメチル ピス(2ーメチルー8ーキノリノラり (メターフェニルフェノラト) アルミニウ -8-キノリノラト) (3, 5-ジメチルフェノラト) アルミニウム(111), ピ また、8-キノリノールないしその誘導体のほかに他の配位子を有するアルミ キノリノラト) (フェノラト) アルミニウム(111)、ピス (2-メチル-8-キ ム(111)、ピス (2-メチル-8-キノリノラト) (パラ-フェニルフェノラト ス (2-メチル-8-キノリノラト) (3, 5-ジ- tert-ブチルフェノラト) チルー8ーキノリノラト (オルトーフェニルフェノラト) アルミニウム!!!)、 ノリノラト) (オルトークレゾラト) アルミニウム(!!!)、ピス (2ーメチルー ) アルミニウム(III)、ピス (2-メチル-8-キノリノラト) (2, 3-ジメ アルミニウム(III)、ピス (2 - メチル-8 - キノリノラト) (2, 6 - ジフェ ニウム組体であってもよく、このようなものとしては、ピス(2 — メチルー 8

ニルフェノラト)アルミニウム(III)、ピス(2ーメチルー8ーキノリノラト) (2 5. 6ーテトラメチルフェノラト) アルミニウム 3. 6ートリメチルフェノラト) アルミニウム(!!!)、ピス (2-メチル-8 ミニウム(111)、ピス (2-メチル-8-キノリノラト)(2,

1098/08360

ンリノラト) (2ーナフトラト) アルミニウム(III) 毎かある。 このほか、ピス (2ーメチル-8ーキノリノラト) アルミニウム(III) -u-オキソーピス (2ーメチル-8ーキノリノラト) アルミニウム(III) . ピス (2ーメチル-8ーキノリノラト) アルミニウム(III) . ピス (4ーエチル-2 - メチル-8ーキノリノラト) アルミニウム(III) . ピス (4ーエチルー2ーメチル-8ーキノリノラト) アルミニウム(III) . ピス (2ーメチル-4ーメトキシキノリノラト) アルミニウム(III) . ピス (2ーメチル-4ーメトキシキノリノラト) アルミニウム(III) . ピス (5ーンアノー2ーメチル-8ーキノリノラト) アルミニウム(III) . ピス (5ーンアノー2ーメチル-8ーキノリノラト) アルミニウム(III) -u-オキソーピス (5ーンアノー2ーメチル-8ーキノリノラト) アルミニウム(III) -u-オキソーピス (5ーンアノー5ートリフルオ

これらのなかでも、本発明では、特にトリス(8 - キノリノラト)アルミニウムを用いることが好ましい。

このほかのホスト材料としては、樟蘭平8-12600号に配載のフェニルアントラセン誘導体や梅頭平8-12969号に配載のテトラアリールエテン誘導体なども舒ましい。

フェニルアントラセン誘導体は、下記式 (V) で表されるものである。

지 (V)

 $A^{l}-L^{l}-A^{2} \tag{V}$ 

式 (V) において、A<sup>1</sup>およびA<sup>2</sup>は、各々モノフェニルアントリル基またはジフェニルアントリル基を表し、これらは同一でも異なるものであってもよい。

A1、A2で扱されるモノフェニルアントリル基またはジフェニルアントリル基は、無置核でも置換基を有するものであってもよく、置換基を有する場合の置換基としては、アルキル基、アリール基、アルコキシ基、アリーロキシ基、アミン 基等が挙げられ、これらの置換基はさらに置換されていてもよい。また、このような置換基の置換位置は特に限定されないが、アントラセン類ではなく、アントラセン類に結合したフェニル基であることが好ましい。また、アントラセン類におらフェニル基の結合位置はアントラセン類の9位、10位であることが好ま

式(V)において、Liは単結合またはアリーレン絡を表す。Liで摂されるアリーレン絡としては、無面換であることが好ましく、具体的にはフェニレン絡、ピフェニレン路、アントリレン結偽の適信のアリーレン絡の他、2個ないしそれ以上のアリーレン絡が直接道結したものが挙げられる。Liとしては、単語合、p-フェニレン格、4、4、-ビフェニレン絡等が好ましい。

また、L「で扱されるアリーレン結は、2個ないしそれ以上のアリーレン基がアルキレン基、-〇-、-S-または-NR-が介在して連絡するものであって

もよい。ここで、Rはアルキル基またはアリール基を表す。アルキル基としてはメチル基、エチル基等が挙げられ、アリール基としてはフェニル基等が挙げられ。 る。なかでも、アリール基が好ましく、上配のフェニル基のほか、A1、A2であ

ルー6-トリフルオロメチル-8-キノリノラ Bアルミニウム(III) 等であって

-キノリノラト) アルミニウム(111)

ロメチルー8

- 4-オキソービス(2

ってもよく、さらにはフェニル基にA<sup>1</sup>またはA<sup>2</sup>が微検したものであってもよい また、テトラアリールエテン研導体は下配式VI)で表されるものである。 。また、アルキレン基としてはメチレン基、エチレン基等が好ましい。

$$\begin{pmatrix} A_{1}^{1} & A_{1}^{2} \\ A_{1}^{3} & A_{2} \\ A_{1}^{3} & A_{2}^{3} \end{pmatrix}$$

$$(V1)$$

式 (VI) において、Arl、Ar2およびAr3は、各々芳香放残基を摂し、 れらは同一でも異なるものであってもよい。

Arl~Ar3で表される方香放残益としては、方香族政化水楽道アリール基) 芳香族根素類基が挙げられる。芳香族政化水来基としては、単環もしくは多類 の芳香族数化水溶基であってよく、紹合環や環集合も合まれる。芳香族数化水素 い。最終基を有する場合の置後基としては、アルキル基、アリール基、アルコキ 例えばフェニル基、アルキルフェニル基、アルコキシフェニル基、アリールフェ 二ル基、アリーロキシフェニル基、アミノフェニル基、ピフェニル基、ナフチル 基は、総段素数が6~30のものが好ましく、価値基を有するものであってもよ シ基、アリーロキシ基、アミノ基等が挙げられる。芳香族政化水衆基としては、 様、アントリル様、ピアニル雄、ベリフニル権などが挙げられる。

また、芳香族複素類基としては、ヘテロ原子としてO、N、Sを含むものが好 ましく、5負頭であっても6員頭であってもよい。具体的には、チエニル基、フ アローリテ雄、アンジテ雄などが辞むられる。 J. 1.4

Arl~Ar3で表される芳香族基としては、特にフェニル基が好ましい。

彼エーテルまたは芳香族アミンから観得される2~6倍、他に2~4倍の残益で Litn価の芳香族残益を表すが、梅に芳香族政化水素、芳香族投棄環、芳香 あることが好ましい。これらの芳香放残基は、さらに置銭基を有するものであ nは2~6の警教であり、他に2~4の整数であることが好ましい。 てもよいが、無償機のものが好ましい。

(VI)の化合物は基の組合せ等によって電子輸送性あるいは正孔輪 以(<)

送柱のホスト材料となりうる。

わせるものとする(権) 少なくとも一種以上の正孔柱入輸送性化合物と少なくとも **最合層における式(1)のクマリン誘導体の含有量は、0.01~204%、さらに** 1種以上の電子往入側送性化合物との混合層とすることも好ましく、この混合層 式(1)のクマリン誘導体を用いる発光層としては、上配のホスト材料と組み合 中に式(!) の化合物をドーパントとして含有させることが好ましい。このような は0. 1~15misとすることが好ましい。

性的に優勢な物質中を移動し、逆の価性のキャリア注入は起こりにくくなるので、混合する各化合物をキャリアに対して安定な化合物とすることで、有機化合物 **設合層では、両キャリアのホッピング伝導パスができるため、各キャリアは極** がダメージを受けにくくなり、妻子寿命がのびるという利点があるが、3D)のクマリン誘導体をこのような混合層に合有させることにより、キャリアに対して 安定なまま起台層自体のもつ発光放長を変化させることができ、発光放長を主に 長波長に移行させることができるとともに、発光強度を高め、かつ楽子の安定性 が向上する。

体、N、N' - ピス (-3-メチルフェニル) - N、N' -ジフェニル-4, 4' -ジアミノピフェニル、N, N' -ピス (-3-ピフェニル) - N, N' -ジフェニル・N, N' -ビス (-4-t-ブチフェニル・A, 4' -ジアミノピフェニル、N, N' -ピス (-4-t-ブチ 々、後記の正孔注入輸送層等用の化合物および電子注入輸送層等用の化合物の中 ンを用いることが好ましく、具体的には式 (1) のテトラアリールジアミン誘導 最合層に用いられる正孔在入軸送性化合物および電子在入軸送性化合物は、各 から選択すればよい。なかでも、正孔住入輸送性化合物としては芳香族三級アミ

ミン、N、N、N・一チトラキス (-3-ピフェニル) -1, 1' -ピフェニル-4, 4' -ジアミン、N、N・-ジフェニル-N、N' -ピス- (-4' - (N-3 (メチルフェニル) -N-フェニル) アミノピフェニルー4ーイル ルフェニル) -N, N' -ジフェニル-1, 1' -ピフェニル-4, 4' -ジア EP0650955A1 (対応検閲平7-43564号) 毎に配載の化合物が時 )ペンジンなど、梅園昭63-295695号、梅園平5-234681号、

T098/08360

電子往入輸送性化合物としては、キノリン防導体、さらには8-キノリノールな いしその誘導体を配位子とする金属組体、特にトリス(8-キノリノラト)アル げられ、なかでも式 01) のテトラアリールジアミン誘導体が好ましい。また、 ミニウムを用いることが好ましい。

この場合の混合比は、キャリア密度、キャリア移動度により混合比を決めるこ 99~99/1. さらには20/80~80/20、特には30/70~70/30程度となるようにすることが好ましい。ただし、業子における材料の組合せ とが好ましい。正孔注入輸送性化合物/電子注入輸送性化合物の重量比が、1/ によってはこの制限は受けない。

は6倍以上、より好ましくは10倍以上になるものである。一方電子注入輸送性化合物とは、同様に構成した単層膜楽子を用いて正孔(ホール)と電子の電液密 母ましくは6倍以上、より好ましくは10倍以上になるものである。なお、上紀 と陽径の町に設けた単層膜素子を用い、正孔(ホール)と電子の電液密度を測定 したとき、正孔の電液密度が電子の電液密度に比べ2倍を超えるもの、好ましく ここで、正孔柱入仲送性化合物とは、1 4程度のこの化合物の単層膜を散極 度を測定したとき、電子の電流密度が正孔の電流密度に比べ2倍を超えるもの。 で用いる陰優および陽循は、実際に用いるものと同一のものである。

また、混合脂の厚さは、分子脂一層に相当する厚みから、有機化合物脂の機厚 未満とすることが好ましく、具体的には 1 ~8 5mとすることが好ましく、さら には5~6 0cm、竹には5~5 0cmとすることが好ましい。

なお、上記のような配合層においては、式(1)のクマリン誘導体のほか、式 **(||11|)のキナクリドン化合物または式(N)のスチリル系アミン化合物をドー** 

ントとして用いることができる。この場合のドーブ雪は式(1)のク

存し回接である。

(38)

式 (III) について説明すると、式 (III) 中、R<sub>21</sub>およびR<sub>22</sub>は水楽原子、ア これらは同一でも異なるものであってもよい . R21、R22で表されるアルキル基としては、炭素数1~5のものが好ましく、 間換基を有していてもよい。具体的には、メチル基、エチル基、プロピル基、 ルキル基またはアリール基を扱し、 チル基等が挙げられる。 R21、R22で表されるアリール基としては、電検基を有していてもよく、総段 素数1~30のものが好ましく、具体的にはフェニル基、トリル基、ジフェニル アミノフェニル基等が挙げられる。

これらの具体図として R21. R22のところのものと同様のものを挙げることができる。 1 およびu であるとき、階接する $R_{23}$ 岡士、 $R_{24}$ 岡士は互いに結合して頭を形成してもよく は各々0または1~4の整数であり、0であることが好ましい。t, uが2以上 このような現としてはベンゼン環、ナフタレン環等の炭素環が挙げられる。 R23. R24は各々アルキル基またはアリール基を投し、

式 (!!!) のキナクリドン化合物の具体例を以下に示す。具体例は下配式 [[| 5-位の位置を示し、これらにさらに紹合ペンゼン環がつく場合の位置がわかる 8)のR51毎の組合せで示している。また、四端の都合ペンゼン環には1-位~ ようにされている。

. (33)

(IIIa)

വ

Ę.

굓.

R<sub>23</sub> ଟ

R32およびR33は各々水楽原子、アリール基またはアルケニル基を摂し、これ を投す。R31で扱されるアリール基としては置彼基を有するものであってもよく 式(IV)について説明すると、式(V)中、R3Jは水楽賦子またはアリール基 総段素数6~30のものが好ましく、例えばフェニル基等が挙げれられる。

らは同一でも異なるものであってもよい。

£

몺

 $R_{21}$ 

化合物

Š

このような場合式 (V) で示される化合物から誘導される一価の基同士が、それ R33、R33で扱されるアリール基としては置換基を有するものであってもよく ントリル基等が挙げられ、置換基としてはアリールアミノ基、アリールアミノア 総段素数6~10のものが好ましい。具体的にはフェニル基、ナフチル基、7 リール基等が好ましい。また置換基にはスチリル基が含まれることも好ましく、 自体でまたは遊粨基を介して結合したような構造であることも好ましい。

もにスチリル基を形成していることが好ましく、このような場合、式 W) で示 R31、R34で扱されるアルケニル基としては個検基を有するものであってもよ される化合物から誘導される一部の基同士が、それ自体でまたは遺話基を介して く、総段破数2~50のものが好ましく、ピニル基的が挙げられ、ピニル基とと 話合したような構造であることも好ましい。

R34はアリールアミノ基またはアリールアミノアリール基を扱し、これらには

I

I

かトリル

かトリル

<u>1</u>-1

-C.H

4 d

-C<sub>3</sub>H<sub>7</sub>

-C3H,

₹=

**ポン**ー

**=**-5

-P

9-≅

-C'H

-C2H5

=-3

-CH₃

=-5

-CH3

I

İ

₽

I

I

テートリル

サンジル

₽-

I

I

アトリル

P-トリル

6-

スチリル基を含んでいてもよく、このような場合、上配の同じく、式 以) で示 される化合物から誘導される一価の基岡士がそれ自体でまたは連結基を介して結 合したような構造であることも好ましい。

2,3-縮合

2,3-福合

I

I

11-12

ババ

メング

これらの化合動は公知の方法、例えば米国特所第2821529号、関第28 21530号、関第2844484号、関第2844485号等によって合成で

き、市販品を用いることもできる。

Ì

2,3-結合 メン

2,3-福台

±CH3-

-CH3

ベジ

I

I

-N(Ph)2

-N(Ph)2

III-10

式(IV)のスチリル系アミン化合物の具体例を以下に示す。

<u>√</u>.6

これらの化合物は公知の方法、例えばトリフェニルアミン誘導体をWitti B反応させる、あるいはNi(O)組体を用いてハロゲン化トリフェニルアミン 誘導体を(ホモ・ヘテロ)カップリングさせることによって合成でき、市販品を 用いることもできる。 なお、超合層におけるドーパントは、1種のみを用いても、2種以上を併用し

てもよい。

**碇合層の形成方法としては、異なる基準数より素発させる共業者が好ましいが、蒸気圧(蒸発温度)が同程度あるいは非常に近い場合には、予め同じ業者ボー** 

正孔往入輸送層を2層以上扱けるときも同様である

と被層域の関係については、

このような後層類とすることによって、駆動電圧が低下し、電液リークの発生

**ド内で配合させておき、蒸着することもできる。配合層は化合物同士が均一に取合している方が好ましいが、場合によっては、化合物が島状に存在するものであってもよい。発光層は、一般的には、有機蛍光的質を煮着するか、あるいは溶験として直接スピンコート等するか、あるいは増脂パインダー中に分数させてコーティングすることにより、発光層を所定の厚さに形成する。** 

本発明では、少なくとも1層の正孔柱入性および/または韓送柱の層、すなわち正孔柱入籍送層、正孔柱入間、正孔輪送層のうちの少なくとも1層を投げ、移に発光層が混合層タイプでない場合、少なくとも1層に近川のテトラアリールジアミン誘導体を含着させる。このような層中の近川)のテトラアリールジアミン誘導体を含着させる。このような層中の近川)のテトラアリールジアミン誘導体を含着させる。このような層中の近川)のテトラアリールジアミン誘導体を含着させる。このような層中の近川)のテトラアリールジアミン誘導体を含着になってもファリールジアミン誘導体と併用できる正孔柱入柱および/または韓送柱の層用の化合物としては、6個昭63-295695号公績、特閣中2-191694円の代令物としては、6個昭63-295695号公績、特閣中2-191694円が各族三般アミン・ヒドラゾン誘導体、カルバゾール誘導体、トリアゾール誘導体、イミダゾール誘導体、アミノ基を有するオキサジアゾール誘導体、ボリテオフェン等が挙げられる。これらの化合物は2個以上を混合して用いてもよく、また観磨して用いることができる。なお、混合層タイプの発光層と組み合わせる場合、必ずしも式(1)のテトラアリールジアミン誘導体に限定されず広く用いることができるが、楽子の設計によっては発光層に開接する正孔も送層や正孔韓送層に、混合層に用いた正孔往入韓送性化合物を用いることが

やダークスポットの発生・成長を防ぐことができる。また、業子化する場合、基準を用いているので 1~ 1 Oma徴度の海い敷も、均一かつピンホールフリーとすることができるため、正孔注入層にイオン化ポテンシャルが小さく、可視部に吸収をもつような化合物を用いても、発光色の色質変化や再吸収による効率の低下を防ぐことができる。

式(II)のテトラアリールジアミン誘導体は、一般に発光層側の層に用いることが好ましい。

本発明では、電子柱入性および/または輸送性の層として電子柱入輸送層を設けてもよい。電子柱入輸送層には、トリス(8-キノリノラト)アルミニウム等の8-キノリノールなしいその誘導体を配位子とする有機金属値体などのキノリン誘導体、オキサジアゾール誘導体、ペリレン誘導体、ピリジン誘導体、ニーナリンが関係、エフェール・ピリジン誘導体、コーナリンが関係、エフェール・ピリジン誘導体、コーナリン誘導体、コール・フェニル・フン誘導体、コートロ電像フルオレン誘導体等を用いることができる。電子柱入輸送層は発光層を兼ねたものであってもよく、このような場合はトリス(8-キノリノラト)アルミニウム等を使用することが好ましい。電子柱入輸送層の形成は発光層と同様に蒸着等によれば用することが好ましい。電子柱入輸送層の形成は発光層と同様に蒸着等によれば

電子注入倫送層を電子注入層と電子輸送層とに分けて設局する場合は、電子注入修送層用の化合物のなかから好ましい組合せを選択して用いることができる。 このとき、除透倒から電子銀和力の値の大きい化合物の層の順に観層することが

好ましいこともある。

正孔柱入輪送層を正孔柱入層と正孔輪送層とに分けて設層する場合は、正孔柱入棒送層用の化合物のなかから好ましい組合せを選択して用いることができる。このとき、陽道(スズドープ酸化インジウム:1下〇等)部からイオン化ポテンシャルの小さい化合物の層の頃に視層することが好ましく、陽道に接して正孔柱入層、発光層に接して正孔輪送層を設けることが好ましい。また陽道装面には解膜性の食好な化合物を用いることが好ましい。このようなイオン化ポテンシャル

好ましく、破極に扱して電子注入層、発光層に接して電子輸送層を設けることが 好ましい。電子銀和力と後層顔との関係については電子注入輸送層を2層以上設けるときも同様である。

本発明では、上記の発光層や正孔在入替送層や電子在入替送層などのような有機化合物層に、一重項数素クエンチャーとして知られているような化合物を合有させてもよい。このようなクエンチャーとしては、ルプレンやニッケル組体、ジフェニルイソベンゾフラン、三級アミン等が挙げられる。

ウム毎を守ることができる。なお、ルブレンに限らず、電子規和力が正孔注入権 この場合のルブレンの使用量は式(1)のテトラアリールジアミン誘導体等の芳 送性化合物よりも低く、電子注入と正孔注入に対して安定な化合物であれば同様 等の中の化合物を電子注入から守ることができる。さらには、再結合模域をトリ ス(8-キノリノラト)アルミニウムのような電子注入始送性化合物を合有する 暦中の界面近傍から芳香族三級アミンのような正孔注入輸送性化合物を含有する 層中の界面近傍にずらすことで正孔柱入からトリス(8ーキノリラト)アルミニ については、EP065095A1 (対応传版平7-43564号) 毎の記載を **参照することができる。ルブレンを正孔倫送服等に合有させることで正孔倫送暦** ラアリールジアミン既単体毎の芳香族三数アミンとルブレンとの併用は好ましく 春族三般アミンの 0. 1~2 Orisであることが好ましい。 このようなルブレン 特に正孔往入輸送層、正孔注入層あるいは正孔輸送層において、 に用いることができる。

あることが好ましい。 協셾の厚さは10~1000m程度とすることが好ましい 本発明において、監循には、仕事関数の小さい材料、例えば、Li、Na、M 8、A1、A8、Inあるいはこれらの1種以上を含む合金を用いることが好ま しい。また、陰極は結晶粒が細かいことが好ましく、特に、アモルファス状態で 。また、電極形成の最後にAIや、フッ楽化合物を蒸落、スパックすることで封

有機EL果子を面発光させるためには、少なくとも一方の電値が透明ないし半 透明である必要があり、上記したように陰極の材料には制限があるので、好まし

開催の厚さは10~500mg度とすることが好ましい。また、来子の信頼性を 向上させるために駆動電圧が低いことが必要であるが、好ましいものとして10 くは発光光の透過率が80%以上となるように陽極の材料および厚さを決定する **一パントセドープしたポリピロールなどを疑惑に用いることが好ましい。また、** ~30囚/cm2±たは10囚/cm2以下 (通信0、1~10囚/cm2) の1TO ことが好ましい。具体的には、例えば、1T〇 (スズドーブ酸化インジウム) 120 (風色ドーブ製化インジウム) 、SnO<sub>2</sub>、N1、Au、Pt. Pd.

の多重反射による光干渉効果が、高い光取り出し効率、高い色純度を満足できる ように1丁〇の膜厚、光学定数を設計してやればよい。またディスプレイのよう 草み10~300m)な挙げられる。実際には、110回非国と極島衛国での光 な大きいデバイスにおいては、1T0の抵抗が大きくなるのでA1尊の配象をし

ガラスや樹脂等の透明ないし半透明材料を用いる。また、基板には、図示のよう に、カラーフィルター駅や蛍光物質を含む蛍光変換フィルター膜、あるいは研覧 基板材料に特に制限はないが、図示例では基板側から発光光を取り出すため、 体反射膜を用いて発光色をコントロールしてもよい。

なお、基板に不透明な材料を用いる場合には、図1に示される機構順序を逆に してもよい。

入ば線 (λmax 4 9 0~5 5 0am)、青 (λmax 4 4 0~4 9 0am)、琮 (λmax 本発明では、発光層に式(1)の種々のクマリン誘導体を用いることによって例 580~660m) の発光を得ることができ、特に Amix 480~640mの発 光を好ましく得ることができる。

このときの縁、青、赤のC1E色度座標は、好ましくは現行CRTの色純度と 同等以上またはNTSC保障の色質度と同等であればよい。 上記の色度座標は一般的な色度数定機で刻定することができる。本発明ではト プコン社製の刻定機BM-7、SR-1などを用いて刻定している。

本発明における好ましいAmass、CIE色度座像のx、y値の発光は、カラー フィルタ一膜や蛍光瓷換フィルタ一眼などを設けることによって得てもよい。

。このときカットする光は緑の場合56 Cm以上の波長の光および48 Cm以下 の波長の光であり、青の場合 4 9 Che以上の波長の光であり、赤の場合 5 8 Che カラーフィルター膜には、核晶ディスプレイ等で用いられているカラーフィル ターを用いてもよいが、有機ELの発光する光に合わせてカラーフィルターの特 いることが好ましく、これにより素子の耐光性・表示のコントラストも向上する 性を順整し、取り出し効率・色質度を最適化すればよい。また、EL素子材料や **蛍光変換層が光吸収するような短波長の光をカットできるカラーフィルターを用** 

以下の放長の光である。このようなカラーフィルターを用いることにより、C1 E色度度保において好ましいx、y値が得られる。カラーフィルター膜の厚さは 0. 5~20 m程度とすればよい。

また、誘電体多層膜のような光学質膜を用いてカラーフィルターの代わりにし

世光変換フィルター膜は、EL発光を吸収し、蛍光変換膜中の蛍光体から光を放出させることで発光色の色変換を行うものであるが、パインダー、蛍光材料、

光吸収材料の三つから形成される。 組光材料は、基本的には蛍光量子収率が高いものを用いればよく、EL発光数 最成に吸収が強いことが過ましい。具体的には蛍光スペクトルの発光循大数量 A Batが緑の場合 4 9 0 ~ 5 5 0na、胃の場合 4 4 0 ~ 4 8 0na、赤の場合 5 8 0 ~ 6 4 0naであり、 Amax付近のスペクトルの半値幅がいずれの場合にも 1 0 ~ 1 0 0naである蛍光も質が好ましい。実際には、レーザー用色楽などが適しており、ローダミン系化合も、ペリレン系化合も、シアニン系化合も、フクロシアニン系化合・(サブフタロシアニン等も合む)、ナフタロイミド系化合も、箱合類 炭化水素系化合も、箱合複素類系化合も、スチリル系化合物等を用いればよい。 パインダーは基本的に蛍光を消光しないような材料を強くばよく、フォトリン グラフィー、印刷等で設置なパターニングができるようなものが好ましい。また 1 TOの成膜時にダメージを受けないような材料が好ましい。また

光吸収材料は、蛍光材料の光吸収が足りない場合に用いるが、必要のない場合は用いなくてもよい。また、光吸収材料は、蛍光材料の蛍光を消光しないような

また、カラーフィルター膜や蛍光変換フィルター膜の上には保護膜を設けることが好ましい。保護膜の材質はガラス、樹脂等であってよく、フィルター膜のダメージが防止でき、後工程での問題が配きないような材料を選択すればよく、その厚さは1~10 44程度である。保護膜を設けることにより、フィルター膜のダメージを防止でき、装面をフラット化でき、照折率や膜厚の調整、光取り出し効率の向上等を図ることができる。

これらのカラーフィルター膜、蛍光変換フィルター膜、保護膜の材料は、市販品をそのまま用いることができ、これらの臓は熱布法、電解重合法、気相成長法(基準、スパッタ、CVD) 巻によって形成することができる。

次に、本発明の有機を上業子の製造方法を収明する。

※に、ナムジンガルニボ・シュニバー・バン・・ 陰極および陽極は、蒸着法やスパッタ法等の気相成長法により形成することが

好ましい。

正孔柱入輸送層、発光層および電子柱入輸送層の形成には、均質な毎膜が形成できることから真空蒸溜法を用いることが好ましい。真空蒸溜法を用いた場合、アモルファス状態または結晶粒径が0.1.4以下(通信、下限値は0.001m程度である。)の均質な潜襲が得られる。結晶粒径が0.1.4を超えていると、不均一な発光となり、桌子の配動電圧を高くしたければならなくなり、電荷の注入効率も着しく低下する。

其空素者の条件は特に限定されないが、 $10^{-3}Pa$  ( $10^{-5}Torr$ ) 以下の真空度とし、素着速度は0.001-Ins/sec程度とすることが好ましい。また、真空中で連続して各層を形成することが好ましい。其空中で連続して形成すれば、

各層の界面に不純物が吸着することを防げるため、高特性が得られる。また、 子の駆動電圧を低くすることができる。

このような蛍光変換フィルター用いることによって、CIE色度座標において

ななを超くばよい。

好ましい×、y値が得られる。また、蛍光変換フィルター膜の厚さは0.5~2

本発明では図示例のようにカラーフィルター膜と蛍光姿換フィルター膜とを併用してもよく、好ましくは発光光を取り出す側に特定放長の光をカットするよう

0 μ=程度とすればよい。

なカラーフィルター膜を配置すればよい。

よりたがある。 これら名画の形成に真空蒸着法を用いる場合において、1層に複数の化合物を 合有させる場合、化合物を入れた各ボートを個別に温度怠抑して共蒸着すること が好ましいが、予め混合してから蒸着してもよい。またこの他、苗族塾布法(ス ピンコート、ディップ、キャスト等)、ラングミュア・プロジェット(LB)法 などを用いることもできる。 苺液熱布法では、ポリマー等のマトリクス制質中に 1098/08360

は2種以上の発光組を発光させることが可能な有機を1素子を構成することがで 層を設け、2層以上の発光層をパイポーラ型発光層向士の組合せ、パイポーラ型 発光層とこれより陽極側の正孔輸送性の発光層との組合せ、バイボーラ型発光層 以上においては、単一色発光の有機EL業子について述べてきたが、本発明で きる。このような有機EL素子では、バイボーラ型発光層を含む2層以上の発光 とこれより险価値の電子輸送性の発光層との組合せのいずれかとするものである ことで、バイボーラ型発光層は、発光層内での電子住入・輸送とホール住入・ 輸送が同じ程度あり、電子とホールが発光層全体に分布することで再結合ポイン トおよび発光ポイントが発光層内全体に拡がっている発光層である。

さらに説明すると電子輸送性層から注入される電子による電流密度とホール輪 送住層から往入されるホールによる電流密度が同程度のオーダー、すなわち阿キ ャリアの電流密度の比が1/10~10/1、好ましくは1/6~6/1、より 好ましくは1/2~2/1である発光層である。

この場合の両キャリアの電流密度の比は、具体的には、実際に使用するものと 国じ島径を用い、発光層の単層数を 1 ta程度の厚さに成成し、この観光密度の 質定価から求めればよい。

のであり、電子輸送性のものは、電子の電流密度がバイボーラ型より高いもので 一方、正孔輪送性の発光層は、ホールの電流密度がパイポーラ型よりも高いも

さらに、パイポーラ型発光層を主体にして説明する。

子については電子注入される発光層界面での電子の障壁の大きさ(電子載和力の の大きさ(イオン化ポテンシャルの盤)で決まる。また、キャリア移動度は発光 他)で決まり、ホールについてはホール在入される発光層界面でのホールの障壁 すなわち、発光層でのキャリア密度は、各界面での障壁で決まる。例えば、1 一般には電液密度はキャリア濃度とキャリア移動度の積で決まる。 層に用いる材料の循鎖で決まる。

これらの値により、発光層内の電子とホールの分布が決まり、発光傾峨も決ま

移動度が十分大きければ上記のように界面の障壁だけで問題は片ずくが、電子輪 送性類・ホール輸送性類に有機化合物を用いた場合、発光層に対してキャリア物 送性層の輸送能力が不十分になるため、発光層のキャリア遺度はキャリア生入電 エネルギーレベル)にも依存する。このため、発光層への各キャリア単微密度は 実際には、電極・電子輸送性層・ホール輸送性層でのキャリア濃度・キャリア 極のエネルギーレベルとキャリア始送性間のキャリア倫送性(キャリア移動度・ 、用いる各層の有機化合物の特性に大きく依存する。

ここで比較的単純な場合を用いてさらに説明する。

**ら発光層への電子に対する障壁が侮しい時もしくは、非常に近い値<0.2V)** アの移動度が等しければ、発光層内で再結合がキャリアの突き抜けがない場合 例えば、陽路/ホール輸送性層/発光層/電子輸送性層/陰極の構成において この場合ホール輸送性層から発光層へのホールに対する障礙と電子輸送性層か 効率的に記こり高輝度・高効率な業子が得られる。しかしながら、電子とホール リアの障壁(>0. 2 e V)等がある場合は、発光徴収が拡がらず、複数の異な 子道度とホール道度は毎しいか非常に近い遺度となる。ここで発光層の各キャリ の衝突確率が高く局所的な傾岐で開結合が起こる場合や、発光層内に大きなキャ る発光放長の発光分子を同時に発光させることができなくなるので、バイポーラ であれば発光層への各キャリア注入量は同程度となり、発光層各界面近傍での電 発光層界面での各キャリア輸送性層でのキャリア密度が一定の場合を考える。 発光層には向かない。適当な電子とホールの衝突確率を持たせて再結合規

頃を狭めるような大きなキャリアの障礙のない発光層を作ることがバイポーラ型 発光層には必要である。

る。さらにこのような観節は、複数層の発光層を持つ構成においては、それぞれのプロック層が再節合ポイントおよび発光ポイントとなり、複数の発光層を発光 また、発光層からの各キャリアの突き抜けを防止するため、ホール輸送性層の 君子 ブロック機能や電子輸送性層のホールブロック機能も効率の向上に有効であ

(23)

させるバイボーラ型発光層を設計する上で重要である。

**輸送性層でのキャリア密度を関整することで、上記のような単純な場合と同様な** パイポーラ型発光層と同様な状態を形成できる。当然発光層でのキャリア移動度 次に発光器内での各キャリア移動度が異なる場合、発光器非面での各キャリア の低い方のキャリア往入性脂界面のキャリア濃度を高めてやらねばならない。

発光層内での各キャリア移動度を調整することで上記のような単純な場合と同様 さらに、発光層界面での各キャリア輸送性層でのキャリア密度が異なる場合、 なパイポーラ型先光層と同様な状態を形成できる。

**ただし、調整には服界があり、理想的には発光層の各キャリア移動度と各キャ** リア濃度が毎しいか、ほぼ同程度であることが鉛ましい。

上記のようなバイボーラ型発光層を扱けることで、複数の発光層を持つ発光素 子が得られるが、各発光層の発光安定性を得るには、発光層を、物理的・化学的 ・電気化学的・光化学的に安定化しなければならない。

特に発光層は、電子の注入・輸送、ホールの注入・輸送、再結合、発光などの 機能が要求されるが、特に電子・ホールの注入輸送する状態は、アニオンラジカ ル・カチオンラジカルもしくは、それに近い状態に相当し、有機固体薄膜材料に 対してこのような電気化学的状態での安定性が要求される。

電気的に蛍光発光させることである。すなわち、固体脊膜中で蛍光を失活させる ような劣化物が微量でも生成すると発光券命は数命的に短くなり、実用に耐えな また、有機ELの原理は電気的分子励起状態からの光放出による失活であり、

東子の兄光安定性を得るには上記のような安定性を持つ化合物・素子構成、特

てもよい。

したかって、本発明におけるパイポーラ型発光層としては、斑合層タイプのも 2層以上の発光層のうち少なくとも1層にはドーパントがドープされていること が好ましく、さらに好ましくはすべての発光層にドーバントがドープされている のが好ましく、2層以上の発光層はすべて混合層であることが好ましい。また、 ことである。

ピングじた発光層を2層以上とするものである。ドーピングした発光層の組合せ ドーパントをドープした配合 としては、混合層同士、混合層とこれより陽極側に設けられた正孔輪送柱の発光 層および/または陰極側に設けられた電子輸送性の発光層であり、長寿命化を図 **開タイプの発光層のほかに、さらにドーパントをドーブした発光層を設け、ドー** 本発明の好ましい表子構成について説明すると、 特に混合層向土の組合せが好ましい。 る上では、

この場合の混合層は、前記と同様に、正孔注入輸送性化合物と電子注入輸送性 化合物とを合有する層であり、これらの配合物をホスト材料として用いたもので ある。また正孔仙送性の発光層は正孔在入仙送性化合物を、電子輸送性の発光層 は電子注入輸送性化合物を各々ホスト材料として用いたものである。

次に、このような特に好ましい有機EL素子における発光過程について税明す

電子注入性および/または輸送性の層(「電子間」と略す)側の混合層を混合第 2届とすると、正孔層から往入された正孔(ホール)は混合第1層を通過し混合 まず、起合層同士の組合せ、例えば混合層が2層の場合を説明する。正孔注 入性および/または輸送性の層(「正孔層」と略す)側の混合層を混合第1間、

れぞれのホストから、最も近い発光値にエネルギー移動する。 虚合第1層で生成 された励起子はこの層中の発光値(ドーパント)へ、混合類 2層ではこの層中の 率によって決まるが、再結合領域は混合第1、第2層、界面等の障壁がないので 電子層から注入された電子は混合類 2層を選過し混合類 1層へと進む 広く分散する。したがって、混合第1、第2層でそれぞれ励起子が生成され、そ ことが可能である。再結合確単は電子遺皮、ホール遺皮および電子ホール衝突機

いが、一つの化合物で、パイポーラ型発光層を形成するのは綴しい。より簡優な

上記の条件を全て満足するような化合物等を用いて発光層を形成してやればよ

に電気化学的に安定な化合物・来子様成を持つことが必要である。

合語とすることで安定なパイポーラ型発光層を得ることができる。また、蛍光性 力法として、各キャリアに安定なホール輸送性化合物と電子輸送性化合物との超

を強めることで高厚度とするために組合層に高蛍光性ドーバントをドーピングし

1098/08360

発光器(ドーバント)へエネルギー移動することにより、2種の発光程が発光可能になっている。

このような現象は混合層が3層以上であっても同様である。 ただし、ドーバントがキャリアトラップとして働く場合、トラップの扱さを考 慮する必要がある。 高する必要がある。 ii)次に、正孔輪送性の発光層と混合発光層の組合せについて、例えば正孔層観から正孔韓送性の発光層、混合発光層の順に2層段けた場合を説明する。正孔層から往入されたもから在入された電子間から往入された電子は、混合発光層中を進み、正孔輸送性の発光層を通過し、電子層から往入された電子は、混合発光層中で、それぞれが200年の発光層を通過し、電子層から在入された電子が200年では200年である。正孔輪送性の解の非面近傍で生成された砂粒子のマイグレーションできる範囲にあるエネルギーギャップの一番小さい発光確にエタルギー移動する。この際正孔輸送性の層の界面近傍で生成された砂粒子はこの層中の発光程(ドーパント)へ、混合層ではこの層中の発光程(ドーパント)へ、混合層ではこの層中の発光程(ドーパント)へ、混合層ではこの層中の発光程(ドーパント)へ、混合層ではこの層中の発光程(ドーパント)、正孔輸送性の層のドーパント」と指の発光程が発光であっまた。正孔輸送性の層のドーパント」と描の発光程が発光ではなっている。また、正孔輸送性の層のドーパント」UMO準位において電子が連ばれ、正孔輸送性発光性をし発光することで2種の発光が可能になる。

よび組合発光層中で、それぞれ配起子が生成され、それぞれのホストから、配起子のマイグレーションギャップの一様小さい発光機にエネルギー移動する。この版、電子輸送性の発光層界面で生成された励起子はこの層中の発光機(ドーパント)へ、組合発光層ではこの層中の発光機(ドーパント)へエネルギー移動すること、または電子輸送柱の層のドーパントHOMO単位においてホールが通ばれこと、または電子輸送柱の層のドーパントHOMO単位においてホールが通ばれ

電子輸送性発光層中で再結合することにより、2種の発光程が発光可能になっ

T1.5.

ii)、III) については、これらの組合せ、あるいはこれらにおいて発光層を3層以上としたときも同様の現象が促きる。

配合層におけるホスト材料としての正孔柱入輸送性化合物と電子柱入輸送性化合物との混合比は目的とするホストのキャリア輸送性によって変化させればよく、通常体積比で5/95~95/5の範囲のなかから選択される。正孔柱入輸送性化合物比率の高い場合にはホール輸送量が多く再結合領域は陽極側にシフトしてシフトする。それに伴って混合層の発光強度のパランスが変化する。このように、混合層型ホストのキャリア輸送性を変えることにより各発光層での発光強度を変えることができる。

また、本発明では、ホスト材料の種類を変えることによってもキャリア輸送性

を変えることができる。

このように本発明で、2層以上の発光器の発光特性をそれぞれの層について調整可能とすることができる。したがって、発光層のキャリア輸送性と構成を最適にすることができる。このとき、一層に2種以上の発光程があってもよい。

このような多色発光に対応した発光層の1層当たりの厚さは5~10 6m、さらには10~8 0mであることが好ましく、発光層の合計厚さは6 0~4 0 0mであることが好ましい。なお、混合層1層当たりの厚さは5~10 0m、さらには10~6 0mであることが好ましい。

このように複数の発光特性の異なる発光層を設ける場合、発光極大波長が長波

長側の発光層を陽極側に設けることが好ましい。また、長寿命化を図る上ではド

**一パントとしてルブレン等のナフタセン骨格を有する化合物を発光層(特に混合層)にドーブすることが好ましい。** 

次に、このような多色発光に対応した有機を1歳子に用いるホスト材料およびドーパントについて説明する。ドーパントとしては、すでに述べた式(1)で示されるクマリン誘導体、式(11)で示されるキナクリドン化合物、式(11)で

(26)

(65)

きる。式 (VII) について説明する。式 VII) には前配のルブレンも包含される を用いることができる。このほか、前記の発光材料となりうる化合物も用いるこ 示されるスチリル系アミン化合物、ルブレン等のナフタセン骨格を有する化合物 とができる。さらには、式(VII)で示される館合多項化合物を用いることがで

 $\Xi$ 

Arは芳香族残基を表し、mは2~8の整数であり、 々のArは関一でも異なるものであってもよい。 (A1) =-L 式 (VII) において.

芳香族政化水素残益としては、ベンゼン娘を合む政化水業基のいずれであっても よく、例えば単環もしくは多環の芳香族苡化水素残益が挙げられ、縮合環や環集 方香族残益としては、芳香族政化水泉残益、芳香族投泉環残基が挙げられる。 合も含まれる。

ルコキシ基、アリール基、アリールオキシ基、アミノ基、複楽顕基等が挙げられ る。芳香族政化水素残基としては、フェニル基、アルキルフェニル基、アルコキ シフェニル基、アリールフェニル基、アリールオキシフェニル基、アルケニルフ エニル基、アミノフェニル基、ナフチル基、アントリル基、ピレニル基、ベリレ ニル基などが挙げられる。また、アルキニルアレーン(アリールアルキン)から 芳香族政化水素残基は、総炭果数が6~30のものが好ましく、置機基を有す るものであってもよい。 冒険基を有する場合の置換基としては、アルキル基、ア 誘導されるアリールアルキニル基であってもよい。

Sを含むものが好ましく 5 眞頭でも6 眞頭でもよい。具体的には、チエニル基、フリル基、ピローリル 労者拡複素環接基としてはヘテロ原子としてO.N. 様、アリジル組などが発げられる。 Arとしては、芳香族段化水素残器が好ましく、特に、フェニル基、アルキル

(n, i, neo) - ヘキ これらのアルキル基のフェニル基における個 倏位置はo, m, p位のいずれであってもよい。このようなアルキルフェニル基 4-n-ブチルフェニル基、 i, sec, (n, 1, neo, tert) -ペンチル林、 の具体倒としては、(o, m, p) -トリル林、 - 1 - ブチルフェニル基、母が挙げられる。 ープロピル為、 シル基等のアルキル基が挙げられ、 (n, ±)

く、このようなフェニル基は世換されていてもよく、このときの世換基はアルキ ル基であることが好ましく、具体的には上記のアルキルフェニル基のところで例 示したアルキル基を挙げることができる。さらには、アリール部分は、フェニル 基等のアリール基が置換したフェニル基であってもよい。このようなアリールフ アリールフェニル基としては、アリール部分がフェニル基であるものが好まし ェニル基の具体例としては、 (o, m, p) ーピフェニリル基、4ートリルフェ テレフェニリル基等が挙げられる。 二ル基、3-トリルフェニル基、

アルケニルフェニル基としては、アルケニル部分の総段素数が2~20のもの が好ましく、アルケニル基としてはトリアリールアルケニル基が好ましく、例え ばトリフェニルどニジ娘、トリトリルピニブ娘、トリピンェニルピニデ婦婦女婦 げられる。このようなアルケニルフェニル基の具体例としては、トリフェニルビ ニルフェニル基格が挙げられる。

アミノフェニル基としては、アミノ部分がジアリールアミノ基であるものが好 フェニルトリルアミノ 基等が挙げられる。このようなアミノフェニル基の具体例としては、ジフェニル アミノフェニル基、フェニルトリルアミノフェニル基毎が挙げられる。 ましく、アリールアミノ基としてはジフェニルアミノ基、

アリールアルキニル基としては、総段素数8~20のものが好ましく、フェニ ナフチル基としては、1-ナフチル基、2-ナフチル基毎であってよい。

各、ジフェニルアミノフェニルエチニル基、N-フェニルトリルアミノフェニル ピフェニリルエチニル為、ナフチルエチニル エチニル基、フェニルプロピニル基等が挙げられる。 ルエチニル基、トリルエチニル基、

> アルキルフェニル基としては、アルキル部分の設策数が1~10のものが好ま しく、アルキル基は直倒状であっても分枝を有するものであってもよく、メチル

フェニル基、アリールフェニル基、アルケニルフェニル基、 ナフチル基、アリールアルキニル基等が好ましい。

また、式(VII)におけるLは頭数3~10、好ましくは3~6の縮合多環券

各族のm(2~8)価の残基を投す。縮合類とは、類の構成原子のうち 2個以上の原子が他の環と共省して結合している炭素環や複巣環などにより形成された機式構造をいう。縮合多類芳香族としては、縮合多類芳香族炭化水素、縮合多類芳香族投棄器が挙げられる。

宿台多環芳香族反化水器としては、アントラセン、フェナントレン、ナフタセン、ピレン、クリセン、トリフェニレン、ペンン[c]フェナントレン、ペンン(a)アントライン、ペンン、(a)アントラセン、ペンテラセン、ツベンン(a)ナンタセン、ヘキサセン、アンタントレンなどが挙げられる。 協合多環芳香族技業類としては、ナフト [2, 1-f]インキノリン、aーナ 超合多環芳香族技業類としては、ナフト [2, 1-f]インキノリン、aーナ

個合多環芳香族投票限としては、ナフト [2, 1-f] インキノリン、αーナフタフェナントリジン、フェナントロオキサゾール、キノリノ [6, 5-f] キノリン、ペンゾ [b] チオファントレン、ペンゾ [8] チオファントレン、ペンゾ [1] チオファントレン、ペンゾ [1] チオファントレン、ペンゾ [1] チオファントレン、ペング [1] チオファントレン、ペング [2] チオファントロン・ペング [2] チオファントラキノンなどが挙げられる。

**怜には、宿台多環芳香族数化水素が好ましく、しはこれらの宿台多環芳香族数化水素から誘導される2~8価、さらには2~6価の残益であることが好ましい** 

このような協合多環芳香族の2~8価の残益1の具体例を以下に示す。

なお、1で没される結合多環芳香族の2~8価の残基は、さらに置換基を有していてもよい。 やに、1としては、ペンゼン環が直鎖状に絡合したナフタセン、ペンタセンサ

わけナフタセンから誘導されるもの、すなわちナフタセン骨格を有する化合物を たはヘキサセンから胡ゆされる2~8価、特に2~6価の残益が好ましい。とり 構成するものが好ましい。

のようなしであって、2個のA rがアリールアルキニル基、1個のA rがピス (アリールアルキニル) アントリル基であるものが好ましく、特には式 MI-A であるとき、2個または3個存在するArのうち、少なくとも1個はアルキニルアレーン (アリールアルキン) から誘導される残器である。さらには、Arのう また、しとしてはアントラセンから誘導される2~6価、さらには2~4価の 残基が好ましい。ただし、しかアントラセンから誘導される2または3価の残差 ち2個以上がこのような残益であることが好ましい。そして、特には1はアント ラセンから誘導される3価の残基が好ましく、式 们1)の化合物としては、 )で扱されるものが好ましい。

ールアルキニル基を扱し、これらは通常同一であるが、異なっていてもよい。なお、アリールアルキニル基のアントラセンにおける結合位置は、アントラセンの9。10位であることが好ましく、アントラセン同士は1位または2位で結合することが好ましい。また、アリールアルキニル基は具体的には前記と同様のもの れらは通常同一であるが、異なっていてもよい。AriiおよびArigは各々アリ  $(Ar_{11})$  2-L1-L2-  $(Ar_{12})$  2 (YII-A) 式中、L1およびL2は各々アントラセンから誘導される 3 価の残基を表し、こ な神げられる。

定されるものではない。ここでは、式 fill-1) ~ (VII-8) を用いて、これ、 以下に、式・(VIII)で設される化合物の具体例を示すが、本発明はこれらに限 SR<sub>01</sub>等の組み合わせで示している。なお、R<sub>01</sub>∼R<sub>04</sub>等のようにまとめて示し ているものについては、特にことわらないかぎり、Hであることを示し、すべて HであるときはHで示している。

化合物 No.	R <sub>01</sub> -R <sub>04</sub>	70¢ R <sub>05</sub>	д. 8	Ras Ro7-Ro10 Ro11	Po G	11 Ro12
Ξ	I	かいニエピア・エ	I	I	I	m-ビフェニリル
1.2	I	ひとてフェニリル	I	r	I	0-ビフェニリル
<del>1.</del> 3	I	4-n-ブチルフェニル	I	·I	I	4-n-ブチルフェニル
4	I	44-ブチルフェニル	I	I	I	4-1-ブチルフェニル
<del>1</del> -5	I	サビフェニリル	I	I	I	かピフェニリル
1-6	I	£ 2 £	I	I	I	
1-7	I	A P	I	I	r	J. f.
4-8	Ī	Ą.	I	I	I	æ
6-	I	2-ナフチル	I	I	I	2-ナフチル
1-10	Ι.	कु र	I	I	I	Ę.
1-11	Ť	1・ナフチル	I	I	I	1・ナフチル
1-12	I	m- 1-13.1L	I	I	I	m - ኮህル
1-13	I	0- FUN	I	I	I	0- FUIL
1-14	I	p- + U.A.	I	I	I	p - F 51
1-15	I	£ C	I	I	I	£ >>

£ £ -NPh2 -CEC-Ph H -CEC-Ph -CEC-Ph -CaC-Ph R<sub>012</sub> H -CEC-T CECT £ H -CEC-H CEC-Ro7~Ro10 Ro1; 둡 r I I r I I I I I I I 튑 **8** I I -NPh2 I I I I -NPh2 -C≡C-Ph -CHC-Ph -cac 든 -CEC--CECæ, -C≡C-Ro1-Ro4 I. I I I I I I I I 化合物 1-20 1-22 1-23 1-24 1-21 1:19 Š 1-18 1-16 1-17

(99)

(65)

ደ

R<sub>012</sub>

g ë

Ro7-Ro13

Œ.

(tath Ro1-Ro

1-36

ፎ

된

1-37

	化合物 No.	Rezi	R <sub>621</sub> -R <sub>926</sub> R <sub>925</sub> -R <sub>927</sub> R	Raz3-Rus1	1 Raz-Ras
·	2-1	I	R <sub>026</sub> =0-ピフェニリル	I	Ross=0-ピフェニリル
	2-5	I	Roze=m-ピフェニリル	I	R <sub>o33</sub> =m・ピフェニリル
	2-3	I	R <sub>026</sub> =4-n-ブチルフェニル	I	R <sub>033</sub> =4-n-ブチルフェニル
	5.4	. I	R <sub>028</sub> =m-トリル	I	Rass=m·トリル
	2.5	I	Rozs=Rozz=m・ピフェニリル	I	R <sub>032</sub> =R <sub>034</sub> =m・ピフェニリル
	2-6	I	R <sub>025</sub> =R <sub>027</sub> =4-n-ブチルフェニル	I	Rasz=Rasa=4-n-ブチルフェニル
٠	2-7	I	Roze=アピフェニリル	I	Ross=p-ピフェニリル
	5-8	I	Rozs=Roz7=P-ピフェニル	I	R <sub>032</sub> =R <sub>034</sub> =p・ビフェニリル
	<b>5-9</b> .	I	Rozs=Rozz=Ph	I	R <sub>o32</sub> =R <sub>034</sub> ≖Ph
	2-10	I	R <sub>025</sub> =R <sub>027</sub> =m- F U J	I	R <sub>032</sub> =R <sub>034</sub> =m-トリル
	2-11	I	R <sub>025</sub> =R <sub>027</sub> =	I	Rosz=Ros4=
	•		CH <sub>3</sub>	3	Ros≡Ros=
	2-12	<b>L</b> .	CH <sub>3</sub>	<b>C</b>	CH <sub>2</sub>
	2-13	I	Rozs	I	Ross= Ph
			a.		£
•	2-14	I.	Roze= Ph	I,	Row- N CH,
				<b>n</b>	
	2-15	ı	Roze=1.ナフチル	I	Rass=1-ナフチル
	2-16	I	Roze=2-17FIL	I	R <sub>033</sub> =2・ナフチル

I

I

I

문

145

P<sub>623</sub>

Ross Ans

Poz

P<sub>030</sub>,

R07=R010-Ph H

1-43 Rc1=Ro4=Ph H

1-42 Rc1=Ro4=Ph

<u>4</u> I

1. 54 I

1-39

1-38

I

Ī

윤

<u>e</u>

1-44 Real Ro

(67)

Ra2-Ro34

Roza-Ross

Ro25-R027

A021-A024

化合物

ġ

H Ross--CEC-Ph

H Roze--Cac-Ph

2-17

H Rose-CEC-

2-18

H R<sub>033</sub>=-C#C-

, Ę

H Ross -- CEC-

H Roze=-CEC-

2-19

F

H R033=--CEC-

H Roze -- CEC-

2-20

H Ross - CEC-

H Roze=-CEC-

2-21

H Rozz-Ross-Cac-

H Ross=Ros7=-CEC-

2-24

È,

H Russ#Rase -CEC-

, z, ę

H R<sub>025</sub> R<sub>027</sub>=

2-25

듄

H R032=R034=

H R025=R027=

2-28

-C≡C-

H R<sub>032</sub>=R<sub>034</sub>= --C2C-

H R<sub>26</sub>=R<sub>27</sub>=

2-27

H Raz=Ras--CEC-

H ResaResym-Cac-

2-22

H Ross=Ros7-CSC-

2-23

H RazaRana-CEC

3

ĆĦ³ Ğ. F. £, R<sub>053</sub>=R<sub>056</sub>=m-ピフェニリル R053=R056=P-K712Ui Ross=4-n-ブチルフェニル Ross-Rose Ross=Ross=m· h y JL Ross=m-ピフェニリル Ross=P-ビフェニリル Ross=0-ピフェニリル Ross=1-ナフチル Ross=2-77FIL Ross=Rose=Ph R<sub>0SS</sub>=m-トリル Ross=Ross=\_= Rossa-Rose  $R_{055}=$ R<sub>055</sub>= Ro43-R032 I I I I I I I Ċ. H S. HJ Ro45=Ro48=m·ピフェニリル Ross=Ross=P-K71=11.1 Ross=4-0-ブチルフェニル Ross=Ross=m- h U Ju Rote=m-ピフェニリル Ross=P-ピフェニリル Ross-Rose R040=2-77FIL Rose=1-ナフチル Ross=Ross=Ph R046≖m-トリル Ro45=R048= Ro45=R048= . Po¥6 Ross= (L合物 Ro41~Ro44 I I I I I. I 3-16 3-15 3-10 3-12 3-13 3-1 3-14 3-5 3-8 3-3 3-6 ٠<del>.</del> 3-2 4-4 3-7

R<sub>053</sub>=R<sub>056</sub>=C=0-Ph R<sub>053</sub>=R<sub>055</sub>=-C⊞C--Pn R<sub>055</sub>= -c=c-Ph  $R_{053} \sim R_{056}$ R049-R052 I I I R045=R047=-CEC-Pn R045=R048=--CEC--Ph R046= -CSC-Ph R045-R048 R041~R044 I I I 3-18 3-19 3-20 ġ

Ross Ross Ross Ross (VII - 4

化合物	R <sub>87</sub>	Ross-Rose
<u> </u>	3	Record Carlo
. 51	<b>.</b>	
£.3	I	Rest = Rose CEC - CHS
4	I	Ph CH <sub>3</sub> R <sub>061</sub> = R <sub>068</sub> = -C≅C-
<b>4</b> .5	I	Ros: = Ross = -CEC
9	r	Ph Rog1 = Rogs = -C#C Ph
7.4	I.	Roes = Roes = -CEC CH3
. <b>6</b> 0	r	Ross = Ross = -CEC P
<b>4</b> .	. <b>エ</b>	Ross = Ross = -CEC-Ph
4.10	I	R <sub>ub1</sub> = R <sub>066</sub> = -C≡C - n - C <sub>4</sub> H <sub>9</sub>
<b>4·1</b>	r	Ross = Ross = -CEC
4.12	· I	Host = Roan = -CRC

Roe1 = Ros6 = -- CEC-Ph Rog1 = Rog6 = -CEC-Rose-Rose 化合物 훈 5.1

5-12

(42)

ドーパントのドーブ量は、発光層の0. 01~10体観%であることが好まし

Œ

10-4

( VII - 10 )

一方、発光層に用いるホスト材料としては、前配のホスト材料、正孔柱入輸送 性化合物、電子注入輸送性化合物として列挙したもののなかから選択することが つきる。

正孔住入軸送性化合物である正孔輪送性のホスト材料としては、式 10)で示されるテトラアリールジアミン誘導体を含む芳香族三級アミンが好ましいものと

以下に、前記の化合物に包含ないし重複するものがあるが、正孔輪送柱のホスト材料を列挙する。ここでは、式  $(H-1) \sim (H-12)$  に従う $\phi_1$ 等の組合せで示している。なお、式  $(H-6a) \sim (H-6c)$ 、式  $(H-7a) \sim (H-7a)$  ーフe)では組合せが共通であるため、H-6、H-7としてまとめて示してい して挙げられる。

											•••	1tl	·• <u>•</u>
£	三五五二	同た	画	可在	回在	而 杯	屈	画	画	四人	回在	国无	μη <i>λ</i> ;
4	四次	河	同左	画	回在	国产	阿左	回	周杰	四州	巨机	画	回左
ı <sub></sub>	Æ	ターピンチニリル	47ェニリル	アピフェニリル	ua de la			2-ナフチル	S CH3	LS S Ph	S S		Y Z
化合物	H-1-1	H-1-2	. H-1-3	H-1-4	1:-1-5	H-1-6	H-1-7	H-1-8	H-1-H	H-1-10	H-1-11	H-1-12	H-i-13

可左

用在

可左

司左

€ 照 格

回在

配訊

H-1-17

H-1-16

H-1-16

H-1-14

H-1-16

回在

西在

可在

回在

回光

阿托

H-1-25 H-:-26

H-1-23

重石

阿尼

回允

巨爪

区所

回杆

回杠

可在

四

可在

回在

**迪**托

回在

回在

	ě	回在	豆竹	į	된 된	画	画	4	田	可在	阿左	回在	更 加	阿左	同在		回在	同在
	ě	P.	のピフェニリル	1	MCコエンコーM	アインドニシル		E .			1-ナフチル	2-ナフチル	S CH3	AS S Ph	TY Y			N
	ø	0		ē	드	구 6	中區	i	부 @	1. E	匠	山丘	五配	五日	ᄪ		년 년	工庫
(H-2)	化合物	H-2-1	H-2-2		H-2-13	H-2-4	H-2-5		F-2-6	H-2-7	F-2-8	H-2-9	H-2-10	H-2-11	H-2-12		H-2-13	H-2-:4
	Ф	国在	阿东	同左	周左		可在		国好	国社	<b>河</b> 杯		回在	国在	同左	回在	光画	
	$\Phi_{2}$	回左	巨机	国左	画		间左	mーピフェニリル	豆	可在	四在		回	西在	周左	區	超	
	Φ1	-(Ph)2		na S	4 (Ph)₂			mーピフェニリル									E N	<b>&gt;</b>

H-1-22

H-1-21

H-1-19 H-1-20

(80

•		•									•			
1	e	医	画杯	阿州	匣杯	匣	I	ዝ <i>ላ</i> ር	ህ አ H	J.H. 41.0	I	<b>Ξ</b>	F H	Ph2 11
-	6	同左	画	画加	阿加	西	Æ	ルピフェニリル	〒-ピフェニッル H	かピフェニリル	1-ナフチル	2-ナフチル	-NPR	- NPh
	<b>*</b>	间左	距杆	配材	國	西村	I	л.	<b>z</b> .	I	. <b>#</b>	æ.	Ħ	
	Φ	Z(nq) -N-		AS Ph	-N-(Ph) <sub>2</sub>		Ph	4(にエエント	M-ピフェニリル	アピンエニリル	1-ナフチル	2-ナフチル	CHIPPS CHIPPS	-NPh2
	Φ*	$\Diamond$	<u> </u>	鱼	回	中區	七回	<b>프</b>	<u> </u>	<b>로</b> .	區	世	$\Diamond$	
	化合物	F-2-15	H-2-16	H-2-17	H-2-18	H-2-19	H-2-20	F-2-21	H-2-22	H-2-23	H-2-24	H-2-25	H-2-26	H-2-27

節在 回左 · 區 拓 回在 回左 阿林 同社 回杆 回在 回在 新左 国石 四 回社 回左 回在 阿在 回杆 可在 可在 耳杯 配料 回任 回左 同在 固た 固左 可先 回刊 回杯 回在 和左 阿林 기 [편 回左 ルピフェニリル 2-ナフチル かピフェニリル 1-ナフチル 1 同 ゴ回 四 ᄪ 国 **1** 工回 三 中回 山田 <u>니</u> 면 H-2-114 H-2-103 11-2-105 H-2-113 H-2-106 H-2-112 H-2-104 H-2-109 Н-2-111 H-2-108 H-2-110 H-2-107 H-2-101 H-2-102 (H-2)化合物

(E)

C - NPh Ph C - NPh -NPh Ph Ph 更加 一回在 回杆 可在 至 전 I 同公 阿什 回社 回在 回在 【 → NPh<sub>2</sub> 周在 Ph £ ę 阿 -N-(Ph)2 国在 回在 可在 回在 I AS Ph ł. P. £ 五五 부 **윤** . 阿 西上 區 巨 同 H-2-121 H-2-116 -H-2-116 H-2-117 H-2-122 H-2-119 H-2-118 H-2-123 H-2-120 (H-2) 化合物

(82)

回杆 可在 画林 回杯 国红 回在 耳在 回在 回在 回杆 回杆 回在 回纸 回社 可在 可左 買左 可左 画在 かーピフェニリル m-ピフェニリル 1-ナフチル 0-ビフェニリル 2-ナフテル 回回 面上 區 回 風土 H-2-210 H-2-205 H-2-206 H-2-207 H-2-208 H-2-209 F-2-203 Fi-2-204 H-2-211 H-2-213 F-2-203 H-2-212 H-2-214 H-2-201

化合物	* <del>*</del>			
H-2-30 <u>.</u>	Last Ph	回加	可配	
H-2-302	何上 ロビフェニリル	回行	巨	. U
H-2-303	面上 ローゲンェニリル	通	1 1	<u>a</u>
H-2-304	向上 アーピフェニリル	1	H i	Ē
H-2-305	MA THE	E !	<u> </u>	<b>E</b>
H-2-306		ie 슈	画	画
		同在	同开	四

		ē	剛在	画	回左	可在	属	I
		6	巨柏	回	阿布	画	<b>厄</b> 打	£
		6	画机	回机	回杯	回先	西东	н
		<b>3</b>	(Ph)2		A S Ph	-N- (Pn)2		Ph H
	₽		Y S	巨	回	四	五月	中国
(H-2)	化合物	710 G-H	C12-2 11	H-2-216	11-2-217	F-2-218	H-2-219	H-2-220

3

H-2-307

H-2-308 H-2-309

H-2-310

F-2-311

H-2-312

H-2-313

H-2-314

回价

回在

画

面在

回在

回在

回在 回在

国江

西东

画杯

阿在

西芥

回符

回什

回杆

同

1-ナフチル

国土

工厂

回什

阿山

(98)

(85)

(H-2)

化合物

回在

面在

<u>지</u>

H-2-316

回往

回左

-N-(Ph)<sub>2</sub>

H-2-315

Ą

ð

回杆

回先

APh Ph

阿七

H-2-317

回在

N-(Ph)2 固在

戶十

H-2-318

阿什

巨

H-2-319

ፗ

甲甲

H-2-320

- - N- (Ph)2 Ph

**平** 

H-2-321

(H-2)

ď			化合物	9	ð	ő	5	•
· 阳	•		H-2-40.		Æ	西村	可可	阿斯
訊		. *	H-2-402		9-ピンドーリル	豆	五	巨桁
配料			H-2-403	i E	ルーピフェニリル	西村	更初	型在
阿科			H-2-404	<u>'  </u>	アーピフェニッル	画在	画	画在
		·	H-2-405	.1) E	d d	西东	民	臣
阿			H-2-406	-1-  EE		固左	国外	回木
<b>=</b>			H-2-407	프 <u>토</u>	£	五	更	更析
1)2 Ph			H-2-408	1 E	2-ナフチル	可在	画 拓	可范
料			H-2-409	<b>리</b>	LS S CH	画左	阿托	回行
			H-2-410	<u>된</u>	AS S Ph	<b>夏</b> .	西杯	<u>ज़</u> म
五			H-2-411	<u>교</u>	No S	回左	間左	更
<b>厄</b> 和			H-2-412	<u> </u>		回左	阿拉	巨杯
			H-2-413	面上	N N N N N N N N N N N N N N N N N N N	回左	म स्	<b>至</b> 形

風水

可在

ፎ

H-2-324

回任

国任

된

H-2-323

同社

可在

H-2-322

(88)

(87)

道在

回在

同在

£

. **♦** 

完命後

(H-2)

朝

回左

回

可左

드

H-2-416

H-2-415

· H-2-414

叵加

画社

N- (Ph)2 阿在

巨

H-2-417

回机

回

岡左

回

H-2-418

I

P.

I

巨工

H-2-419

化合物 H-2-50.	i C	€ F	⊕ 种	<b>&amp;</b> 前區	<b>⊕</b> 新愿
j	J. H.	- 0-ピフェニリル	画杯	<b>庭</b> 知	回在
	드	m-ピンエニリン	画	<b>庭</b> 所	国
	<b>应</b> 十:	アーピフェニリル	回在	区	阿井
	e E	H-C	同在	画	画
,	된 프		回	画料	<u>声.</u> 怀
	千色		回任	瓸	同符
	<b>되</b>	2-ナフチル	區村	画	豆
	트	ューナフチル	<u></u> 전	回訊	匣
	<u> </u> 떨	S CH3	画訊	画杯	區訊
	用	A S S	阿村	可左	画
	4		面在	回	<u>電</u> 杯
	百十		표	區納	고
	中国	} {	運	可在	回在

部在

逗祈 回左 回社 国社 可先 可左 间在 回杆 回在 回在 可左 同左 回在 S CH3 2-ナフチル m-ピフェニリル か-ピフェニリル **のピフェニリル** 配式 面上 교 四十二 回 면 田山 回日 旦 置上 H-2-607 H-2-603 H-2-606 H-2-606 H-2-612 H-2-604 H-2-610 H-2-60. H-2-609 H-2-611 H-2-602 H-2-603 (H-2)化合物

回社

回

回在

阿左

西加

回在

回左

回杯

回存

画件

H-2-522

匣杆

哑

몺

H-2-521

I

띺

I

回

H-2-520

区

回左

교

回花

回左

同任

臣所

可在

回在

同社

百至

可左

回上

H-2-517

回行

回符

-N-(Ph)<sub>2</sub> 间柱

回山

H-2-518

列在

回紅

可在

国

H-2-619

回訊

回在

可左

e

é

ð

回行

阿什

回在

医局

H-2-516

H-2-515

三元

三九二

軍工

H-2-613

可左

(83)

1098/08360

(H-2)

化合物

(H-2)

<del>o</del>n

国行

回土

H-2-616

H-2-615

H-2-614

化合物

(H-2)

面

H-2-617

1098/08360

單位 回左 回杆 回祈 回布 可在 回在 回花 阿尔 回东 回不 四川 国在 回在 回行 回左 回加 阿尔 回左 司在 可在 **5**77: 国在 回在 五百 更 回社 回左 回花 面在 回右 国社 间析 可在 回左 回东 2-ナフチル 化リニエクソーコ アピフェニリル 可几 工匠 <u> 무</u> 百十二 ᄪ 回 鼠 回北 阿丁 画 百十十 Н-2-701 H-2-704 H-2-705 H-2-702 H-2-710 H-2-706 H-2-707 H-2-703 H-2-708 H-2-709 H-2-711 H-2-713 H-2-712

回杆

I

包

H-2-619

国在 可杯 回仇 匝杆 回在 I 문 四竹 回在 阿什 回行 闰左 돈 可左 可在 回在 -N-(Ph)<sub>2</sub> 固在 먑 ᄕ 围 臣 <u>트</u> 回 原 H-2-715 H-2-716 H-2-719 H-2-714 H-2-717 H-2-718 (H-2)化合物

回在 可在 西在 区 配不 回花 证什 回左 回杆 回在 可在 回左 可充 阿什 回在 2-+7=11 S S S S CH<sub>3</sub> CH<sub>3</sub> ルリニェイン・m ルービフニニリル 中區 匣 甲甲 **贬** 村· 부 中国 回回 干回 H-2-803 H-2-807 H-2-802 Н-2-809 H-2-804 H-2-801 H-2-805 H-2-806 H-2-808 H-2-813 H-2-810 H-2-812 H-2-811

(36)

		· ·		. •			
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						•
,							•
۱ ـ	1 11	N	·		lu		14
ð	<b>厘</b> 和	配	画在	E fr	區	I	阿杯
£	医	巨木	同竹	匠	阿	Ph	輕和
φ.	巨	围	回在	· 宣 和	面本	_ II	<b>三</b> 和
$\Phi_{3}$	-N-(Ph) <sub>2</sub>		ha—S	-N-(Ph)2		L Ph	<b></b>
<b>*</b>		子 国	书 E	- - -	된 .	म	
<del>化</del> 化	H-2-814	H~2-815	H-2-816	H-2-817	H-2-818	H-2-819	H-2-820

三九

可允

同作

国

回左

.1] <u>Ta</u>

H-3-13

回在

阿托

뎞

回析

更

三三

H-3-11

巨紅

可花

亞所

可行

臣竹

国一

H-3-12

回杯 回在 沙回 超和 回杆 回在 回杆 芦花 回红 可先 风木 回杆 回在 可左 回杯 固左 可左 回社 画在 画杯 <u>ョ</u> 자 回杆 回杆 四杆 阿什 宣孙 阿什 剛左 百杯 **直** 17 四九 可存 同左 巨州 间左 回行 可左 <u>回</u> 材 可公司 回杆 回江 アピフェニリル・ m-ピフェニリル マピフェニリル 2-ナフチル .山 医 .니 된 回 1 画 回 브 日本 프 H-3-10 H-3-6 H-3-8 H-3-2 H-3-3 H-9-4 H-3-5 H-3-6 H-3-7 H-3-1

(38)

(H-3)

(93)

(H-3)

**Q** 回在 压杆 呵杯 回在 可在 Ή. H FULL FI CHAN H 回东 田田 回在 巨杆 面和 £ ě 可在 远加 可在 回在 可在 **6** I 可什 更 回在 回 同在 <del>0</del> 딦 同 同 可在 →N-(Ph)2 回在 再左 ÷. I I F. Ph 回上 同人 缸 巨工 三回 H-3-16 H-3-20 H-3-15 H-3-17 H-3-19 H-3-18 H-3-14 化合物

山东 單在 回在 留在 回花 回左 五九 国在 回左 回杆 回行 回在 回 भिदः <u>17</u>7 国行 回在 回在 邱在 可左 两左 <u>同</u> 社 百五 回杆 国社 四任 同在 同态 同点 国杰 阿花 配托 可亿 回行 国社 回在 四加 印任 国际 四在 四在 回花 四左 同在 回在 戶在 區 a 전 回左 岡左 回左 国门 回村 回在 阿芥 耳几 -CH3 原在 回花 可在 回花 回杆 同左 回加加 回在 回在 m-ピフェニリル ルビニェイカーq 2-ナフチル 回回 面上 可可 급 구: 高 画 떨 商村 千里 901-E-H 甲 Н-3-101 -С H-3-103 H-3-105 H-3-102 H-3-109 H-3-110 H-3-104 H-3-112 H-3-107 H-3-108 H-3-111 H-3-113 化合物

(H-3)

(H-3)

回杆 国村 阿左 回在 I 0 国在 阿仁 軍 国外 可在 宣奸 옶 ÷ 阿左 国在 国社 可在 画左 エ 画在 回在 回在 原 什 同在 몺 ě 回在 一面左 回在 回左 N-(Ph)2 同在 I <u>ا</u> 画 工匠 년 기 巨 H-3-114 H-3-116 H-3-115 H-3-117 H-3-119 H-3-118

되 급수 可在 国社 可不 面茶 回花 回在 间左 回杆 団在 回在 <u>₹</u> 国化 司方 回社 回行 再任 回作 五石 区社 **河** 瓦 師左 超六 回汽 單 197c 到在. 回杆 回在 可左 回行 可左 国社 阳龙 回左 间在 巨汗 回在 阿什 同左 回任 回在 阿在 교 同在 四什 三人。 可在 阿左 回打 阿什 回 ē H 可左 回在 回在 面左 可在 アアンエニッド 2-ナフチル .ب. ح <u>-</u> 기 (조 山山 阿二 트 工匠 된 된 阿丁 山田 甲 н-3-201 H-3-204 H-3-209 H-3-203 H-3-210 H-3-205 H-3-206 H-3-212 H-3-202 H-3-208 H-3-213 H-3-207 H-3-211 化合物

(102)

(H-3)

到在 可左 可左 回任 ₽ 回社 I 即左 西在 回左 回在 띺 可在 OID OF 阿什 百千 回州 可在 可在 I 的在 同左 阿左 回左 间左 **6** 됩 回左 画在 -N-(Ph)<sub>2</sub> 固左 -N-(Ph)2 国在 φ̈ I " bu 百十 브 **된** 巨 国 H-3-216 H-3-217 H-3-215 .H-3-214 H-3-219 H-3-218 化合物

証 阿托 可宏 回在 回在 回 回在 되 阿木 回左 国社 回在 可在 回在 <u>ज</u> 回左 司托 画件 風行 可允 11/1 교 豆 區所 距析 三元 回征 回杆 回花 亞东 <u>晒</u> 竹 回杆 回杯 回花 可在 ᄪ 回在 间杆 四左 回在 可在 百六 回行 回行 可什么 回在 阿杯 回州 可在 可在 回左 回左 洹 回左 河左 可在 亞和 鱼红 S CH3 m-ピフェニリル アピフェニリル 2-ナフチル 圆上 4.6 回 百 ᄪ 區 巨 国上 四 Н-3-301 H-3-303 H-3-302 H-3-310 H-3-312 H-3-313 H-3-309 H-3-304 H-3-305 H-3-307 H-3-308 H-3-311 H-3-306

(H-3)

(104)

(H-3)

回杆 ⊕ 国行 回 司力 西 阿林 国 ዊ Ð 阿什 H 画在 间左 阿左 同左 同左 可左 回在 回在 몺 <del>"</del> 可左 西拉 画在 国东 **#**. -N-(Ph)<sub>2</sub> 固在 씸 同 风 1 E 二回 H-3-316 H-3-317 H-3-318 H-3-319 H-3-315 H-3-314

间左 证 回杆 回在 狟祈 回打 同左 可在 面布 回杯 画在 可先 正然 F 12: 间在 回在 回左 可左 回左 回左 面左 阿拉 可左 可在 画左 師在 回台: 면 갂 可左 面先 画柱 豆秆 阿汗 현자 国社 区 回在 **河在** 阿先 回杆 回祈 面件 回左 间だ 回在 町た 四仟 田 回在 回行 可仁 三九 絙拼 回花 区 回行 回統 回行 可任 回在 回在 可在 6-ピンエニリル アピフェニリル 2-ナフチル **⊕** ゴロ 画土 巨 르 田田 1 1 1 ᄪ 기 (년 国上 回日 H-3-408 H-3-410 H-3-413 H-3-403 H-3-401 H-3-402 H-3-411 H-3-412 H-3-406 H-3-407 H-3-405 允合物

(901)

(102)

可左 可在 頭 <del>Q</del> 回社 回在 I 巨加 回在 럾. 可左 阿什 西村 回在 可在 可针 I 西什 回加 回在 面杠 同左 몺 <del>-</del> 回杆 回左 -N-(Ph)<sub>2</sub> 固左 -N-(Pn)<sub>2</sub> 国在 **=** 工 9 £ 回 **冠** 市 巨 트 H-3-416 H-3-418 H-3-419 . H-3-414 H-3-417 化合物

高な 교 国在 回在 回在 区 回行 回左 回在 回花 回在 回仁 回行 可 正 阿尔 面在 門允 回在 回杆 區 쥰 逗 回社 回社 同东 三元 画左 国允 図析 回在 區 回杆 两左 回左 回机 回托 回行 回杆 耳 庶 回杆 回在 屈 回在 回杆 阿尔 虹杆 阿尔 四加 耳花 到 回左 同だ 国在 可在 回左 回在 可左 可在 可在 可仁 可左 国在 即在 アピンエニジル 2-ナフチル <del>0</del> 몺 回 10 되 風上 回上 드 围上 回 巨匠 巨工 더 H-3-606 H-3-512 H-3-502 H-3-503 H-3-506 H-3-507 11-3-508 H-3-610 H-3-501 H-3-504 H-3-509 H-3-511 H-3-613

(107)

(H-3)

化合物

H-4-15 H-4-17 H-4-25 H-4-26 H-4-24 H-4-28 H-4-14 H-4-20 H-4-21 H-4-22 H-4-23 2-+77111 S アピフェニリル H-4-12 H-4-11 H-4-10 H-4-7 H-4-13 H-4-6 H-4-2 H-4-8 H-4-9 H-4-5 H-4-1 **\$** 回杭 回在 可左 国在 回江 몺 I 回杯 回杆 阿尔 国 2 回在 西什 **阿**. 扣 阿什 阿尔 I 딦 更加 阿什 面在 몺 R H 画 面注 同在 -N-(Ph)<sub>2</sub> 间左 -N-(Ph)<sub>2</sub> 固左 똢 I P

回

H-3-519

H-3-518

甲

H-3-517

巨工

H-3-515

同

H-3-616

-C.H.s.

H-5-16

H-5-17

H-5-15

H-5-11

H-5-12

H-5-13

H-5-14

Φ <sup>21</sup>		<u>년</u>	- +   E	平區	匝	.ப <u>.</u>	-14 로	一色	<b>4</b>	구 <b>년</b>	可是	巨	표 (단
Φ <sup>20</sup>	回左	医	固左	回私	百	间左	可在	回本	画	回左	图符	周在	ह्य १४
Ф19	r.	のピフェニリル	m-ピフェニリジ	サービンエニリル				2-ナフチル	LS CH3	A S S S	N= S S		N
<b>六</b> 金数	H-6-1	H-6-2	H- <del>6-</del> 3	H-6-4	1.1-6. 5	H <del>-6</del> -6	H- <del>9-</del> 1	H <del>-6-</del> 8	<del>6-9</del> н	H <del>-6-</del> 10	H-6-11	H-6-12	H <del>-6-</del> 13

6	
I	
天	
$\overline{}$	

-			
化合物	Φ <sub>19</sub>	Φ20	421
H-6-101	Ph	阿左	00
H-6-102	のピフェニリル	距析	<u>된</u>
H-6-103	H-ピンエニリル	阿	中国
H-6-104	がいこまてだ-0	阿	區
H-6-105		回在	画
H-6-106		置所	子姐
H-6-107		阿左	画式
H-6-108	2-ナフチル	更符	니 (E
H-6-109	S CH3	属村	西土
H-6-110	AS S PP	面和	<b>平</b> 國
H-6-111	N= S S	死	7 <b>.</b>
H-6-112		更	프
	1		

三 三

司先

H-6-113

甲

百十二

N (Ph)2

H-6-14

H-6-15 H-6-16

E

H-6-17

교

置訊

H-6-18

빌

I

H-6-19

**W**098/08360

(113)

		Φ19 Φ20	Ph	O-ピフェニリル 回在	m-ピフェニ:リル 阿左	ワーピフェニリル 同左	A PP ME	F. Eft	四年	1
	(H-6)	化合物	H-6-201	H-6-202	H-6-203	H-6-204	H-6-205	H-6-206	H-6-207	
00000										
		Φ20 Φ21		间左间	子间 安间	同左向		同左向上	म्ख भ	
(911)		î <del>o</del>	-N-(Ph)2		A-Ph	-N-(Ph)2			H.	
	(H-6)	化合物	H-6-114	H-6-115	H-6-116	H-6-117		H-6-118	H-6-119	

Ph S H H E 画 可在 固た 可左 配产 阿廷 互杆 H-6-212 H-6-213 H-6-210 H-6-208

化合物	Φ19	<b>Ф</b>	<b>₽</b>
H-6-301	Ph	固在	Ph & S & S
H-6-305	小にニェンソーク	阿	工度
F <del>-6-</del> 303	ローピフェニリル	面和	<u>부</u>
F-6-304	ルビニェイソ-a	瓸枡	子图
H-6-305	na-O-O-O-O-O-O-O-O-O-O-O-O-O-O-O-O-O-O-O	回	<u>ष</u> ि गः
H-6-306		民村	<u>부</u>
H-6-307		同在	甲
H-6-308	2-ナフチル	国先	E T
H-6-309	S CH3	回在	阳
H-6-310	S S Ph	回允	里
H-6-311	N= S S	可定	明.
H-6-312		阿尔	받
H-6-313		開作	고 또

76

回訊

H-6-218

I

H-6-219

비트

河东

H-6-216

H-6-215

H-6-214

化合物

(H-6)

H-6-217

回在

河左

軍

西村

(113)

(611)

3	;	
Ŧ	•	
=	3	

屉

西村

H-6-315

11-6-316

H-6-317

回、

同左

-N-(Ph)2

H-6-314

化合物

(H-6)

H-6-404 H-6-405 H-6-406		间 同 词 回 红 在 在 在	म् स्याप्त
H-6-408	2-+7+11 S S CH <sub>3</sub>	同 同 原 左 左	년 년 년 년
H-6-410 H-6-412 H-6-413		四 同 同 日 女 女	나 <u>의 </u> 보 프

围

X.

H-6-319

· 비 · ©

回杯

H-6-318

W098/08360

(121)

间左

N-(Ph)<sub>2</sub>

H-6-414

化合物

H-6-415

H-6-416

H-6-417

回在

回在

园加

H-6-418

I

H-6-419

The state of the s	ę.	9	更	म	<b>구</b> 년	出	<del>기</del> @	<u>부</u> (6	<u> 구</u> 일	그 @	中	무	三	三
	θ Θ	岡左 (	阿木	面在	五百	国	回在	層 弁	剛左	阿五	回花	可左	बि दः	闹左
	Φ;θ	Ph	タピフェニリル	E-ピフェニリル	4にニエンコーロ				2-ナフテル	CHO-SS COH3	AS S	S S S		N N
	化合物	H-6-501	H-6-502	H-6-503	H-6-504	H-6-505	H <del>-6-</del> 506	H-6-507	H-6-508	F6-609	H-6-510	H-6 51!	H-6-512	H-6-513

Φ10     Φ20     Φ31     (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)				(H-6)
-(Ph) <sub>2</sub> 同在	Φ19	<b>4</b>	Φ31	化合物
	-N-(Ph)2	回科		H-6-601
Ph		瓦	五	H-6-602
トN-(Ph) 同在 阿上 所 田上 H 阿上	W-Ph	间左	ij	E09-9-H
南在 同上 H 回上	4(n4) - N-	回行	- - -	H-6-604
南在 同上 H 岡上				909-9-H
子(m) 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一		厩	平區	90 <b>9-9-H</b>
	Ph	Ħ	干恤	709- <del>0</del> -Н

ローピフェニリル 面在 マピフェニリル 面在 クーピフェニリル 面在 マーナフチル 面在 マーナフチル 画在 会人とよった。 画在 会人とよった。 画在 会人とよった。 画在 会人とよった。 画在 会人とよった。 画在 会人とよった。 画在 高古 風 阿在 西杯 回社 国法 可左 H-6-611 H-6-610 H-6-613 H-6-608 H-6-612 609-9-H

<u>..</u>

년 ---

<u>교</u>

<u>티</u> 고

의 <u>기</u> 다

五郎

国在 回在 即左 同在 **逗** 納 回在 亞杯 西在 回社 国社 サピフェニリル 第-ピンエニリジ のだフェニリル H-6-705 H-6-706 H-6-707 H-6-704 H-6-703 H-6-710 H-6-711 H-6-712 H-6-713 H<del>-6-</del>702 H-6-701

巨

西在

1098/08360

画在

H-6-614

H-6-615

回在

H-6-616

H<del>-6-6</del>17

H-6-619

画上

≥(n-)-N-

H-6-717

H-6-715

H-6-714

H-6-716

阿尔

<del>0</del>

化合物

(9-H)

<u>교</u> 고: 저 1 耳 哥 듔 距往 可在 可在 回左 回在 回行 風在 m-ピフニニリル のピフェニジル Н-6-803 H-6-808 H-6-811 H-6-812 H-6-810 F:-6-813 H-6-806 608-9-H H-6-801 H-6-805 H-6-802 H-6-804 H-6-807

回往

H-6-718

Ξ

H-6-719

						·		
ę	-Q-{		山町	보 E	<u>-1</u>   .	画工	<b>4</b> -€	
Φ <sub>20</sub>		再	可在	回先	阿拉	風和	Ħ	E.
Φ <sup>19</sup>		2(n-) - N - (Ph)2		hd—S	2(Hd) -N-(Ph)2		<b>P</b>	Ph.
化合物		H-6-814	H-6-815	H-6-816	H-6-817	H-6-818	H-6-819	H-6-820

回杆

豆

阿什

回加

-N-(Ph)2 固在

田田

医机

回杆

回在

国

河左

回任

回社

回注

¥5

I

몺

エ

r L

변

(H-7) [H-7a~H-7eにおいて同じ組合せ;以下の(H-7)にて何じ]

(131)

(H-7)

化合物	H-7-14	H-7-15	H-7-16	H-7-17		81-/-H	H-7-19		· .		•			
							'			· ·				
	•	• •												
							•							
e e	阿兹	超在	匣	風	瓦机	西	回机	回	風	四	回左	回社	画在	
<b>ह</b>	画在	超机	瓦村	回在	更	围花	回符	西	軍	画符	阿在	画	更加	
₹ e	回在	題	画符	固在	五	回訊	<u>國</u> 和	回仇	阿和	區	區	更析	阿什	
Φ33	Pr	0-ピフェニリル	ルピフェニリル	カービフェニリル			£	2-ナフチル	A S CH3	Ha S S	S S		NE NE	
Φ23		न @	국 ©	中国	區	图十	ᄪ	기 (조	ij E	·山 屋	<b>백</b> 멸	<b>=</b>	<b>4</b>	
化合物	H-7-1	H-7-2	H-7~3	H-7-4	H-7-5	H-7-6	H-7-7	H-7-8	H-7-9	H-7-10	H-7-11	· H-7-12	H-7-13	

(134)

			•											
			·.			•		nd.	4*1	, tul	ıı	l <b>ü</b>	īн	<u>.u</u>
	Φ36	同在	四	面	更在	国在	用	區	画在	画在	同	巨	臣	F14 /E
·	Φ.3	軍位	画	更	風	画	回休	西村	匠	瓦托	阿	臣	国行	Fd 4:
	ě	国社	画、	宣析	四	同在	四在	画 弦	可在	固左	国在	回	间左	宣
	Φ23	Ph.	れいニェレスー	m-ピフェニリル	p-ピフェニリル	th C			2-ナフチル	CH <sub>3</sub> CH <sub>3</sub>	LS S Ph	S S S		
	$\Phi_{\mathbf{n}}$		부	平區	平區	中间	重	<u>آ</u>		可	프	平區	1 E	표
(H-7)	化合物	H-7-101	H-7-102	F-7-103	H-7-104	H-7-106	H-7-106	H-7-107	H-7-108	H-7-109	H-7-110	H-7-111	H-7-112	H-7-113

(H-7)

φ.	固在	回村	<b>區</b> 和	画在	巨	I
Φιз	国	画	画	画在	區	Ph
Φ21	巨	同左	画	国	回在	x
$\Phi_{\Omega}$	²(ma) − N−(Pn)²		ha—S	C(Hd) -N-(Ph)2		Ph
$\Phi_{\Omega}$		平量	土區	重	<u> 된</u> (전	¥
化合物	H-7-114	H-7-115	H-7-116	H-7-117	H-7-118	H-7-119

回什

西

回左

£

国上

H-7-216

可在

剛在

N-(Ph)₂ 阿左

區上

H-7-217

画

画在

回托

百五十

H-7-218

I

몺

工

£

<u>된</u>

H-7-219

回在

包扣

回知

N-(Ph)2

H-7-214

₽ P 回

可在

同在

田田

H-7-215

(136)

T098/08360

(136)

				•										
	k 1										ш	ıĽ	<b>'</b> ປ	·: 1
	Φ16	同任	围在	配林	更加	豆杯	回	西九	商在	回注	<b>亚</b>	三六	阿左	MA:
	Φ32	回注	剛左	医科	回左	区	回在	互析	画本	固先	四左	西	五石	單位
	ф.	阿东	距升	五江	四村	重用	对证	阿什	国在	回在	司在	區	到在	周点:
	<b>4</b> 23	Ph	のピフェニリル	E-ピンエニリル	かピフェニリル				2-ナフチル	AS S CH3	AS S Ph	LS LS		N N N
	Ф <sub>22</sub>	S	中国	J.)	.பு இ	<u>ह्</u>	구영	.1  <u>E</u>	.11	- 내 · · 宣	구 @	画	를 <b>교</b>	<u>년</u>
(H-7)	化合物	H-7-201	H-7-202	H-7-203	H-7-204	H-7-205	H-7-208	H-7-207	H-7-208	H-7-209	H-7-210	H-7-21.	H-7-212	H-7-213

٠

(137)

(H-7)

同行 回花 回在 回左 回社 回在 尚左 国社 阿托 可加 回在 固在 可行 耳 阿什 国 回在 可在 單左 阿尔 回在 阿什 四左 回在 回杆 **57** ബ/. 可左 回在 回在 可在 配左 同左 可左 国在 间在 间在 S CH3 のとフェニリル ルレニエクユーd 2-ナフチル 百十 四十二 1 田田 百十二 의 토 된 回 回上 표 山口 中国 H-7-302 H-7-307 H-7-310 H-7-301 H-7-304 H-7-308 H-7-309 H-7-303 H-7-305 H-7-306 H-7-311 H-7-312 H-7-313 化合物

(H-7)

回在 可在 可左 回行 阿左 I 阿托 回社 可在 I 回 프 風 區 回 H-7-314 H-7-315 H-7-317 H-7-319 H-7-318

罗回

回竹

国社

N-(Ph)2

回在

回社

回在

司在

回

阿托

围

回在

可左

**回** 寸 回在

回在

回在

巨

젊

I

围

画在

可在

列在

ಕ

回杯

回行

可行

(H-7)

¥098/08360

H-7-416 H-7-417 H-7-419 H-7-415 H-7-414 H-7-418 H-7-420 H-7-421 147 單在 回左 同左 同在 回布 回左 引左 可左 可左 可在 间左 回左 阿左 宣布 阿尔 回在 国作 單 回行 西在 回杆 回在 国在 瓦 宣江 其 耳 ... E 四位 到在 国社 更加 回杠 配件 可加 S S CH3 ルピフェニリル m-ピフェニリル 2-ナフチル のピフェニリル -1| E 1 <u>垣</u> 1 | 1 | 트 .1| E ' | |0 . Li <u>교</u> 山區 H-7-404 H-7-407 H-7-405 H-7-406 H-7-412 H-7-413 H-7-403 H-7-409 H-7-410 H-7-411 H-7-408 H-7-402 H-7-40; 化合物

(H-1)

(141)

(H-7)

化合物

回在

**這** 杯

**ा**री:

H-7-501

					_	
φ,	国在	回杆	阿林	画	面初	I
Φ23	2(Ph)2		A B	Chi)2		Æ
φ n		) E	- 비 때 -	<b>半</b>	工庫	更
化合物	H-7-514	F-7-516	H-7-516	H-7-517	H-7-518	H-7-519
			· :			
			. •			

回左

回在

配在

p-ピフェニリル

구 (1)

H-7-504

回左

回任

中国

H-7-505

阿左 同左

同左

M-ピフェニリン

면

H-7-603

国仁

间左

116ニニンス-0

ᄪ

H-7-502

可仁

区

回在

回左

回往

回在

耳石

和允

可花

甲甲

H-7-512

间花

西左

面左

<u>(교</u> 기

H-7-511

可行

**回** 六

西东

A Ph

国土

H-7-510

回礼

阿左

四十二

2-ナフチル

中国

H-7-608

回在

回托

用用

H-7-507

西 江,

브

H-7-506

阿左

图杆

国社

LS CH3

년 -

H-7-509

**画**存:

司化

回花

三三

H-7-513

回行

回左

(H-1)

.

1098/08360

_
?
'n
÷

												4.*	••1
Å.	画	軍	画在	回 村	画在	画	画	司左	间左	豆	町左	豆	所化
å.	區 拓	风	更所	阿芥	阿左	画	回行	阿在	画花	更	国位	376	GA 先
ě	五百二	回行	配計	可抗	四元	西村	国在	四	国	固在	画	序. 托	国人
Фгз	Ph	んじこことと	m-ビフェニリル	かピフェニリル			æ 🔷	2-ナフチル	S S CH3	AS S Ph	SSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSS		
Φ22		-1 <del> </del>	<b>비</b>	브	<u>부</u> 또	브	<u>부</u>	구 [편	구 <b>년</b>	三	三	正	超
化合物	H-7-60.	H-7-602	H-7-603	H-7-604	H-7-605	H-7-606	H-7-607	H-7-608	Н-7-609	11 7 610	H-7-611	H-7-612	H-7-613

(H-7)

<b>₽</b>
干量
围
A i
¥ 1
王则

可们

四杯

可左

画在

回在

同社

H-7-715

H-7-714

回左

国

H-7-716

间左

耳耳

H-7-71?

回杆

回社

回上

H-7-718

I

田田

H-7-719

(H-7)

七合物

			•								•							
										•						1	•	
					,											٠		·
-				•					•									
<b>r</b> 098/08360		. 1	<b>.</b>	·													•	
		3	可注	回左	回东	配在	回在	西在	可在	回在	画	回允	用在	回在	F475			
		Å.	耳机	更	更好	到任	阿东	阿在	四位	回在	阿尔	豆杯	開在	明定	Fq/c.			
		\$	阿在	巨机	西	回在	医科	画材	司任	回在	配符	可好	画	间左	網花			
·,				3.	111	1. 5	Ę.	ę ~		3	-CH <sub>3</sub>	£ E	Ç		Z			
(146)		Ф	문	72.5	エーピフェニリル	7117			£	-+7+	S	S	S		Z			
				የ አ	Ę Ż	<u>የ</u> ภ		Y	Y		S	Y"	S	4		÷		
		θ 73		1	<u>e</u>	<b>區</b>	1.	다 ©	工胆	트	EL SKA CH3	计图	.14 E	(E)	) 1			
,															4			
	(H-7)	化合物	H-7-70.	H-7-702	H-7-703	H-7-704	H-7-705	H-7-706	H-7-707	H-7-708	H-7-709	11-7-710	H-7-711	H-7-712	H-7-713			

. (147)

回左

可左

H-7-801

(H-7)

H-7-802

å

可左

可左

mーピフェニリン

回上

H-7-803

回左

画在

ルビフェニリル

工匠

F-7-804

回左

河左

阿加

可在

AS CH3

.1] (C

H-7-809

回江

司任

2-ナフチル

H-7-808

何左

可先

回

H-7-807

面花

宣在

厄

H-7-806

阿左

更在

면

H-7-805

回左

剛在

.1] 西

H-7-810

H-7-811

節左

西左

豆石

四位

回在

11/2

回 引

H-7-813

H-7-812

098/08360

(149)

H-8-2

H-8-3

H-8-5

H-8-4

H-8-6

H-8-7

H-8-1

化合物

(H-8)

	-			ı		•					
化合物	H-8-14	H-8-15	H-8-16	H-8-17		81-8-H	H-8-19				
		·					·				
			•							-	
φ <sub>ji</sub>		干幔		<u>ا</u>	平區	中间	五	河上	<b>通</b> 寸	<u></u>	<u> </u>
e e	阿左	画在	国	回在	回左	画在	回左	画本	風杖	回在	同先
φ <sub>29</sub>	回左	回左	題	回左	回行	<u>ब्</u> च 17	<b>厄</b> 扣	回在	国位	品	更在
Φ28	同在	五	即在	可充	<u>间</u> 种	<b>三</b> 村	画	鱼产	<b>匡</b> 所	国在:	阐先
Φ27	f.	ルビニエンル	m-ピンェニリル	ルビニエてカ-9	The state of the s	f Q	£	2-ナフチル	S CH3	A Ph	N S S

표

而允

門在

四柱

H-8-10

H-8-8

H-8-9

H-8-11

H-8-12

豆

F11/2:

既花

瓦

H-8-13

I

(162)

(161)

**#098/08360** 

可左 河左 可社 宣在 阿左 间左 J, 回社 可在 몺 回在 国社 豆在 回在 -N-(Ph)<sub>2</sub> 阿左 I H-8-114 H-8-117 H-8-116 H-8-115 H-3-118 H-8-119 H-8) 化合物

13

回杆

回行

神子

アピアホニリル

Ft-8-102

阿花

画在

同在

占

H-8-101

化合物

(H-8)

Ą

重

回社

回在

回在

m-ピフェニリル

H-8-103

īa .

西东

回行

回左

アピンエニリル

H-8-104

1

回在

回左

同在

H-8-105

Ē

阿先

回左

四在

H-8-106

įα

団左

回在

国东

H-8-107

更

回在

回行

可什

2-ナフチル

H-8-108

臣

可在

回左

同在

H-8-109

Æ

间亿

風花

可符

H-8-110

乭

西东

可左

風

H-8-111

Ξ

同左。 阿允

可在

H-8-112

Œ

三.

6.

配件

H-8-113

冠

꾸밀

山市

		-															
	1 1							•	•								
	ė.	Z S HO	工厂	<u>부</u>	· 된	<u>(</u>	・道	医扣	프	ᄪ	부	夏 九	<b>M</b> ).	- - -	· ·		
	e R	所在	軍	可左	画	更新	回在	画	自在	風和	西	耳	F1/6	F47.E			
	ę.	司在	回在	回任	更在	更加	通	區 村	画	国在	同在	回九	岡左	<b>阿</b> 亿.			
	е Ө	區	區 林	画	可在	阿左	面左	同左	河	回左	更充	西村	回在	回左			
	Φ21	a.	のピフェニリル	M-ピフニニジル	アードフェニリン	"ad			2-ナフチル	S CH3	APA S	N S S S S S S S S S S S S S S S S S S S		N N			
(H-H)	化合物	H-8-201	H· 8·202	H-8-203	H-8-204	H-8-205	H-8-2C6	H-8-207	H-8-208	H-8-209	H-8-210	H-8-211	H-8-212	H-8-213			

(H-8)

- (Ph)2
, á

		·											
97	K S X S	<b>河</b> 上	丰富	<u> 구</u> 1호	٦ ن	- 꾸	म भ	<b>ा</b> ध	<b>고</b>	म्	ਜ ਵ	프 도	Ed.:
φ,	М <i>&amp;</i> : Рh	政	可在	臣新	直付	明定	百九	百	民	異称	西任	 E	
φs	回左	间在	匠	瓦	可在	五	周定	回	臣	间左	更	回花	開先
Фзя	而左	可左	回在	同在	阿左	五	子回	可先	可不	回在	画	豆	闻先.
$\Phi_{21}$	Ph	ハビニェワン	mーゲンェニリル	ルレニエ て ピーロ	- Pu			2-ナフチル	S CH3	S S Ph	S S		N N N N N N N N N N N N N N N N N N N
化合物	H-8-301	H-8-302	H-8-303	H-8-304	H-8-305	H-8-306	H-8-307	H-8-308	H-8-309	H-8-310	H-8-311	H-8-312	H-8-313

(H-8)

化合化	Φ17	β2,η Φ	P.	<b>4</b> 30	φ3.
H-8-314	2(hd) −N−(Ph)2	回科	回在	百九	Ph/S/N
H-8-315		厩	阿利	匠	<b>브</b> 트
H-8-316	-Ph	匣	画机	回	<b>=</b>
H-8-317	N- (Ph)2	园	阿尔	圆花	<b>프</b>
H-8-318		<b>區</b> 和	图和	巨	<b>각</b> ©
H-8-319	P.	ж	F.	I	中國

1098/08360

						* 4 : 2
化白细	Φ <sub>21</sub>	87 0	ф33	<b>3</b>	Ę	大百岁
H-8-461	Ph	国左	ie řř	阿拉		H-8-414
H-8-402	のピフェニジル	同左	可在	眶科	ME	H-8-415
H-8-403	m-Kフェニリル	回在	所在	四九	子但	H-8-416
H-8-404	アピフェニリル	即左	画在	阿托	山土	H-8-417
H-8-405	"a-\-	阿井	回在	匠材	北區	
H-8-406		画	司大	. 匠	子园	.4-8-418
H-8-407	æ C	可在	<u>底</u> 1月	西花	工匠	H-8-419
H-8-408	2-ナフチル	國在	듔	固行	千圓	
H-8-409	R S CH3	回左	国左	匠	五十二	
H-8-410	LS S Ph	画在	回左	西茄	i i i i i i i i i i i i i i i i i i i	
H-8-411	N S S	斯左	面花	哥拉	111	
H-8-412		画	国	严	1 t	
H-8-413	N N N N N N N N N N N N N N N N N N N	軍在	距桁	P4/E	Fil 2:	

围

--N--(Ph)2 同左 同左 同左

區

阿左 阿左 阿左

巨工

I

띺

エ

흔

同左 同左

回在

同左 阿在 Ph-

画在

间左 间左

可在

																	,		
<b>T</b> 098/08360		•																	
	971		<u>면</u> 기	<u> </u>	垣	구 E	티	ㅋ 말	中国	中国	- - - - -	更正	3 E	ज ह		•		•	
	9,	回た	阿尔	西村	可任	通知	回江	可在	匣	配机	再在	国在	国人:	M.A.	, ,				
	φ,	可在	回在	<u>@</u> 初	回	配料	回	阿拉	阿林	回在	画	回た	<b>回</b> 左:	间先					
(691)	<del>8</del> 7	匣	可充	画	闻だ	固左	国在	剛左	画	画	事在	回左	同左	回な					
	Фгл	<b>.</b>	のピフェニリル	ルーピフェニリル	ルビフェニリル	"Hard The Party of			2-ナフチル	S S CH3	AS S	AS S		N N N N N N N N N N N N N N N N N N N					
(H-8)	化合物	H-8-501	H-8-502	H-8-503	H-8-604	H-8-505	H-8-506	H-8-507	H-8-508	H-8-609	H-8-510	H-8-511	H-8-512	H-8-513				,	
						•			•								•		

化合物	Φ27	Φ21	φ <sup>2</sup> 39	e e	ě
H-8-514	Z(nd) N-	同左	画左	回五	
H-8-515		严. 村	配析	回花	=
H-8-516	- Ph	属	画	<b>厄</b> 1月	구 (월
H-8-517	-N-(Ph)2	画在	画	厄什	<b>工</b> 區
H-8-518		面	豆	匠杯	更工
H-8-519	æ	ĸ	똢	I	中區

(162)

(H-8)

回 ᄪ 巨 드 區 区 回竹 I 四竹 国社 阿杯 몺 原石 更加 -N-(Ph)2 国任 I H-8-614 H-8-615 H-8-616 H-8-617 H-8-619 H-8-618

高

可在

回托

問左

H-8-602

更在

節だ

H-8-601

化合物

画

即左

更加

回行

m-ピフェニリル

H-8-603

프

可在

回在

固在

アピフェニリル

H-8-604

回

可任

回杆

可左

H-8-605

前上

回左

面在

可在

H-8-606

H-8-607

izi 귀

阿托

同社

同左

된

四杆

回杆

司左

H-8-609

日后

교

可左

2-ナフチル

H-8-608

되.

可不

国

回左

H-8-610

三元

阿允

回左

可左

H-8-611

1

阿仁

回花

回江

H-8-612

H-8-613

<u>..</u> E

£4/:

阿花

回先

(191)

		<u>,</u>			٠									
	Ē		된	된 면	- <b>2</b> 2	E.	<b>原</b> . 귀	न ख	当	<b>₽</b> . -1	1	· 내 표	3 E	豆工
	93	開任《	国社	画	回	巨竹	匠	極	回	阿托	回先	5/时	耳信	阿先
	% <del>0</del>	副在	回在	画	回在	回在	更	甲左	画	區	區	剛在	画	豆石
	₽. •	五	回村	更	同在	回在	间左	画	阿	區	百九	回杆	同	回公
	Φ27	R	かいしょしょう	ルピフェニリル	アピフェニリル	nd \			2-ナフチル	S S CH3	AS S Ph	N S S		
(H-8)	化合物	H-8-701	H-8-702	H-8-703	H-8-704	H-8-705	Н-8-706	H-8-707	H-8-703	60L-8-H	H-8-710	H-8-711	H-8-712	H-8-713

(H-8)

化合物	Φ2η	ф <sub>28</sub>	φ.	Φ30	Φ31
H-8-714	Z(H3) - N-	同左	瓦	回在《	
H-8-715		風在	医肝	は、これ	
H-8-716	The state of the s	固	随村	阿怀	山區
H-8-717	s -N-(Ph)-	固左	風杯	阿尔	<u> -</u>
H-8-718		區	區	同	<u> </u>
H-8-719		11	ų.	I	<u>e</u>

(166)

**6**1

**8** 

化合物

(H-8)

化合铁	Ф	₫.	ę,	<b>€</b>	ě,
H-8-814	-N-(Ph) <sub>2</sub>	回升	画	画本	
H-8-815		国	回	回在	 
H-8-816	Neh S	厄	可在	国	' ] E
H-8-817	-N-(Ph)2	西在	回在	画	<u>F</u>
H-8-818		<u>@</u> 1月	原	阿	千旦
H-8-819	чa	x	몺	X	到上

φ. Φ.
<b>阿</b> 左 阿左
阿左 同左
岡左 同左
阿东 阿左
回左
岡左 同左
<b>阿</b> 在 阿在
<b>阿左</b> 阿左
国左 阿左
岡左 岡左
回左阳左
阿佐田庭
阿克

(H-9)

国加 표 돐 可在 现什 区代 I 回在 国 可在 回社 回在 ೯ 回在 回在 同什 ·N-(Ph)<sub>2</sub> 與在 回打 I 년 연 同 년 6 用用

(6-H)

(6-H)

化合物	Φ <sub>17</sub>	Ф <sub>12</sub>	ф 13	4	φ,	<del>\$</del>
H-9-114 -		(Pn)2	面左	回左	沙回	巨村
H-9-115	<u> </u>		画件	匣杆	画杯	国在
H-9-116	西	NA-S	原	巨和	画	更并
H-9-117	图上	Chr) -N-(Ph)	更先	<b>返</b> 採	阿木	画在
H-9-118	底 刊		<b>回</b>	<b>厄</b> 村	匣	<b>正</b> 析
H-9-119	<b>4</b> 6	Ph	x	뜐	I	ዊ

(172)

6 E

同同同同日比左 龙 龙	河 同 同 五	岡 岡 岡 門	同 可 同 二	S GF3 A F		H-9-216 H-9-217 H-9-218
阿	河河	阿		(Ph) <sub>2</sub>	된 면	
回外	邮先	屈	间在	As CH3	匣	
可左	回注	匣 抗	回左		ᄪ	
回在	<b>西</b> 拉:	国花	面於	-N-(Ph) <sub>2</sub>	S	
₽ <sub>x</sub>	ě.	₹	€ F	Фл	Ą	- 1

(173)

<del></del> 교수 單左 面在 同左 回在 可左 回江 可左 图在 9 五九 可在 国外 拉什 阿托 阿拉 四石 回花 回左 属 西江 回任 面社 F47. 凯花 可在 可允 阿东 **场**在: 可在 可左 回在 可左: 面行 匪州 判任 回れ 印左 可左 国左 留社 国在 可在 C CH FITE 回在 哥在 S S 向上 m-ピフェニリル 2-ナフチル 何上 アピフェニリル 구 · : | 回 .1 ] 定 T; 国上 三厘 百二 画 H-9-310 H-9-303 H-9-305 H-9-312 н-9-311 H-8-306 H-9-309 H-9-302 H-9-304 H-9-307 H-9-308 H-9-313 H-9-301 · (6-H) 化合物

(6-H)

阿朴 回花 配析 阿左 阿芒 阿东 配計 画杯 H 四左 回在 同左同左 돲 回左 -N-(Ph)2 回在 回在 ľ 画 프 ᄪ ᄪ 田田 H-9-314 H-9-316 H-9-315 H-9-317 H-9-318 H-9-319

(176)

(6-H)

国后 司左 配左 河左 间左 回在 可左 同左 可左 商左 面布 国左 可在 hil/r: 되 回往 可介 五在 室花 更 和 可在 回在 回在 回在 国产 17: F4/6: 两九: 同在 回析 可た 回在 闽在 回杆 国和 画在 軍 <u>교</u> 三六 可行 间左 画 即打 西村 回在 阿尔 回花 回在 回托 回左 ê S S S Ph (F S CH<sub>3</sub> N N m-ピフニニリル 4パニエレス-4 2-ナフチル **<b>O**ピフェニリル ф Ж .ų <u>면</u> 간 当に . 1 1 ᄪ 14 .1\ Te 田田 된 百十二 更 11 H-9-404 H-9-410 H-9-405 H-9-406 H-9-409 H-9-411 H-9-4:2 H-9-408 H-9-413 H-9-407 H-9-403 H<del>-9-4</del>02 H-9-401

(H-9)

化合物	Φ37	$\Phi_{22}$	<b>\$</b>	ě	ě	ě
H-9-414	OCC	Z(nq) −N−(Ph)z	巨村	画	国在	巨打
H-9-416	) #		阿拉	回行	回社	巨加
H-9-416	<b>교</b> 기	A Ph	间扣	回	回杆	配料
H-9-417	고 6	-N-(Pn) <sub>2</sub>	回初	瓦	回杯	鱼
H-9-418	<b>王</b> 臣		回	配符	配	區
H-9-419	<b>프</b>	<b>4</b> 2	x	똢	#	ਰੂ
H-5-420		E.	阿在	豆	阿科	国

豆什

西东

回在

町石

同左 向东 民在

可在

(178)

	( <del>G</del> -H)	化合物	H-9-514	H-9-615	H-9-516	H-9-617		H-9-518	619-6-H						1			
		·					. •							•				
																	,	
<b>#098/08360</b>																		
		97	配在	回在	重	西	画	更	回	可在	国左	同在	單左	间左	5/E	·		
<b>`</b>		o o	五百	国花	超为	運	面	延桁	匣	国统	河北	闰	豆石	1	14/E			
	·	\$	超	国在	耳机	R H	羁扣	<u>庭</u> 和	西	西村	回村	原	国先	可花	新	-		
		Фзз	间左	題称	亞	面	回在	回左	回在	回州	西东	回东	回左	到在	配訊	!		
(177)		Φ <sub>12</sub>	Ha	かいこれにない	m-ピフェニリル	アピンエニジル	ta C		£ \	2-ナフチル	S CH <sub>3</sub>	NA S	S		N	•		
••				٩ بر	₽ Å	ץ ת		Q	4	N	S	S	Mt S	4	1			
	·	ę	\$	千回	76	4 6	更	可用	년 기	ゴ色	구 ()	ギョ	工厂	三国	년 (교			
	(H-9)	化合物	Н-9-501	H-9-502	Н-9-503	H-9-504	H-9-505	90 <del>9-6</del> -H	н-9-507	H-9-508	609-6-Н	H <del>-9-5</del> 10	H-9-511	H-9-612	H-9-513			

回江

司在

回在

N-(Pn)2 同在

司上

回杆

區訊

画在

西左

四四

된

ፎ

τ,

回上

回行

回在

回行

頭杆

面上

(180)

豆木 교 回 可左 可花 阿左 可在 可左 何先 147. 回托 三林 国在 回杆 節左 而在 5.在 回加 间在 国在 算化 西花 14/E 原在 同左 回社 更加 面在 间左 阿任 可在 回在 (6.九: 阿左 A Ph nate 回左 哥拉 阿柱 CS CH3 FIE 可在 팯 马左 回在 可在 回杆 回在 ローピフェニリル 2-ナフチル 用-アンニニリル 千旦 . 恒 屈 또 国 .Ц **1** 工匠 **回** 馬上 中區 ) i. 드 ГД 109-6-Н H-9-610 H-9-612 60<del>9-6-H</del> H-9-608 H-9-611 H-9-613 H-9-605 909-6-H H-9-603 H-9-607 H-9-604 H-9-602 (H-9) 七个秒

ବ

化合物	Φ,1	$\Phi_{12}$	er <del>o</del>	ě	e e	ě
H-9-614		-N-(Ph)2	更符	區	回	四阳
H-9-616	<u>되</u>		距析	画	更称	匠
H-9-616	E	S Ph	<u>阿</u> 拉	间在	色竹	和
H-9-617	- 1 喧	-N-(Ph)2	西	围杆	<b>瓦</b> 刊	區
H-9-618	区		區、	国在	瓦村	<b>區</b> 稅
H-9-619	山區	Ph	<b>.</b> 7:	띺	Ħ	ዊ

(181)

同花

配件

回左

三江

H-9-701

H-9-702

配在

回花

可在

回在

同上 m-ピフェニリル

H-9-703

Φ <sup>36</sup>	电热	更在	回社	巨	<b>™</b>	묤
<del>o</del>	国和	逐杯	區	百六	阿科	I
¥ <del>0</del>	画	同在	阿瓦	回刊	围	묩
€	阿左	回什	匪	国在	阿对	I
Φ32	Z(HJ)-N-(Ph)z		W-Ph	S(H)2		Ph
ę		<b>祖</b>	巨	国	色	中庭
化合物	H-9-714	H-9-715	H-9-716	H-9-717	H-9-718	H-9-719

44 A.S.

三人:

豆

H-9-713

国行

[4]

国左

可任

(a) E:

四年

回

H-9-711

.1 | E

H-9-712

回在

回在

甲

H-9-710

回答

可在

回杆

面在

2-ジフチル

工匠

H-9-708

西村

回上

H-9-709

同左

国行

風社

回在

画

Н-9-707

回左

可元

回在

可广

902-6-H

回杆

可左

回在

可左

→ 于闽 501-9-H

回在

耳杆

豆

五十

アドンエニリル

五百

H-9-704

(184)

回在 교 岡左 回左 回往 回左 雨后 197 **9**2 五年 回左 面在 回左 64/E 14/E 142: · 配 元 回作 三 三 阿左 间左 可任 可存 拉允 间左 ₩ • 교 [4/i: 回左 用在 可在 重社 阿尔 可在 同在 用左 回在 可在 可在 国 国社 回在 司左 回左 回在 可在 国左 阿在 即在 面在 阿左 回杆 2-ナフチル アービフェニリル m-ピフェニリル 묩 니 [ 民士 <u>원</u> <u>급</u> ㅠ 巨力 工厂 配 드 回 .1 [ [百 <u>면</u> 기 H-9-810 H-9-805 H-9-812 H-9-813 H-9-807 H-9-811 H-9-809 H-9-806 H-9-803 H-9-804 H-9-808 H-9-802 H-9-801 化合物

回答 回杯 回红 몺 阿什 阿东 回社 回在 画 可在 I 中區 千国 H-9-814 H-9-820 H-9-817 H-9-819

Φ3ε. Φ46. Φ41, Φ43, Φ44, Φ46 N N N M-ビフェニリル P-Kフェニリル 2-ナフチル のピフェニリル Ф39, Ф42, Ф45 Φe1~Φe9 至 <u>'</u>] E H 商 브 画 ᄪ 區 百五 何 阿二 H-:0-12 H-10-11 H-10-13 H-10-10 H-10-9 H-10-7 F-10-8 H-10-6 H-10-2 H-10-4 H-10-6 H-10-3 H-10-1 化合物 (H-10)

(H-10)

化合物	640~640	O39, O42, O45	436, 440, 441, 443, 444, 446
H-10-14	\$	Z(U-) -N-	Æ.
H-10-15	甲属		Æ
H-10-16	: ::	A Ph	W
H-10-17	- मृ	(Ph)2	Ph
H-10-18	<b>4</b>		<b>.</b>

(H-10)

431. 440. 441., 443. 44

Ф39. Ф42. Ф45

(H-10)

化合物

438, 440, 441, 443, 444, 446 몺 -N-(Ph)2 H G . i.j 死 回 H-10-115 H-10-114 H-10-117 H-10-118 H-10-116 化合物

乱

m-ピフェニッル

田井

H-10-103

アピフェニジル

구 (<u>)</u>

H-10-104

ᄪ

H-10-105

£

かいニエクソーの

巨

H-10-102

H-10-101

1098/08360

전

E ti

H-10-112

画

H-10-111

造下

H-10-113

몺

£

S S CH3

配

H-10-110

可可

H-10-109

岳

2-ナフチル

13 14

F-10-108

工匠

H-10-107

돐

巨

H-10-106

된

(183)

(H-10)

438, 440, 441, 443, 444, 446 <u>중.</u> £ 유 S CH3 AS S Ph 2-ナフチル m-ピフェニリル アイフェニリル Ф39. Ф42, Ф45 平原 三 <u>ю</u> ті 中區 본 中国 巨 三三 비 巨 丰富 可力 H-10-210 H-10-212 H-10-211 H-10-205 H-10-208 H-10-213 H-19-204 H-10-203 H-10-207 H-10-209 H-10-208 H-10-202 H-19-201 化合物

(H:-10)

化合物	Ø47~Ø49	Φ <sub>39</sub> , Φ <sub>43</sub> , Φ <sub>45</sub>	Φ18, Φ40, Φ41, Φ43, Φ44, Φ46
H-10-214	S	-N-(Ph) <sub>2</sub>	H.
H-10-215	电		<b>4</b>
H-10-216	工仙	AS Ph	æ
H-10-217	16	2(hd) -N-(Ph)2	Ph
H-10-218	<u>부</u>		Æ.

,		
	Φ*6	
ı	Q.	
	Φ43.	
	<b>.</b>	
١	<del>Q</del>	
	Ф31. Фев. Фег., Ф43. Ф44.	
	Φ45	
	Ф39. Ф42. Ф45	
1	<b>6</b>	
	Pc7~049	
	<b>æ</b>	

	4. O			
	Ф39. Ф42. Ф45 . Ф31. Ф40. Ф4:. Ф43. Ф44, Ф46	£	£	Æ
	Ф39. Ф42. Ф45	<b>.</b>	9-ピフェニリル	m-ピフェニリル
	Φc7~Φ49	S	<u>부</u>	<u>@</u> 귀
(H-10)	化合物	H-10-301	H-10-302	H-10-303

<u>교</u> 기

H-10-313

化合物	Q47~Q49	Φ39, Φ42, Φ45 <sup>4</sup>	Φ38, Φ40, Φ41, Φ43, Φ44, Φ46	Φ43, Φ44,	e e
H-10-314	S S S	-N-(Pn)2		뜐	6
H-10-315	千圓			P.	
H-10-316	म्ब	Hd—S		Ph Ph	
H-10-317	· 日	(Ph)2		æ	
H-10-318	11 11			<b>.</b>	

(193)

Ф39, Ф42, Ф45 P.J. - 049 (H-10)

Фзв. Ф40. Ф41, Ф43, Ф44, Ф46 닯 H-10-402 11-10-401 化合物

W-ピンエニジン アーピフェニリル 百 再上

H-10-403

H-10-404

回上回 超 H-10-405

2-ナフチル 回上 區土 H-10-407 H-10-406

回 回 H-10-410 H-10-409

百二十 哥上

몺

H-10-412

H-10-411

를 라

H-10-4:3

٠. تا

化合物	\$47~\$49	Ф39, Ф42, Ф45	438, 440, 441, 441, 444, 446	4
H-10-414		Z(i4d) -N-(Ph)2	Ph	
H-10-415	1 10		Ph	
H-10-416	區	A Ph	P!	
H-10-417	<u> </u>	(Ph) <sub>2</sub>	, Ph	
H-10-418	<b>프</b>		A.	

(196)

431, 440, 441, 443, 444, 446

Ф<sub>£2</sub>. Ф<sub>45</sub>

-N-(Ph)2

	,		•
1		ı,	2
			į

	Φ-1-Φ49		<b>호</b> 귀	고 (6	医	恒	ł 2										
(H-10)	化合物	H-10-514	H-10-515	H-10-516	H-10-517	# 8.2-01-H										;	
											• •						
			. ••												1		
				·													
	41. 415. 424. 444	æ	Æ	Æ	Ph	£	Ьh	Ph	Ph	æ.	Æ	Ph 	£	æ		i ı	
	Ф39. Ф42. Ф43. Ф38 Ф46.	£.	<b>のピフェニリル</b>	ルレニュフェーリル	ワーピンエニジン	u-C-C-			2-ナフチル	S CH3	Les Les	N. S. S. S.		N N N			
	Φ47~Φ49		中区	超	보	구 <b>년</b>	二日	岩區	7 @	<u></u> 면	五百	꾸미	千鱼	阿比			. •
(H-10)	化合物	H-10201	H-10-502	H-10-503	H-10-504	H-10-505	H-10-506	H-10-507	H-10-508	H-10-509	H-10-510	H-10-511	H-10-512	H-16-513		• . •	

•

ద

몺

9 <sup>4</sup> . 9 <sup>46</sup>					٠.				1			£	e
Φ41, Φ43.	£	똢	ਜੂ	뚀	Æ	P.	፳	된	E.	Ph	Ph	<b>.</b>	A.
3 Φ38, Φ40, Φ41, Φ43, Φ44,		<u> </u>	J. (	· 30	Ha −	£.		- 	G. G.	H.	C <sub>x</sub>		N N
Ф39, Ф42, Ф4	æ	のピフェニリル	m-ピフェニリル	アピフェニリル			£ \	2・ナフチル	S CH1	S S	S		\$Z
Φ40~D49		國土	구 ॥	巨	千旦	和國	平值	<b>庭</b>	크 또	<u> भ</u>	म्	드	回
化合物	H-10-601	H-10-602	H-10-603	F-10-604	H-10-605	H-10-608	H-1C-607	I-10-608	609-01-H	H-10-610	H-10-611	H-10-612	H-10-613

(H-10)

(H-10)

(188)

그 三二百 回上 H-10-716 H-10-717 H-10-715 H-10-718 H-10-714

Ф31, Ф40, Ф41, Ф43, Ф44, Ф46 P H 몺 된 SS SCH<sub>3</sub> P-ピフェニリル 2-ナフチル M-ピフェニリル Ф39. Ф42. Ф45 년 기 庭司 百二十 平原 듄 巨 中国 판 된 된 H-10-710 H-10-711 H-10-709 H-10-712 H-10-707 H-1C-708 H-10-706 H-10-713 H-10-703 H-10-704 H-10-705 H-10-702 H-10-701 (H-10)化合物

Ф31. Ф33, Ф3c, Ф36

F. P.

巨

H-11-16

画

H-11-18

百十二

H-11-17

. 丁恒

H-11-15

H-11-14

0
9
×
₹
<b>a</b>
5
0
_

<b>产心智</b>		-		
	$\Phi_{31}$ ~ $\Phi_{31}$	Ф30, Ф52, Ф55	Φ51, Φ53, Φ54, Φ56	
н-11-1	0	£	Ph.	
H-11-2	- 프	ルビニエレン・ロ	Ч	
H-11-3	꾸	ルーピフェニリル	Ph	
H-11-4	비	ゲンエニリル	Ph	
H-11-5	町	The state of the s	P.	· .
H-11-6	ᄪ		g.	
H-11-7	티		몺	
H-11-8	<b>4</b>	2-ナフチル	£	
H-11-9	4	S S S	Æ.	
H-11-10	甲	AS S Ph	Æ	•
H-11-11	4	S S	P.	
H-11-12	百十		뜐.	
H-11-13	<u> </u>	N N	rg.	

(304)

(H-11)

W098/08360

(302)

H-11-117 Ф31, Ф33, Ф34, Ф36 £ 돐 £ ጟ 띺 전 SS CH3 2-ナフデル アピフェニリル m-ピフェニリル のピフェニリル Φ<sub>50</sub>, Φ<sub>52</sub>, Φ<sub>55</sub> 上 阿上 回 回 巨 画上 中间 区 周上 画 巨 ᄪ H-11-113 H-1:-110 H-11-111 H-11-112 H-11-105 H-11-108 H-11-107 H-11-109 H-11-102 H-11-104 H-11-101 H-11-103 H-11-106 化合物 (H-11)

띺

H-11-118

ಕ

匝

(H-11)

Ф51, Ф53, Ф54, Ф56 →N-(Ph)2 Ф50, Ф52, Ф55 Φ22~Φ28 百百 巨 H-11-116 H-11-115 H-11-114 化合物

Φ50, Φ51, Φ55
<b>タゼフェニリル</b>
m-ピフェニリル
p-ピフェニリル
Y
Y
2-ナフチル
A CH3
S
S
4
Y

(\$08)

(H-11)

. 면 三 風上 H-11-215 H-11-216 H-11-214 H-11-217 H-11-218 Ф51, Ф53, Ф54, Ф56

Ф30. Ф31. Ф33

-N-(Ph)2

¥098/08360

(503)

H-11-317 H-11-315 H-11-316 H-11-318 H-11-314 (H:-11) Ф31, Ф53, Фм. Ф56 占 몺 띺 ភ 몺 몺 된 佦 ルビニエCコーロル m-ピンエニリル アナフチル のピフェニリル Ф50, Ф52. Ф53 恒 元 田田 回 西山 . 나 (b) 質 田田 更上 티 기 (년 庖 커 <u>니</u> H-11-313 H-11-303 H-11-306 H-11-310 H-11-312 H-11-309 H-11-306 H-:1-308 H-11-304 H-11-307 H-11-311 H-11-302 H-11-301 化合物 (H-11)

ద

된

쭌

更

듄

AS →Ph

四日

世

(210)

Φ21, Φ23, Φ34, Φ36

Ф50, Ф52, Ф55

15**0**~15Φ

化合物

띺

(H-11)

**#**098/08360

**				•										١	
1															
	Φ <sub>51</sub> , Φ <sub>51</sub> , Φ <sub>54</sub> , Φ <sub>56</sub>	h.	Чď	P.	ła.	Pn	Ph	<b>£</b> .	Æ	Ph	<b>42</b>	<b>P</b>	£	£	
	Ф50. Ф52, Ф55	Æ	47エニリル	m-ピフェニリル	4.ビニャイゲーロ	The Control of the Co			2-ナフチル	LS CH3	LS R S PPh	A S S S S S S S S S S S S S S S S S S S		N	
	Φ27~Φ <u>38</u>		) ii	<u>부</u>	<b>千</b> 飯	년 귀	平原	<u> 기</u> 달	ㅋ ⓒ	<b>1</b> 2	구 교	<u>म</u> छ	巨	ᄪ	
(11-11)	化合物	H-11-403	H-11-402	H-11-403	H-11-404	H-11-405	H-11-406	H-11-407	H-11-408	H-11-409	H-11-410	H-11-411	H-11-412	H-11-413	

£

H-11-420

5

P.

H-11-419

Ph

画

H-11-418

ద

1

百五

H-11-416

H-11-416

H-11-414

r L

Φ <sub>30</sub> Φ <sub>52</sub> , Φ <sub>53</sub>	Ф31. Ф33, Ф34, Ф36		化合物	Φ57~Φ38	Ф50, Ф52, Ф55
<u> </u>	Ph.		H~11-514		-N-(Ph)2
のピフェニリル	£		H-11-515	<u>기</u> 턴	
ルーピフニニリル	Ph		H-11-516	Te	Ha S
かピフェニジル	. · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		H-11-517	工匠	rd) -N- (Pr
	Æ		9 5 5	<u>.</u>	
	Æ		97C-11-H	4	
	Æ				
2-ナフチル	Ph				
LS S CH3	F. Ph	•			
SSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSS	eg eg				
J'S J'S	H. H.				
	A.				

된

H-11-502 H-11-503 H-11-504

H-11-501

(H-11)

化合物

교

시 (5

H-11-508 H-11-509

H-11-510

H-11-511

ᄪ

五百

H-11-605 H-11-506

阿丁

H-11-513

H-11-512

0988/08360

(H-11)

Ф51. Ф53. Ф54. Ф56 돈 문 £ 문 S S CH3 40-ピフェニリル m-ビフェニリル 2-ナフチル がじニェクサ-d Ф50, Ф52, Ф55 <u>i</u> 回日 十回 1 1 更 **비** ⓒ 면 <u>戸</u> 기 드 H-11-612 H-11-603 H-11-604 H-11-605 H-11-608 H-11-610 H-11-611 H-11-613 H-11-601 14-11-602 H-11-606 H-11-609 化合物

1098/08360

(H-11)

Ф31, Ф33, Ф34, Ф36 띺 ē 更 드 百二 H-11-615 H-11-616 H-11-614 H-11-617 化合物

Ф51. Ф53. Ф14. Ф56

**#098/08360** 

(217)

(H-11)

化合物 Ф51, Ф53, Ф54, Ф56 츬 2-7-77-11 S S S CH<sub>3</sub> N N N リピニュニリル m-ピフェニリル アピフェニリン  $\Phi_{S7} \sim \Phi_{S1}$ 逐 百十二 画 프 . i ] 可同 更 瓦山 Н-11-710 H-11-712 H-11-713 H-11-707 H-11-711 H-11-708 H-11-709 H-11-705 H-11-706 H-11-703 H-11-701 H-11-702 H-11-704 化合物

준

Ф51. Ф53, Ф54, Ф56 £ Æ £ 된 ルーピフェニリン リレビフェニリル のピフェニリル Ф50, Ф52, Ф55 Ф57~Ф58 三 <u>비</u> <u>면</u> 거 区 匣 田田 1 国 비 回 H-:1-811 H-11-809 H-1:-812 H-11-813 Н-:1-807 H-:1-810 H-11-803 H-11-808 H-11-804 H-11-805 H-11-806 H-11-801 . H-11-902 化合物 (H-11)

(H-11)

딮 골 Ф50. Ф17. Ф55 띺 可力 上回 H-11-816 H-11-814 H-11-819 H-11-815 H-11-817 化合物

φο-φο 19φ~19φ

돐

전

回在

H-12-15

H-12-14

回在

回任

**@** ∹

H-12-16

-N-(Ph)<sub>2</sub> 固左

비

H-12-17

阿左

周

H-12-18

(222)

1098/08360

(121)

(H-12)

ď ద 된 L' ጚ 00-100 된 4 띺 ā 돖 띺 P. 문 몺 ೭ ፎ 몫 S S CH 周在 S ME 人 S Ph 周在 面左 回在 回左 回左 回红 间左 同在 可左 M-ピフェニリル サービフェニリル ターピフェニリル 2-ナフチル Æ e e 工匠 上回 면 三 工匠 屈 區十 브 更 니 트 巨 民 H-12-13 H-12-12 H-:2-10 H-12-11 H-12-8 H-12-9 H-12-6 F-12-7 H-12-6 H-12-3 H-12-2 H-12-4 H-12-1 化合物

(H-12)

**1**098/08360

. (223)

(H-12)

Φ6.~Φ63 Φω~Φ66 á 돈 뜺 P 몺 ď 된 4 £ 돈 륪 西左 月左 阿卜 可在 阿左 回れ 配在 人S→CH₃ 周左 回汗 同在 画社 同左 回左 m-ピフェニリル アードフェニッド 2-ナフチル ルピニェクカー <del>0</del> <u>商</u> 丁. 高 中国 뜨 드 上 비 ᄩ 中国 回 回上 H-12-112 H-12-113 H-12-109 H-12-106 H-12-108 H-12-107 H-12-110 H-12-111 H-12-102 H-12-103 H-12-101 H-12-104 H-12-105 化合物

(H-12)

φ:-Φε3 Φεν-Φεσ 国花 回左 3 阿左 阿左 -N-(Ph)<sub>2</sub> 固在 阿山 回 回 떕 H-12-116 H-12-114 H-12-115 H-12-118 H-12-117

**T098/08360** 

(326)

(H-12)

(H-12)

Φ64~Φ66 돈 돈 ዊ 뭅 띺 2 £ ፎ Φ~19Φ 돈 P 륜 £ ፎ ۲. 몺 돐 ద 佦 现代 面析 亞拉 堕江 可左 西村 可左 剛左 回左 可在 回在 回左 回在 CH3 CH3 カーピフェニリル ルレニエクユーリル 2-ナフチル . 기별  $\Phi_{69} \sim \Phi_{69}$ 비 国 配 드 트 표 표 画 <u> 부</u> **厄** 回 ᄪ H-12-210 H-12-212 H-12-206 H-12-209 H-12-211 H-12-213 H-12-207 H-12-208 H-12-204 H-12-203 H-12-205 H-12-201 H-12-202 化合物

(326)

30-40 CO-100 돈 £ 蠹 £ 回在 回杆 回行 回杆 -N-(Ph)<sub>2</sub> 闰在 **9** 1 甲 五回 H-12-216 H-12-215 H-12-217 H-12-214 H-12-218 化合物

**1**098/08360

(227)

回 関 阿上 山口 H-12-314 H-12-315 H-12-316 H-12-317 H-12-318 (H-12)化合物 Ph 돐 Ph Ph 몺 Ph Φ6: - Φ63 몺 P. 몺 <u>대</u> £ £ 岳 可在 而在 国任 回在 再在 到在

(228)

90~HO 190~190

**9** 

씸

ದ

몺

ద

윱

몺

몺

둢

돖 佦

A Ph 间在

돈

ድ

둡

ਰੰ

된

ゴロ

面左

몺 문 買れ

윤

H-12-313

佢

H-12-302

H-12-301

m-ピフェニリル

五五

H-12-303

かーピフェニリル

프

H-12-304

田田

H-12-305

1

H-12-306

H-12-307

用

2-ナフチル 巨

H-12-308

回

F-12-309

. 기 H-12-310

1 E H-12-311

回

H-12-312

(H-12)

化合物

**E**098/08360

(229)

(H-12)

国土

. H-12-415

H-12-4:4

990~19€ 190~19€ 겊 몺 몫, 윤 Ph 몺 몺 됩 돐 문 Ph 돈 ዲ 占 ፎ 回左 到在 四九 耳杆 回杯 阿左 回杆 闰 阿左 9 同左 回在 單左 可左 LS CH3 m-ピフェニリル アーピフェニリル 2-ナフチル **マピフェニリル** 8 工館 Φ67~Φ# 可同 <u>용</u> 귀 回 百十 国 可上 (년 기 된 <u>귀</u> 回 H-12-413 H-12-412 H-12-403 H-12-406 H-12-407 H-12-408 H-12-409 H-12-411 H-12-405 H-12-410 H-12-404 H-12-402 H-12-401 化合物

.

(H-12)

(231)

%0~190 190~190. 栕 띺 띺 R 년 ద 된 곮 딘 P Ph ಕ 된 ፈ H. 딮 ፈ . 몺 P. 몺 두. 돈 回左 回左 回在 回社 河左 同左 回左 国在 回在 间左 加在 回在 →Pn 両左 La Sanda m-ビフェニリル アーピフェニリル マピフェニリル 2-ナフチル **\$** Φ67~BB 퓌 向十 **€** 回 更 画 出版 更 巨 <u>교</u> 귀 百二 . 년 H-12-501 H-12-504 H-12-502 H-12-503 H-12-505 H-12-506 H-12-507 H-12-508 H-12-509 H-12-510 H-12-511 H-12-512 H-12-513 化合物

化合物	Φ67~Φ69	Φ <sub>59</sub>	Φ	Φω Φει~Φεз Φε-~Φε	Φ°.~Φ
H-12-514		-N-(Ph) <sub>2</sub>	똢	똢	뜐
H-12-515	干鱼		됷	P.	£
H-12-516	干७	A Ph	ਛੋ	r u	ž.
H-12-517	- -	(Ph) <sub>2</sub>	Pi	Ph	<del>د</del> .
H-12-518	子匠		ឌ	ų	F.

F098/08360

(H-12)

970~MD	r.	ď.	£	줖	뜐	<b>E</b>	F.	Ph	r.	ᄯ	4	æ	<b>뜐</b>
Φ61~Φ63	4.	P.	Ph	똢	ዊ	ų	똢	Ph	æ	£.	전	ፈ	띺
3	犀木	風	周花	耳托	屈	阿丘	画	阿左	回在	同在	阿在	画	阿先
Ф39	Ph	マピフェニリル	ガレニュンソーII	4/11エレカーロ	H-Ph			2-ナフチル	LS CH3	S S S P P P	N S S		Z Z
Φ61~Φ69		그 글	中	更	구 E	브	. 꾸	4	巨	甲	<b>4</b>	व	區
化合物	H-12-601	H-12-602	H-12-603	H-12-604	H-12-605	H-12-606	H-12-607	H-12-608	H-12-609	H-12-610	H-12-611	H-12-6:2	H-12-613

(134)

(H-12)

化合物	ტე~ტ	Φ29	e S	Φ° Φ° - Φ° - Φ° Θ°	90~~90
H-12-614		N- (Ph) <sub>2</sub>	阿	ឌ្	Ę.
H-12-615	世間		画在	ឌួ	P.
H-12-616	展	S Ph	回允	Ph.	£
H-12-617	· 된	N- (Ph)2	瓦杯	뜐	뜐
H-12-618	<b>턴</b>		色	ď	<u>ਵ</u>

**E**098/08360

化合物	<i>60</i> ~−19Φ	Φ39	Φ. Θ.	Φ <sub>61</sub> ~Φ <sub>63</sub>	Φω~Φ66
H-12-701		H.	岡左	e.	Ph
H-12-702	中區	れんニェンカーの	间在	Ph	ā
H-12-703	甲	M-ピフェニリル	巨对	똢	Pr
H-12-704	甲	アピフェニリル	可在	돲	£
H-12-705	1	nd-O-Ph	回	£	ą.
H-12-706	<u>ह.</u> न		五百二	ų.	rg.
H-12-707	王庭	£ \	面东	돲	Ph
H-12-708	巨	2-ナフチル	双回	뜐	Ph
H-12-709	平衡	S S CH3	画	R	£
H-12-710	面土	AS S	面左	£	Æ
H-12-711	山	K S K S K	更	€.	줊
H-12-712	<u>되</u>		匠	몺	- H
H-12-713	.1: <b>T</b>	N N	西元	£	£

(236)

(H-12)

Φ° Φ°1~Φ°3 Φ°1~Φ® ď 된 된 區 阿什 -N-(Ph)<sub>2</sub> 同在 画在 <del>0</del> 690~L90 百二十 巨 国上 H-12-714 H-12-716 H-12-718 H-12-715 H-12-717

990~P9 190~19Φ ፎ 면 占 몺 됩 꼰 띺 몺 P £ £ 돖 된 전 回去 间左 画杯 回析 可任 回在 回在 区 回在 可在 回九 画左 回左 品-ピフェニリル 2-ナフチル アピフェニリル かピフェニリル (137) ê 阿丁 巨 :-| !-! ᄪ **9**. 巨 뎐 區 三十 ᄪ 西田

H-12-806

H-12-806

H-12-804

H-12-803

H-12-801

化合物

(H-12)

H-12-802

H-12-807

H-12-808

H-12-809

(238)

**#**098/08360

(H-12)

Φ~~ΦΦ	r.T	<u>r</u> .	P.	꿃	굺	۳. د
Φ61~Φ63 Φ64~Φ66	Ph	ዊ	g.	g.	E .	H.
<b>8</b>	雨左	画在	间左	-N-(Ph)2 阿左	巨	A H
Φ39	2(H)) - N-(Ph)2		AS Pn	d) -N-(b		Ą
Φ67~Φ69		구   	千遍	고 (편	브	
化合物	H-12-814	H-12-815	H-12-816	H-12-817	H-12-818	H-12-819

一方、電子注入輸送性化合物である電子輸送性のホスト材料としては、前配のキノリノラト金属組体が好ましい。 以下に、前記の化合物に包含ないし重複する化合物もあるが、電子体送性のホ スト材料を列挙する。ここでは式(E-1)~(E-14)に従うゆ101等の組 合せで示している。

H-12-813

H-12-812

H-12-811

H-12-810

(239)

.

(E-1)

可任 回布 節信 同左 回在 回在 面左 回左 듔 回花 回打 可左 回花 147: 间左 回左 间左 回杆 ⊕ 103 画在 回左 用左 间左 可在 可在 可左 足 回左 间左 回左 豆秆 回在 回杆 画机 Φ<sub>102</sub> 可在 可在 原. S S CH3 固在 面在 nrピフェニリル P-ピフェニリル 2-ナフチル . 각 ⓒ 비 画 哥 阿九 豆 中国 巨 画上 巨 更 五百 E-1-12 E-1-13 E-1-10 E-1-11 E-1-8 E-1-9 化合物 E-1-1 E-1-5 E-1-8 E-1-2 E-1-3 E-1-7 E-1-4

ľ

I

巨

E-1-19

\_

可花 可左 巨江 豆秆 雨左 回在 **8** 103 画杆 可在 回杆 回在 <del>p</del>ig 豆 同在 N-(Ph)<sub>2</sub> 同左 回在 4 **6** 回上 <u> 비</u> 三 E-1-15 E-1-14 E 1-16 E-1-17

(341)

(B-1)

1098/08360

原先 配在 14/1: 同左 回花 回在 回在 同在 **11** 回们 可左 间左 回行 回人 回在 同左 国先 回杆 阿左 河口 回在 同在 回往 国在 可加 阿东 **⊕**103 回左 河东. 回左 国在 回加 阿左 面 画在 可在 回左 回任 阿左 同左 <del>0</del> ルーピフェニリル シーピフェニリル 2-ナフチル 0-ピフェニリル ē ₩ 宣 画上 프 드 **된** 可上 回 巨力 画 上回 千里 山间 E-1-113 E-1-112 E-1-110 E-1-111 E-1-106 E-1-108 E-1-109 E-1-107 E-1-105 E-1-104 E-1-103 E-1-101 E-1-102 化合物

(242)

(E-1)

阿托 回左 回往 回左 I 回社 回在 面左 阿木 601**⊕** 回左 面在 回在 -N-(Ph)<sub>2</sub> 间左 **⊕** 102 I 턴 프 可上 ゼビ E-1-119 E-1-116 E-1-117 E-1-115 E-1-114

**H**098/08360

(243)

(E-1)

五元 国介 <u>ы</u>7.: 回在 高柱 阿納 回左 回在 回杆 固左 可左 面木 回托 国 四/: 回杆 回左 同村 五杯 回在 副左 回在 回在 € 103 阿左 阿什 间左 CS CH3 FE 回社 同左 阿左 AS →Ph FA 風紅 间在 回在 可在 画在 Φ Ω 回左 ルリニェイソ-m か-ピフェニリル 2-ナフチル のピフェニリル **⊕** 回 四十 ᄪ 西田 三 画 디 기교 区 百十二 回 巨 된 E-1-213 E-1-212 E-1-211 E-1-209 E-1-210 E-1-206 E-1-206 E-1-207 E-1-208 E-1-204 E-1-202 E-1-203 E-1-201 化合物

(244)

圆托 回在 四石 可不 阿先爾 <del>0</del> 回花 回行 図材 Ф 102 圆杆 河江 可任 -N-(Ph)<sub>2</sub> 回在 I 配出 工匠 區 更 E-1-216 E-1-218 E-1-217 E-1-219 E-1-216 E-1-214

<u>\$</u>

回花

1098/08360

同花 阿在 司在 [라. iii 4: Fd 14: 其 교 豆 花 回訊 M/: 国社 回左 回纸 可左 回左 可在 回花 同左 師た 同左 回杆 SAS CH, FIE 更不 回花 面在 面在 →Ph 回在 p-ピフェニソル ポレエフェニリル 2-ナフチル マピフェニリル ₽ 01 巨工 図上 드 三二 哥士 回 1 日十二 包 画 E-1-313 E-1-312 E-1-310 E-1-301 E-1-31: E-1-305 E-1-307 E-1-308 E-1-309 E-1-304 E-1-306 E-1-302 E-1-303 化合物

回左 阿林 画統 回左 **⊕** 193 可左 9 <del>0</del> -N-(Ph)2 同左 可左 阿龙 回在 . Φ 匣 교 中回 回 E-1-315 E-1-314 E-1-316 E-1-317 E-1-318 (E-1)

面木:

回在

回社

可左

I

줎

I

回

E-1-319

**W098/08360** 

回在

画花

可在

9

<del>0</del>

Ф 102

同社

回在

同社

回在

可在

回杆

阿加

回在

風紅

回杆

回杯

工

柘

I

5/15

iብሉ<u>:</u>

叫左

哑

E-1-413

可在

面流。

山在

H

E-1-41:

回先

司左

西山

E-1-410

E T

E-1-409

選が

而在

回杆

配式

E-1-412

T098/08360

(247)

(E-1)

ద 01 ⊕ 平回 回 기 可上 百 <del>Q</del> ig E-1-418 E-1-414 E-1-416 E-1-417 E-1-419 化合物 回花 回 回社 區斯 可在 回纸 耳乐 更加 回 <u>\$</u> 回花 可左 回加 냁 回社 面於 医社 间花 回杆 Ф 103 回在 国社 同左 应在 同左 画在 西江 回行 回在 <del>0</del>102 M-ピフェニッル P-ビフェニリル 2-ナフチル 9 ピンュニリル <del>0</del> £

된

E-1-406

區

E-1-407

画

E-1-408

回

E-1-403

E-1-402

E-1-401

代合物

(E-1)

트

E-1-404

三世

E-1-405

(248)

(250)

W098/08360

(243)

(E-1)

E-1-514 E-1-515 E-1-518 E-1-517 E-1-516 同在 可仁 可在 阿左 司左 回在 回在 阿左 四个 阿允 所作 7 吊左 西村 的先 阿石 配在 風杯 回在 回布 回在 西在 區納 四亿 回在 阿尔 開左 面左 阿在 回左 四左 阿加 回在 回在 回社 回在 回在 回打 阿左 () CH2 2-ナフチル p-ピフェニッル B-ピンエニリア のピフェニリル ₽ 100 01 r L 百十十 阿丁 **三** 山田 屈 面 三 阿丁 巨 ᄪ 回 巨 **e** 18 E-1-513 E-1-612 E-1-611 E-1-510 E-1-508 E-1-609 E-1-501 E-1-505 E-1-506 E-1-507 E-1-502 E-1-504 E-1-603 化合物

回社

回在

-N-(Ph)<sub>2</sub> 周左

田田

回加

可左

風

柘

Ξ

区

回在

回在

例左

国

阿在

回科

可在

(E-1)

_	
=	١
•	
~	ŀ

(E-1)

阿江 国左 14,74 而左 回左 可花 可在 甲左 回左 司托 阿拉 配在 回左 8 所在 [i] X: 周九: 回左 回花 阿左 回託 国 面在 回九 国社 可在 回先 Ф103 元 Ph 同社 N N 回在 可左 四左 画花 同左 间左 国仁 配杆 LS CH3 FIE 回社 回在 超加 701**⊕** のピンエニジル アピフェニリル・ m-ピフェニリル 2-ナフチル . ⊙ <del>0</del> 되 軍司 回 山區 (F) 기 면 면 恒山 區 百十二 三三 E-1-613 E-1-601 E-1-506 E-1-612 E-1-609 E-1-610 E-1-603 E-1-608 E-1-611 E-1-604 E-1-605 E-1-607 E-1-602 化合物

1 1
, 10
千里
<u>부</u>
阻
1

(E-1)

W098/08360

(263)

(1-B)

<u>面</u> 竹 间左 固左 固在 国左 回左 風石 Fil 1/5 同左 町左 回左 可左 回在 **₹** 五光 同左 国人: 同左 世 可左 阿什 回杆 回行 回社 回在 回左 **Q** 103 回花 S FR BA 一 N N 亞加 医在 阿芷 可在 回 巨杆 回杆 CH3 EE 哥林 可在 回社 e Big 2-ナフチル m-ピフェニリル 410ニエビカーの かピフェニリル 1 10 电子 宣 百七十 1 비 디 ᄪ 프 T. 到 E-1-712 E-1-710 E-1-706 E-1-713 E-1-711 E-1-702 E-1-703 E-1-705 E-1-707 E-1-708 E-1-709 E-1-704 E-1-701

逗拼 同左 阿左 **⊕** 103 可左 阿左 ⊕ 103 I 티 阿丁 同 면 E-1-716 E-1-714 E-1-715 E-1-717 E-1-718

可左

间左 间左

中间

面在

回在

间在

同左 同左

Ф 102

**⊕** 

回左

N-(Ph)₂同左 回左

可

面在

回在

巨社

區

I

돈

I,

耳

回花

阿左

(382)

E-1-819 E-1-818 E-1-820 E-1-815 E-1-816 E-1-817 E-1-814 11/6 崩た 回汗 可任 可在 岡左 回左 回左 可左 回在 即左 回左 回社 间左 同花 10 V: 回左 可左 禹在 回左 回在 可在 面左 回左 回杆 <del>Q</del>103 司左 回左 回左 五在 阿科 国机 回在 回扣 国在 可允 回左 ⊕ ≅ 0-ピフェニリル m-ピフェニリル マーパン・コージック 2-ナフチル <u>ō</u> 된 回 回 田田 프 回 고 등 브 旦 1 는 한 E-1-813 E-1-807 E-1-808 E-1-805 E-1-806 E-1-809 E-1-810 E-1-812 E-1-803 E-1-904 E-1-811 E-1-802 E-1-801 化合物

(992)

(E-1)

					:	
1	化合物	Φ110	Φι06	Φ107	B) ⊕	<b>8</b> 8
1	E-2-:		Æ	同左	可右	軍
	E-2-2	平便	ルビニニビン-0	豆木	EE TA	道在
	E-2-3	<b>프</b>	ルトピフェニリル	画	配机	底
	E-2-4	구 (2)	ルビニエクカーの	回在	西林	回允
	E-2-5	1	ha-Ph	豆	百	国先
	E-2-6	<u>부</u>		同花	回社	回在
	E-2-7	一里		画	回左	区
	E-2-8	中国	2-ナフチル	回在	亞	回左
	E-2-9	巨	Le Sanda	画	画	回抗
	E-2-10	展	Rep. Ph	画在	三	西
	E-2-1]	부 .	N= SSS	風	巨	回
	E-2-13	11		更	国在	(A)
	E-2-13	工匠	S N	田花	1475	<b>*</b>

(257)

回杆

阿什

四九

₽108

Φ101

**9** 

化合物

(E-2)

可在

画社

可在

耳

E-2-15

E-2-14

₽. 17

回社

回社

鼠

E-2-16

可什

国社

-N-(Ph)<sub>2</sub> 回在

<u>된</u>

E-2-17

再先

可左

回纸

四日

E-2-18

쯗

Ή

一工匠

E-2-19

(260)

化合物	θ116	Ø10€	θ <sub>10</sub>	ө 2	Φ100
E-2-101		£	珣左	间东.	岡花
E-2-102	中區	のピフェニリル	阿加	可在	回在
E-2-103	부	町-ピフェニリル	<b>医</b> 阳	可た	回东
E-2-104	画示	アピフェニリル	更	屉竹	回在
E-2-105	되 E		簡訊	回在	围在
E-2-106	મ E		可充	回东	画在
E-2-107	千仙		司在	區村	回在
E-2-108	મ 빨	2-ナフチル	可充	色 和	同左
E-2-109	超	S CH3	可在	画	阿科
E-2-110	直	S S Ph	回左	面在	回花
E-2-111	교	S	阿拉	间左	回存
E-2-112	프 또		阿在	新	節左
E-2-113	五個	N N N N N N N N N N N N N N N N N N N	国允	147.6	17年
Comment					

W098/08360

(191)

同在 可左 回在 <del>Q</del> 町た 同在 间东 可在 回在 ⊕ ≅ 同左 用花 可在 Φ<sup>10</sup> 回左 断先 可存 -N-(Ph)<sub>2</sub> 同左 I <del>0</del> 몺 교 四日 商 巨 甲甲 E-2-114 E-2-115 E-2-116 E-2-119 E-2-117 E-2-118 化合物 (E-2)

回左 匠石 回在 可左 固納 回在 回在 回存 面在 冏左 用在 百九 四杆 回杆 可左 回左 回左 回行 直杠 回托 回在 回在 回在 同左 回在 回在 回行 アピフェニリル 2-ナフチル <u>ت</u> ند 阿丁 A T 山田 耳耳 三世 五巨 干量 百五 E-2-212 E-2-205 E-2-208 E-2-210 E-2-211 E-2-213 E-2-206 E-2-209 E-2-202 E-2-203 E-2-207 E-2-204 E-2-201

(264)

(263)

回花

回左

可在

<del>0</del> §

(E-2)

回在

回在

瓦

甲

E-2-215

E-2-214

面左

面在

四加

中国

E-2-216

面左

回社

-N-(Ph)<sub>2</sub> 固在

原

E-2-217

回左

回状

殉在

围土

E-2-218

Ι

I

巨

E-2-219

回在 可在 回在 国在 可在 回行 可仁 Ф 103 m-ピフェニリル ルーピフェニリル マピンエニリル <del>0</del> 브 同 三国 百百 戶 E-2-306 E-2-302 E-2-303 E-2-305 E-2-307 E-2-304 E-2-301

回在

티

闹左 。 明代 <u>.п.Л.:</u> 回社 흔 阿尔 瓦托 国社 同 可左 回左 画在 雨左 8 互们 音石 百九 四杆 可左 2-ナフチル 五 元 西 巨 耳 巨 闰十 E-2-313 E-2-312 E-2-310 E-2-311 E-2-308 E-2-309

回位

可允

回任

回

阿尔

回在

屈

回左

国先

\$098/08360

(E-2)

(266)

	·			• .			
	Φ109	回在	可在	面在	画左	可左	I
	Φ108	西外	阿科	原科	画在	逗 村	Pn
	Φ <sub>107</sub>	固在	面左	克	画	回	I
. ,	Φ106	Z(hd) - N - (Ph)₂		H-Ph	(Ph)₂ 同左		u.
	Φ110	S S	三三	<b>9.</b> L	· 工匠	<u> </u>	千胆
(E-2)	化合物	-2-314	-2-315	-2-316	2-317	3-2-318	2-2-319

F3 / F3 阳花 回柱 **6** 同左 回左 间左 回加 ·阿杜 同在 间左 回左 尚左 司托 回在 ii]. 回左 阿左 互价 固左 回紅 可 回在 8 回左 副在 到左 回在 西井 雪在 鱼 间左 配托 回在 回加加 可在 回杆 回行 6 103 € 可在 (s) (s) (c) 用-ピフェニリル ローピフェニリル 2-ナ-フチル タピンメニジル 国工 F. 画 프 is H 표 1 回 년 기 프 画 E-2-403 E-2-407 E-2-406 E-2-4.3 E-2-409 E-2-412 E-2-408 E-2-405 E-2-410 E-2-411 E-2-404 E-2-402 E-2-401 化白银

(368)

(E-2)

W098/08360

(167)

(E-2)

810 田在 回社 回左 回左 厄祈 阿左 可不 可在 回杆 8 回た 回社 间左 Φ<sub>1</sub>σ3 -N-(Ph)<sub>2</sub> 闻左 0.在 而在 I 비 흔 围山 <u>...</u> E-2-419 E-2-414 E-2-417 E-2-415 E-2-416 E-2-418 化合物

14/1 首后 回左 可在 可託 回在 百八 国际 81 <del>0</del> 而左 回杆 回左 回在 可在 国人: 14/1/1 可花 同左 回在 回不 **9**10€ 耳在 回左 回杯 垣竹 回行 面在 两位 国公 百八二 可在 回在 面在 可在 可在 豆秆 可左 回杆 间在 回在 <del>0</del>19 (S) (S) CH3 m-ピフェニリル アーピフェニリル 2-ナフチル 9; <del>0</del> 佦 五面 区 **回**.九 五巨 된 巨 1 **7** 미 크 10. 国 E-2-513 E-2-609 E-2-512 E-2-510 B-2-507 E-2-508 E-2-505 E-2-506 E-2-611 E-2-502 E-2-503 E-2-504 E-2-501 化合物

(270)

西东

可汗

回左

国行

同花

四杆

E-2-514

代合物

8

<del>0</del>

<del>0</del>

围在

固左

回在

电

E-2-515

匠

回

回任

E-2-516

可左

(□) -N - (Ph)<sub>2</sub> 固左 固左

山區

E-2-517

瓦尔

回往

可左

ᄪ

E-2-518

I

ద

阿丁

E-2-519

回左 M.Z. 同左 回东 . 9 可花 回左 可在 回在 区竹 可在 同左 同左 五 S Ph Mate 国在 阿在 回在 更 阿左 風在 画左 可在 回左 ⊕ 107 P-ピフェニリル mービフェニリル 2-ナフチル **6**108 五百 五回 五回 置え 匣 五 百日 브 트 田田 上回 E-2-613 E-2-612 E-2-610 E-2-609 E-2-601 E-2-605 E-2-606 E-2-607 E-2-608 E-2-602 E-2-603 E-2-604 E-2-611 (E-2)

回分:

回在

回在

同花

Fd/E

阿尔

更不

(593)

(171)

(E-2)

W098/08360

<del>0</del> 18 回花 10 16 ন 阿 可计 可材 1010 風花 風花 回杯 頭在 -N-(Ph)2 四在 **⊕**101 ፗ -N-(Ph)2 **⊕** 106 듄 四日 1. 1. 피 교 回山 E-2-619 E-2-614 E-2-616 E-2-615 E-2-617 化合物

(272)

<u> 57/15</u> 回石 回左 回行 同行 可不 回行 回社 回行 回左 F17. 阿尔 回左 回龙 同左 回左 回行 间左 国沿 回左 可在 單左 回在 可任 国外 闰在 回花 回杆 可在 回在 西江 回在 Φ<sub>107</sub> 2・ナフチル 41(リコエレカー) サービフェニリル **のピフェニリル** <del>0</del> 豆丁 山田 回 国上 三百 드 国上 国 E-2-713 E-2-703 E-2-712 E-2-706 E-2-70E E-2-709 E-2-704 E-2-706 E-2-707 E-2-710 E-2-711 E-2-701 E-2-702 化合物

(E-2)

1098/08360 可左 回杯 国社 恒 固左 回在 国在 画左 西左 回任 -N-(Ph)2 同在 回在 (273) 巨 配 트 圆山 E-2-715 E-2-718 E-2-714 E-2-718 E-2-717

日に 丽木 国在 回在 可在 回行 回行 回在 阿尼 间花 回左 国人: 回杯 同方: 哥左 回左 回允 面在 回花 更析 8 阿什 回仁 回左 回托 瓦 Ø100 阿尔 回九 同在 西仁 民 回在 風 回在 2-ナフチル m-ピフェニリル アピフェニリル 医 비 可上 工匠 百五十 出し 用工 비 E-2-808 E-2-812 E-2-813 E-2-811 E-2-810 E-2-802 E-2-805 E-2-806 E-2-807 E-2-809 E-2-803 E-2-804 E-2-801 化合物

(E-3)

化合物

E-3-1

E-2-814

E-2-815

E-2-816

E-2-817

E-2-818

E-2-820

į	Ð	9	9	
8				
-N- (Ph)2	国行	可在	西村	
$\square$	面在	10. 10.	<u>(回</u> 打打	
S Ha	阿	回开	更杂	
-N-(Ph)2	画在	间左	配料	
	巨坑	巨	更在	
£	I	P.	H	
ے	14	配和	逐	

哥在

<u> 귀</u>

里面

單位

一直

E-3-2 E-3-4 E-3-4

巨

頂訊

回

四位

阿左

国红

现件

国工

E-3-6
E-3-8
E-3-9
E-3-10
E-3-11

回在

ロービフェニリル ロービフェニリル ロービフェニリル ロービフェニリル ロービフェニリル ロービフェニリル ロービフェニリル マーヤー スートル 
田田

到左

回

四十二

E-3-13

四十十

E-3-12

**1**098/08360

Φ:13	포	巨村	画在	回在	国社	區	阿	图在	剛左	豆杯	阿左	is Th	所 5.
9111	F.	0-ピフェニリル	M-ピフェニリル	マーピンオニリント				2-ナフチル	S S CH3	AS S Prin	S S		
Φ113	000	二国	中国	- <u>각</u> ©	千厘	中區	平區	巨	<b>∓</b>	<b>국교</b>	4	<b>平</b> 医	區
化合物	E-3-101	E-3-102	E-3-103	E-3-104	E-3-105	E-3-106	E-3-107	E-3-108	E-3-109	E-3-110	E-3-111	E-3-112	E-3-113
							•						
						•							1

(273)

<u>е</u>

国在

(Ph)2

E-3-14

固在

94

E

E-3-16

回

E-3-15

可左

用上

E-3-17

回左

国土

E-3-18

I

画

E-3-19

**T**098/08360

軍人 豆花 निक: 回光 回什 國左 回左 到任 四 可行 回杯 回在 PETELLINE

2-77#

S-77#

S-77# M-ピフェニリル 0-ピフェニリル とは 百日 上面 区上 百二 ᄪ 되 구 © 工厂 E-3-201 E-3-202 E-3-203 E-3-204 E-3-206 E-3-209 E-3-210 E-3-212 E-3-213 E-3-211 E-3-208 E-3-205 化合物

配加

ᄪ

E-3-117

E-3-119

E-3-118

可

S Ph

E-3-116

E-3-115

阿托

-N-(Ph)2

E-3-114

化合物

(E-3)

可在

1098/08360

1098/08360

. (181)

百千

-N-(Ph)<sub>2</sub>

E-3-214

同在

山田

E-3-215

ギョ

E-3-216

E-3-217

同之

回左

2(II) -N-(Ph)2

雪花

된 된

E-3-218

I

E-3-219

<i>₽                                    </i>
四 同 同 同
E-3-309 E-3-310 E-3-312 E-3-313

T098/08360

	Φ <sub>112</sub>	回木	回	西左	回左	间左	Œ	
	Φ111	2(hd) -N-		A-Ph	(Ph)2		Ph	
	Φ113	La La	ㅋ ©	工柜	मृ	기 E	<u> 구</u>	
(6_3)	化合物	E-3-314	E-3-315	E-3-316	E-3-317	E-3-318	E-3-319	

?!/ **!**:! 国 阿尼 国 回社 回杆 回在 画 回社 画在 i A 国社 2-7-7 # CH3 M-ドフェニリル P-ビフェニリル ルビニェにどっ 世 巨 用 用 园 7. <u>ज</u> 可元 巨 <u>a</u> 년 연 同 E-3-405
E-3-406
E-3-409
E-3-409 E-3-402 E-3-403 E-3-404 E-3-411 E-3-401 E-3-413 E-3-412 化合物

**1**098/08360

(382)

五九

-N-(Ph)2

即在

直

A − Ph

王胆

E-3-416

E-3-417

E-3-415

E-3-414

元命物

. Œ-3)

→N-(Ph)<sub>2</sub>

(E-3)

化合物	Φ113	Φ111	Φ,112
E-3-501		P.	<b>回</b> 新
E-3-502	ᄪ	かんここりん	超和
E-3-503	子回	m-ピフェニリル	配在
E-3-504	中國	バリニエフェーq	到在
E-3-505	<b>4</b>	H	同左
э-3-50e	<b>부</b>		回
E-3-507	工匠		可在
E-3-508	土	2-ナフチル	画
E-3-509	구 <b>回</b>	S CH3	回布
E-3-510	E T	AS S	<b>通</b>
E-3-511	<b>1</b>	N S S	回在
E-3-512	五色		闻先
E-3-513	五	N N N	<b>新聞</b>

回杆

면 다

E-3-418

巨力

E-3-419

回行 回先 回升 回左 面左 回在 国在 巨仟 回左 **回** 1月 回 ひどつエニ:リル 国に 画 프 된 回 되 드 巨 E-3-601 609-6-3 E-3-603 E-3-606 E-3-607 E-3-611 E-3-613 E-3-604 E-3-605 E-3-508 E-3-610 E-3-612 E-3-602 化合物

- - (PH) - N - (PH) -

回左

工匠

E-3-516

E-3-515

回

E-3-517

E-3-519

E-3-518

回在

-N-(Ph)2

E-3-514

化合物

(E-3)

1098/08360

(287)

c		3	ı
ä	÷	-	
•	•		
	٠	-	١
		2	
•		В	
-	-	-	
ц	-	÷	
•	-	_	
	7	٠	
4		e	
	-	į	
•	В	г	
-	Ξ		
в			
1			į
•		•	

回杆 画在 鱼石 N-(Ph)2 (583) 면 ᄪ 出題 E-3-619 E-3-615 E-3-618 E-3-616 E-3-617 E-3-614 化合物

1 드 E-3-702
E-3-703
E-3-704
E-3-705
E-3-706
E-3-709
E-3-710 E-3-701

回布

FI 75

E-3-713

E-3-712

阿杰

區 기

更所

可在

同左

**定** 拍

回江

_

_	
8	
0	
_	
_	
œ	
_	
o	
$\overline{}$	
0	
_	

	Φ111		A.	ルビフェニリル	M-ピフェニリル	かピフェニリル				2-ナフチル	AS SCH,	AS S Ph	N S S		N N N
	Φ113	<b>-</b> C		크 > <sup>트</sup>	<u>귀</u> @	干量	干恤	<b>4</b> 6	<u>구</u>	브	中區	<b>프</b>	子匠	ਜ <b>਼</b>	<u> </u>
(E-3)	化合物		E-3-801	E-3-802	E-3-803	E-3-804	E-3-805	E-3-806	E-3-807	E-3-808	E-3-809	E-3-810	E-3-811	E-3-812	E-3-813
															÷
	i	ı													ĺ
		Φ113	區	画	面在	71)2 周左		画	r ·		. •				
		θ <sup>[]]</sup>	N-(Ph)2		La Pan	a) -N- (b)			Ph						

E-3-718

回打

回行

可拦

E-3-7:4
E-3-7:5
E-3-7:6

回左

巨所

P114. Ф119

Φ115~Φ11B

ルじニェフェー

E-4-2

E-4-1

化合物

(E-4)

雪十

ᄪ

四四

	Ф112	配	国村	回花	配料。	( <b>正</b> (杯	Ŧ	極対	
	4111	2(nd) -N-		A Ph	(Ph)2		ud .	配料	
	Φιιз	-0 <sup>1</sup> 0 <sup>1</sup> 0 <sup>1</sup> 0	<b>→</b> ■	自	<b>꾸</b> 때	<b>되</b>	<b>平</b>		
(E-3)	化合物	E-3-814	E-3-815	E-3-816	E-3-817	E-3-818	E-3-819	E-3-820	

브

E-4-4
E-4-6
E-4-9
E-4-9

H E 国上

ᄪ

E-4-13

国上

E-4-10

<u>ت</u>

E-4-11

E-4-12

		,			
Ø114, Ø139	£	Æ	£	£	Æ
φ <sup>115</sup> ~Φ <sup>118</sup>	-N-(Ph)2		A Ph	(Pn)2	
4120		平圆	平區	區	<u> </u>
化合物	E-4-14	E-4-15	E-4-18	E-4-17	E-4-18

ポーピフェニリル 4115~411B <u>교</u> 귀 国 프 E-4-104 E-4-105 E-4-110 E-4-107 E-4-108 E-4-103 E-4-111 E-4-112 E-4-113 E-4-106 E-4-102 E-4-101

4114. 4119

Ф116. Ф:17

Ф115. Ф118

	Ф114. Ф119	£	똢	£	£	똢	<b>x</b>	I	r
	\$115~\$114	-N-(Ph)2		A Ph	2(Hd) -N-(Ph)2		ルビニェクソ-q	M-ピフェニリル	マインドロング
	Φ120		<u></u> 고	<b>구</b>	프	<u>된</u>	년 보	크 © .	<u> </u> 표
j	化合物	E-4-114	E-4-115	E-4-116	E-4-117	E-4-118	E-4-119	E-4-120	E-4-121

上向 E-4-122 E-4-123 化合物 (E-4)

몺

I

面上

m-ピフェニル 西 百五十 E-4-124 E-4-125

耳耳 E E-4-126 E-4-127

N- (Ph)<sub>2</sub> H

ルニェレス・ロ

E-4-128

**₫** 

E-4-129

I

四日

된 E-4-130

Ф115 - Ph Ф118 - H

9 - 6110 0 111 - Ph

I

Φ113~Φ118

E-4-201

化合物

·	Φ113~Φ118	N-(Ph) <sub>2</sub>		HA-S	a) -N-(b		4- 110- 2110
	Φ120	S	工也	丑鱼	甲甲	<u>부</u> 區	千胆
(E-4)	化合物	E-4-214	E-4-215	E-4-216	E-4-217	E-4-218	E-4-219
	٠						

£

된

可同

回

E-4-202
E-4-203
E-4-205
E-4-206
E-4-207
E-4-209
E-4-209

몺

ጚ

ਜੂ

E-4-211

E-4-212

N N N

E-4-213

4114. 4119

\$113~\$110

-N-(Ph)2

시 (년

五百

/ N-(Ph)<sub>2</sub>

1

면

I

Φ115 - Φ117 - Ph Φ116 - Φ1:1 - H

固と

m-ビフェニリル

山田

D-ピフェニリル

画

ルリニエクオーロ

<u>니</u>

(303)

	<u> </u>													
	Ф114, Ф;19	€.	Ph	a.	Ph.	£	<b>₹</b> .	<del>لا</del>	<b>ተ</b> .	<b>£</b> .	£.	e.	#	Æ
	Φ113~Φ11E	Ph	タピンエニジル	m-ピフェニリル	アドンドニリル				2-ナフチル	S CH	LS S Ph	S S S		N N N
	Φ120	O¢C	可能	屈	ᄪ	工匠	平恒	五匠	田	<u>귀</u> 또	平面	ᄪ	配式	山田
(6-3)	化合物	E-4-401	E-4-402	E-4-403	E-4-404	E-4-405	E-4~406	E-4-407	E-4-408	E-4-409	E-4-410	E-4-411	E-4-412	E-4-413

	Ø114. Ø119	r.	Ph	r.	Pi	ď.	Ph
	0115~0118	2(H9) - N-		H-Ph	(Ph)2		E
	Φ120			<u> </u> 때	<u> 부</u> ⓒ	<u> </u> 프	
( <del>4</del> H)	化中衡	E-4-414	E-4-415	E-4-416	E-4-417	E-4-418	E-4-419

1098/08360

													0.1
A114. 4119	£	Plı	<b>4</b> 2	£	æ	Ą.	#	æ	£	Æ	£	Æ	æ
O115~O116	F.	0-ピンエニリル	M-ピフェニリル	P-ビフェニリル	Ha-Charles		£ \	2-ナフチル	S S	AS S	N S S		N
Ø <sub>120</sub>		<b>구</b> @	臣	<b>1</b>	<u> 1</u>	ゴ風	ᄪ	卫宣	- <b>기</b> 교	星	<b>4</b>	ᄪ	平岡
化合物	E-4-501	E-4-502	E-4-503	E-4-504	E-4-505	E-4-506	E-4-507	E-4-508	E-4-509	E-4-510	E-4-511	E-4-512	E-4-513

I ď I 4115-4118-110-272=1116 Φ115 = Φ118 = 0-ピフェニリル Φ116 = Φ117 - Ph 4にニエレスエニリル m-ピフェニジル タピフェニリル Pービフェニジル 44 a 4110 - 9110 Φ113~Φ118 .1 | |@ 电 画 띡 回 百万 巨 면 巨 피 E-4-526 E-4-524 E-4-522 E-4-523 E-4-525 E-4-519 E-4-520 E-4-521 E-4-518 E-4-515 E-4-516 E-4-617 E-4-514

(304)

Φ113~Φ118

Ø120

化合物

(E-4)

E-4-527

商

E-4-529

回

E-4-528

可广

E-4-612

	•					
Ф114, Ф119	Ph	Ph	Ph	F.	#a	x
Φ113~Φ118	Z(H)-N-		Ha S	C(H) - N - (Ph)2		Ф <sub>115</sub> = Ф <sub>116</sub> = Ph Ф <sub>116</sub> = Ф <sub>117</sub> = Н
Φ120		1 區	7回	무	<u>식</u> ©	平区
化合物	E-4-614	E-4-615	E-4-616	E-4-617	E-4-618	E-4-619

Ф114, Ф119	Æ	£	Æ	£	Æ	f.	£.	묩	Ph	ď	æ	Ph	£
4118~411B	Æ	0-ピフェニリル	m-ピフェニリル	アピフェニリル	d d		£	2-ナフチル	S S CH3	Hd-\S\S\S	Na S S		
Φ130		一里	坦	千世	山田	보 <b>보</b>	· 교	旺	<b>1</b>	- <b>교</b>	4	干遍	구 표
化合物	E-4-701	E-4-702	E-4-703	E-4-704	E-4-705	E-4-706	E-4-707	E-4-708	E-4-709	E-4-710	E-4-711	E-4-712	E-4-713

Φ113~Φ118

E-4-801

_
0
Ö
<u></u>
0
-
-3
=
<u>~.</u>
9
-
_

1098/0	
(311)	

(F-9)				4.
<b>六</b> 合物	οξ1Φ	4110~2110	Ф114, Ф119	•
E-4-714		-N-(Ph)2	Æ	
E-4-715	<b>1</b> =		r.	
E-4-716	平回	A Ph	æ	
E-4-717	平国	4 (Ph)2	Ph	
E-4-718	비 <b>©</b>		Ph	
E-4-719		å å	Æ	
E-4-720		ď	₽.	

アピフェニリル

更

ㅁ

MUCコニコル m-ピフェニリル

直 示

區土

画

E-4-802
E-4-803
E-4-806
E-4-806
E-4-808
E-4-809

면

브

E-4-810

E-4-811

用工

E Ti

E-4-813

E-4-812

(312)

φ<sub>128</sub> Λο Φ<sub>13</sub>: Λο Φ<sub>130</sub>

回杆

画

面在

阿东

Ph 同志

回行

固在

回先 回在

回在

Pb 同在

E-5-6

E-5-7

E-5-5

超阳

豆杯

回在

回加

Ph 间在 间左

國紅

司

同左 同左

回

Ph 剛左

回社

可在

阿左 阿东

可不

回杆

**ተ** 

回竹

回在

阿左 阿左

回行

回在

문

同社

阿尔

间左 间左

阿尔

面在

មួ

Φ121 Φ121

(<del>E-6</del>)

(E-6)

000 0000 AFTAN C m-ピフェニリル m-ピフェニリル 000 000 P-ピフェニリル P-ピフェニリル ELIGNm-ピフェニリル m-ピフェニリル アピフェニリル **@**133 (317) NPh NP<sub>12</sub> ルレニェイカーの 샙 E-7-10 E-7-9 E-7-8 E-7-3 E-7-2 E-7-6 E-7-7 E-7-4 E-7-E E-7-1 化合物 (E-1)

Œ-8)

Color Color Charles Co-NPhs n-ピントニング m-パントニング p-ピフェニリンド P-ピフェニリンド m-アンニニリル m-Kフェニリル アピフェニリル Φ137 NPh2 かピフェニリル Φ<sub>136</sub> E-8-10 E-8-9 E-8-1 E-8-8 E-8-6 E-8-5 E-8-3 E-8-3 E-8-4 E-8-1 化合物

(321)

(G-3)

(321)

G | 122 돈 £ I I I £ 돈 몺 ₽ H 띺 占 I m-ピフェニリル m-ピフェニリル m-ピフェニリル m-ピフェニリル アイフェニリル いーピンホニリル アピフェニリル アピフェニリル 윤 문 Ph 9 £ P. 돐 **Q**139 E-9-12 E-9-10 E-9-11 E-9-9 E-8-6 E-9-8 E-9-7 E-9-5 E-9-4 E-9-3 E-9-2 化合物 E-9-1

1098/08360

. 537Ф										(E-10)
<u>πι</u> Φ	ICIP	. 051ф	itio	\$61 th	n <sub>I</sub> Φ	ЭřiФ	φH	мФ	ΩIΦ	#무기
H	H	11	н	पत	ъ	<b>}</b> 1	H		. 14	
ਪਰ -	ча	н	H	<b>.</b>	H	Н	Н	પત		E-10-1
11	H	Н	H	ητιι → C A				tr.s	·ua	E-10-3
•				40==CA-4	46==62-d	Н	н	н	H	E-10-3
167747-0			11	[1	Н	н	н	1(リニェイター)	リリニエマン・d	E101
1(いニエムスーツ		Н	· <b>H</b>	и.	H	H		<b>が</b> のニエムスーIII		
<b>(</b> )-0-()-	$\bigcirc$ - $\bigcirc$ -	14	H	1.1	П	* •		_		E-10-2
•				••	tt .	Ħ	11	⟨}-∘-⟨}-	$\bigcirc$ - $\bigcirc$ - $\bigcirc$ -	E-10 8
н	н	પત	પત	ud.	पत	પત	Цį	н	11	E-10-3
чa	પત્ત	પત	પા	पंत	ча	ча	Чd	પત	<b>W</b>	8-01-9

(E-10)

										(E-11)
<b>⊠</b> ΙΦ.	<sup>[5]</sup> Φ	091 <b></b>	65 I Ф	<b>\$51</b> Φ	ιςιφ	951Ф	RIΦ	ыф		佛台刀
- पत	्रपत	Н	Н	H	H	Н	Н	·		W. D. J.
1111-124-	Juli = = = ZM	••					1.1	ਪੁਰ	પત	E-11-3
	バルニエとスーの		н	н	н	Н	н	パルニュイソーロ	かいニュイソーロ	E-11-S
ルルニエムス-tu	1111==Z.7-W	Н	Н	H	H	Н		<b>ルビニェイソー</b>		
$\bigcirc$	$\bigcirc$ - $\bigcirc$ - $\bigcirc$ -	Н		14				_	11いニエとコーM	E-11-3
		1.5	н	Н	н	Н	н	$\bigcirc$ - $\bigcirc$ - $\bigcirc$ -	<b>⊘</b> -o- <b>√</b> }-	E-11-3
чa	પત	н	н	Ы	Н	. પહ	Н	पत	ча	9-11-3
ılq .	पत	पत	પત	ાધ	પત	पत	40	. 10		E-11-2
पत	40.		,				นฮ	<b>ા</b>	. પત	9-11-9
	પત	н	н	H.	પત	н	ча	प्रव	ਪਰ	E-11-1

(E-13)

E-13-15

E-13-11

E-13-10

E-13-8

E-13-8

E-13-1

E-13-8

E-13-2

E-13-4

E-13-3

E-13-5

E-13-1

**6**53

Чd

u

11

Ħ

II

11

H

H

H

Н

14

\$41 P

 $\mathbf{H} \leftarrow \mathbf{H}$ 

ЧJ

11

H

14

1-1

14

H

11

H

H

CCI CD

QJ.

ua .

44

ъP

											(E-13)
інф	πιΦ	Itto	αιφ	₩0	191 <sub>©</sub>	τοι Φ	—————————————————————————————————————	ΔIΦ	4)		
<del>-()</del> -	H	14	पत	પત	પત	чd .	. પત		1914)		#무기
<b>₹</b> } <b>&lt;</b> }	11	11	<b>पत</b>	<b>40</b>			10.3	44	11	H	E-15-1
			·	ча	પત	44	પત	441	H	11	E-13-3
	чы	Пq	पत	ਪਹ	иd	Чd	43	પત	પત	Чcl	E-15-3
<del>~~}~</del>	ча	ча	ч	ча	પત	44	પત				
<b>⟨}</b> ⟨ <i>⟩</i>	11	Н	イルニュリル	<b>ルビニュアン</b>				ч <del>а</del>	પત	ં પદા	E-15-1
						165=67-0	11(1==CA-0	141	11	11	F-15-2
	11		400=747-8	11いニエムスー世	44	ないニエムコーロ	11いニエCコ-W	чJ	41	11	E-15-8
~~~~	11	H	$\bigcirc$ - $\circ$ - $\bigcirc$ -	<b>⟨</b> }-o-⟨}-	પત	$\bigcirc$ - $\circ$ - $\bigcirc$ -	⟨¬> ∘ ⟨¬>	<b>u</b> .	Ħ		
<b>-€}</b> -	11	11	<b>ルルニュイソー</b> の	<b>ポルニェムソーク</b>			<b>-</b>			[]	L-21-3
-()-	1-1	Ħ				<b>ルリニェクン-d</b>	<b>ル</b> じニエビコーロ	ild.	H	11	E-15-8
				<b>化ルニェイソー</b> の	<b>L</b> I	ないニェCス-W	<b>ルリニュヒソー</b> の	44	11	11	E-13-9
-{~}-	11	Н	<b>⟨</b> }-o- <b>⟨</b> }-	$\bigcirc$ - $\bigcirc$ - $\bigcirc$ -	ψĮ.	$\bigcirc$ - $\bigcirc$ - $\bigcirc$ -	<b>⟨</b> _}~o- <b>⟨</b> _}	્યત	11,	11	B-13-10

8

ε

ε

E

3

ţu

				FI		н	·	· ·-	н	-	E-14-11
(E-14)	. 2		11	. II	44	11	ti.	પત	H	-	E-14-10
	<b>7</b>		н	н	44	Ж	н	44	н -	-	E · 14-6
8. <del>0</del>	7		цd	н	_	14	н	11.	ы	ча	E-14-8
Ē	2		પત	н	_	н	н	11	H	पत	E-14-3
g g	. 7		ча	H	-	Н	н	11	н	4ત	9-11-3
9203 F 202	z	-	पत	н	पत	-	H	પત	н	ча	g-11-3
	z	~\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	Чd	И	पत	-	н	પત	H	Цj	1-11-0
	2	<b>₹</b> }	પત	н	पत	· <b>-</b>	H	પત	н	प्य	E-14-3
63 11 1	2	-(T)-(T)-	чa	н	• н	-	11	I	H	પત	E-14-5
) <del>o</del>	2	-{¬}-	પત	Н	н	<b>-</b>	H	H	14	44	E-14-1
€ .	Lu	MS®	ιατφ	tot o	rus.	ممحث	ф,	M1 <sup>®</sup>	μIΦ	%•o 	<b>体</b> 鲁지
			<del></del>	<del></del>							(E-14)

発光層における正孔倫送住のホスト材料および電子輸送性のホスト材料は各々 1種のみ用いても2種以上を併用してもよい。

L1-V1-3

E-14-16

E-14-12

P[-14-14

E-14-13

E-14-15

特导型

(F1-3)

H

H

11

Н

Н

14

%I ⊕

11

H

H

Н

Н

11

161 **D** 

Ħ

H

Н

Н

Н

Н

161<sub>(1)</sub>

H

H

H

Чd

ьµ

પત

661 D

11

H

11

ча

ųJ

પ્ય

00Z<sub>4</sub>,

 $\mathbf{H}$ 

Н

Н

1024

11

Н

Н

H

п

Н

 $\varpi t_{\Phi}$ 

Н

H

H

£0₹Φ

roz<sub>Φ</sub>

性および輸送性の層、および降極側に電子住入性および/または輸送性の層が設けられている。この場合の正孔往入性および/または輸送性の層、電子注入性お このような有機EL素子においては、発光層を被持する形で関係側に正孔往入 よび/または輸送性の層、陽極、除価等は前記と同様である。

また、混合層をはじめとする有機化合物層の形成方法等の有機をし業子の製造

(331)

方法についても前記と同様である。

交後駆動またはパルス駆動することもできる。印加電圧は、通常、2~20V程 本発明の有機をし案子は、通常、直流駆動型のEL素子として用いられるが、 食とされる。

医殖虫

以下、本発明の具体的実施例を示し、本発明をさらに詳細に説明する。

(安施明1)

様し、UVオゾン発学後、機能核偏の基版ホルダーに固定して、1×10-61016 セトン、エタノールを用いて超音波洗浄し、煮沸エタノール中から引き上げて乾 厚さ100mmの1T0透明電径(陽径)を有するガラス基板を、中性洗剤、 まで対圧した。

4" -トリス (-N- (-3-メチルフェニル) -N-フ ェニルアミノ)トリフェニルアミン(MTDATA)を蒸着速度 2m/secで5 Onmの厚さに蒸着し、正孔柱入層とした。 . . 4. 次いて、

(N- (m-ピフェニル) -N-フェニル) アミノピフェニル-4-イル) ベン 例示化合動!!-102のN, N'-ジフェニル-N, N'-ピス- (-4' ジジンを、栽培拠度 2ng/sec-で 2 0 ngの厚さに栽培し、正孔椿送暦とした。

例示化合物1-201とトリス (8-キノリノラト) アルミニウム ( A1Q3)を重量比で2:100の比率で、50mの厚さに蒸増し、発光層とし ※いて.

次いで、対圧状態を保ったまま、電子注入輸送層として、トリス(8ーキノリ

算度の学校期は10m/cmlの定義液配勢で890時間(初期算度128を4/ 000時間以上安定していた。部分的非発光部の出現および成長は全くなかった m<sup>2</sup>、駆動電圧上昇1.5V)、初期輝度30Gd/m<sup>2</sup>では4500時間であった

(東海政2)

- (N, N-EX (M-E7x=N) 73/E7x=N-4-1N) A 実施例1と同様に裏子を作製した。ただし、正孔輸送層に、例示化合物-1 -371=11-N. N' -KA 02の代わりに例示化合例1-101のN, N'

このEL来子に電圧を印加して電液を液したところ、 $1.4\,\mathrm{V}\cdot7.5\,\mathrm{M}/\mathrm{ce}^2$ この発光は乾燥窒素雰囲気中で1000 度の半紋即は1 0m/cm2の定電液配動で6 8 0時間(143 3cd/m2、駆動電圧 0時間以上安定していた。部分的非発光部の出現および成長は全くなかった。類 で100480cd/m2の緑色 (発光極大波長 Amax=525am, 色度座標×=0: 上昇1.5V)初期輝度300cd/m2では4000時間であった。 31y=0.66)の発光が確認され、 ソジジンを用いた。

(安施例3)

実施例1と同様に棄子を作製した。ただし、発光層に、例示化合物1-201 の代わりに例示化合物1-203を用いた。

時間以上安定していた。部分非発光部の出現および成長は全くなかった。輝度の で69500cd/m2の緑色(発光極大波長 Amms = 515mm、色度座標×=0.26y=0.66)の発光が確認され、この発光は乾燥整束雰囲気中で10000 このE L 楽子に電圧を印加して電流を流したところ、13V・55 M/cm<sup>2</sup>

半波期は10m/calの定電液配動で600時間(1078cd/ml、配動電圧上昇 1. 5V)初期算度30 Ocd/s1では400 O時間であった。

(安涵與4)

実施例1と同様に妻子を作製した。ただし、発光層に、例示化合的1-201 の代わりに例示化合物1-202を用いた。

このEL来子に電圧を印加して電流を流したところ、14V・76 MA/cm²

68)の発光が確認され、この発光は乾燥アルゴン雰囲気中で10

このEL来子に電圧を印加して電流を流したところ、14V・80 MA/cm<sup>2</sup>

で103800cd/m2の緑色 (発光極大波及 Amax=525nm、色度座標×=0.

20m/secで200mの厚さに蒸増して陰低とし、保護器としてA1を100m

さらに、対圧状態を保ったまま、MBAB (重量比10:1)を蒸着速度の.

ノラト) アルミニウムを蒸着液度 0. 2nm/secで10mmの厚さに蒸着した。

**W**098/08360

時間以上安定していた。部分的非発光郎の出現および成長は全くなかった。 輝度 9y=0.64)の発光が確認され、この発光は乾燥窒素雰囲気中で10000 の半試開は10mX/cm2の定電流駆動で800時期(998cd/m2、駆動電圧上昇 で7 1 7 0 0cd/m2の緑色(発光極大波長 Amas = 5 1 5mm、色度座標×=0.

5V)初期輝度300cd/m2では5000時間であった。 (東施町5)

実施例1と同様に妻子を作製した。ただし、発光層に、例示化合物1-201 の代わりに例示化合物1-103を用いた。

3y=0.63)の発光が確認され、この発光は乾燥整束雰囲気中で10000 時間以上安定していた。部分的非死光郎の出現および成長は全くなかった。輝度 の半減期は10m/cm2の定電液配動で3000時間(730cd/m2、駆動電圧上 このEL素子に電圧を印加して電波を流したところ、16V・98 GA/ca<sup>2</sup> で61400cd/s2の緑色 (発光極大波長 Antr=510m、色度座標×=0. 昇8.0V)初期輝度30 Ocd/m²では10000時間であった。

斑筋例 1 と同様に素子を作製した。ただし、発光層に、例示化合物 1 - 2 0 1 の代わりに例示化合物1-104を用いた。 (海瀬町)

で40300cd/m2の緑色 (発光極大波長 Amax=500mm, 色度座領×=0.2 3y=0. 58)の発光が確認され、この発光は乾燥窒素雰囲気中で10000 時間以上安定していた。部分的非発光部の出現および成長は全くなかった。輝度 このEL来子に電圧を印加して電流を挽したところ、12V、62 SA/cm<sup>2</sup> の半減期は10m/cm2の定電液駆動で800時間 (680cd/m2、駆動電圧上

昇2.6V)初期輝度300cd/s²では4000時間あった。

実施例1と同様に来子を作製した。ただし、正孔輪送層に、例示化合物-1 020RDDEN, N' - KZ (-3-XFNJILN) -N, N' -YJIL ルー4. 4' -ジアミノピフェニル (TPD001) を用いた。

このEL菓子に電圧を印加して電洗を洗したところ、13V・518A/cm<sup>2</sup>

で7 1 7 0 0cd/m2の緑色 (発光極大波長 Amix = 5 2 5mm、色度座標×=0. 2 281cd/m²、駆動電圧上昇1.5V)初期輝度30Cd/m²では800時間であ 時間以上安定していた。輝度の半減期は10m/cm3の定電液駆動で65時間 (1 8y=0.66)の発光が確認され、この発光は乾燥窒素雰囲気中で10000

実施例 1 と同様に素子を作覧した。ただし、正孔倫送層に、例示化合物 - 1 02の代わりにN, N' -ピス (-3-ピフェニル) -N, N' -ジフェニル-(比較到2)

7 3 Ocd/m²、駆動電圧上昇 2. 0 V) 初期輝度 3 O Ccd/m²では8 O O時間であ で81000cd/m2の緑色 (発光極大波長 Amba = 525mm、色度座標×=0.3 時間以上安定していた。輝度の半減期は10m/cmlの定電液駆動で68時間(1 2 y = 0. 65)の発光が確認され、この発光は乾燥窒素雰囲気中で10000 このEL素子に電圧を印加して電液を流したところ、14V・53 MA/cm<sup>2</sup> 4. 4' -ジアミノピフェニル (TPD006) を用いた。

(比較)3)

02の代わりにN, N' -ピス (-3-t-ブチルフェニル) -N, N' -ジフェニル-1, 1' -ピフェニル-4, 4' -ジアミン (TPD008) を用いた 実施例 1 と同様に楽子を作製した。ただし、正孔韓送暦に、例示化合轄 - 1

で7 9 3 0 0cd/m2の緑色(発光極大波長 Amix = 5 2 5mm、色度座領×=0.3 0y=0.66)の発光が確認され、この発光は乾燥窒素雰囲気中で10000 このEL妻子に電圧を印加して電波を洗したところ、13V・50 &A/cm²

7 4 9cd/a2、駆動電圧上昇1. 4V)初期輝度30 Crd/a2では500時間であ 時間以上安定していた。輝度の半減期は10m/cm1の定電液配動で29時間(1

実施例1と同様に素子を作製した。ただし、正孔軸送暦に、例示化合物-1 (共数数4)

(336)

2にまと

あった。 以上の実施例1~6、比較例1~6の有機EL素子の特性簡を授1、

02の代わりにN, N', N'ーテトラキス (-m-ピフェニル) -1, 1 '-ピフェニル-4, 4'ージアミン (TPD005) を用いた。

(1842cd/m², 驱動電圧上昇1.8V) 初期輝度30 Cd/m²では1600時 0時間以上安定していた。輝度の半減期は1 GBA/cm1の定電流駆動で115時間 28y=0.68)の発光が確認され、この発光は乾燥窒素雰囲気中で1000 このEL素子に電圧を印加して電流を流したところ、14V・64 MA/cm<sup>2</sup> で102700cd/m2の緑色 (発光極大波及 Amax=525nm、色度煌観 x=0.

実施例1と同様に妻子を作製した。ただし、正孔注入層に、例示化合物-1 -N-フェニル) アミノピフェニルー4ーイル) ベンジジン 020Rtbben, N' -371=11-N, N' -27- (-4' - (N- (3 (TPD017) を用いた。 - メチルフェニル) (共衆党5)

で75600cd/m2の緑色 (発光極大波長 Amax = 525mm、色度座線×=0.3 2 y = 0. 66)の発光が確認され、この発光は乾燥窒素雰囲気中で10000 時間以上安定していた。輝度の半紋期は1 GA/ca2の定電液配動で197時間 1156cd/m2、配助電圧上昇2.3V初期輝度300cd/m2では2000時間 このEL業子に電圧を印加して電流を挽したところ、14V・71 SA/CB<sup>2</sup>

[V2.1.\*a\bou83]

わりに下配のキナクリドン (例示化合物11-1) を用い0. 7 5vi&となるよう 政施例 1 と同様に妻子を作製した。ただし発光層に例示化合物 1 - 2 0 1 の代

(800cd/m²、驅動電圧上昇3.2V)初期輝度30cd/m²では500時間で 0時間以上安定していた。輝度の半減期は1 GM/cm2の定電流駆動で100時間 37y=0.60)の発光が確認され、この発光は乾燥窒素雰囲気中で1000 このEL素子に電圧を印加して電流を洗したところ、16V・84 MA/cm<sup>2</sup> で6000cd/m2の資禄色 (発光極大波長 Amax=540nm, 色度座領×=0.

+1-104

11-105

EDIA

3院放表

(背)

**600m** 

(124-625m\/cm²)

40300cq\m\_

10000mrELE **±1008** 4000th +1-103 (苔) ("ED\Add&.Yal) [VO.8, \*N\boosr ] 3限裁束 COLA 11-105 malla \*\*\bo00113 773-4000DE 3000PL 100000F +1-505 (料) (144.1634Van) [Vd.1,\*m\bo899] 4個故東 EDIA 201-11 andid 11100cd/m2 10000mtkl **±1003 ⊅[0009**5 +1-503 (数) (\*m\\mc22·V?() [1038c4/ms, 1, 5V] **医内部**基 EDIA 11-105 målð ,#/p>00969 刊3四00001 **24009** #10001 102-E+ (档) (Idh-163m/\csi) [1433d/=\*, 1.5V] SNAX VIOS 101-11 mass 104800cd/m\* नातम्बर्वे व्यव **MD83** 40007 +I-201 (料) ("m=\\a008-V}!) [1288cd/s\*, 1. 5V] 1 限新寒 VI03 11-102 **-**1379 103200004\= नातम्प्र0000ा **20065** 4200JA [展土五章、数和规(()] (300cd/a\*) r•= Y 間취宝法 定单流域動 (10mA/cm²) 多国政机体 464.A 果光纸 副去為八五 \* ¥ CO ES ES 觀 繁 素 ŧ

(200cq/m <sub>s</sub> )	本 O 更 的 注 法国际 (10m/cm²)	問科式接	# # # #	7* <b>-</b> ¥	<b>有效线形</b> 耳	<b>1</b>	AFCI
-म्प098	69 <del>2.</del> [1.54]	10000PETE	11100cd/m²	end2d (料)	10004T	+1-501 V103	114877
<b>™</b> 1008	68br [1730cd/m", 2, 07]	T7:3-400001	\$1000cd/e <sup>2</sup> {*co\Am553·Ve1}	mnGSZ (発表)	3000qT	+1-201 103-1+	7 <b>1420</b> 7
#4)OS	298 [1149cd/m², 1, 4V]	771 <del>-4</del> 00001	"=\bo0cet ("=::\bo0cet	- (計)	- 8000FIT	41-201 +1-201	EM237
. <b>⊅</b> £20€ <b>J</b> £.	1]24.1.*a\b3\81]	नातम्प०००वा	105700cd/w <sup>e</sup>	mcss (発表)	2000717	+1-507 VIO2	<b>11681</b> 1
<b></b>	1976r [1156cd/=".2.3V]	刊台2000年	*a\bo0067 (*m\\ad17-Y\f)	(数) (数)	FEOURT	192-I+	SMAT
<b>40</b> 09	100m {\$00m\m², 3. 2Y}	干酒====================================	(16V·840m\/cm*)	<b>mole</b> (衛統)	11-105	SDIA CTPCLF+	9 MATT

上配結果より、式(1)のクマリン誘導体と式(11)のテトラアリールジアミン制 存体とを組み合わせた本発明のEL来子は発光寿命が長いことがわかる。

ガラス基板上にカラーフィルター膜を富士ハント製CR-2000を用いて塾 布により1 mmpに形成し、この上に赤色蛍光変換膜を富士ハント製CT−1に (実施例7)

BASF約Junogen F Red 300 を2miX路解したものを用いて動布しペークして5 パッタし陽低付赤色楽子基板を作毀した。この基板を用い、実施例1と同様に楽 umpに形成し、さらにこの上にオーバーコートを育士ハント製CT-1を用い て独布しベークして 1 44厚に形成した。この上に、厚さ 1 0 044の 1 TOをス

り、赤色蛍光変換材料は発光極大波長 Astが6 3 Omであり、Asst付近のスペ 上記のカラーフィルター材料は58 0m以下の改長の光をカットするものであ 子を作製した。

クトルの半値幅は50mであった。

で9000cd/m2の赤色 (発光極大波長 Amax=600mm、色度座標 x=0.60 y=0.38)の発光が確認され、この発光は乾燥窒素雰囲気中で10000時 このEL素子に電圧を印加して電焼を渡したところ、15V・61 SA/cm² 町以上安定していた。部分的非発光部の出現および成長は全くなかった。

(実施例8)

00時間 (1173cd/m²、駆動電圧上昇2.5V)、初期輝度300d/m²では で7 9 8 0 0cd/m²の緑色(発光極大波長 Jusz = 5 2 5ms、5 5 5ms、色度座標 38y=0.57)の発光が確認され、この発光は乾燥窒素雰囲気中で 10000時間以上安定していた。輝度の半減期は10A/cm<sup>2</sup>の定電液駆動で7 実施例1において、正孔倫送層を例示化合例1-102とルブレンとを10: このEL来子に包圧を印加して電散を挽したところ、14V・75 &A/cm² 1(重量比)で用い、共煮着により形成するほかは同様にして楽子を作毀した。 4500時間であった。 × = 0.

実施例1において、発光層を、正孔注入輸送性化合物としてN, N, N', N

アルミニウム(AIQ3)を各々用い、ほぼ阿じ森岩速度の、 5m/secで蒸落し ン (TPD005) 、電子注入輸送性化合物としてトリス (8-キノリノラト) -テトラキス (-m-ピフェニル) -1,

、それと同時に例示化合的1-103も基着速度約0.002m/secで基着して

届は50mm以、TPD005を用いた正孔輸送層は10mm以、A1Q3を用いた 例1と同様にして菓子を作製した。ただし、MTDATAを用いた正孔住入他送 例示化合物1-103=50:50:0.7 (映厚比) である。そのほかは実施 4 0 18厚の混合層として形成した。 避合層において、TPD005:A1Q3:

時間以上安定していた。輝度の半減期は1 GA/cm2の定職液配動で6000時間 (1030cd/a1, 驅動電圧上昇2.0V),初期輝度30cd/a2では2000 0y=0.60)の発光が確認され、この発光は乾燥窒素雰囲気中で10000 このEL妻子に亀圧を印加して電液を液じたところ、18V・60m/ / cm² で54000cd/m2の緑色 (発光極大波長 Janx=510m, 色度座線x=0. 電子注入輸送層は4 Ons厚とした。

比較例4の混合層を用いない構成の来子に比べ格段と特性が向上することがわ 0時間であった。

(東福伊10)

実施例1において、正孔注入層を40m厚に形成し、正孔伸送層をTPD00 9と阿格にTPD005とAIQ3と例示化合物1-103とを用いて形成する この上に発光層を実施的 6 七 ルプレン (7mix) とを用いて 2 0mm 呼に形成し、 ほかは同様にして来子を作製した。

500時間 (900cd/m²、駆動電圧上昇 2.0V)、初期輝度30cd/m²では で67600cd/m2の緑色 (発光極大波長 Anni=510ms, 550mm, 色度磨痕 10000時間以上安定していた。資度の半減期は10A/cm2の定電流駆動で6 38y=0.56)の発光が確認され、この発光は乾燥窒素雰囲気中で このEL来子に電圧を印加して電流を挽したところ、12V・6564/cm² 5000時間であった。

-201も蒸着速度約0.015m/secで蒸増して40m厚の配合 ■として形成した。返合層において、例示化合物1−1.02:AIQ3:例示化 Ona厚、11-102を用いた正孔輸送層は10mm厚、AIQ3を用いた電子住入 合物1-201=50:50:1. 5 (映厚比) である。そのほかは実施例1と 同格にして素子を作製した。ただし、MTDATAを用いた正孔柱入館送層は5 **阿沃尔伯他** 

(1100cd/m²、駆動電圧上昇2.0V)、初期輝度30cd/m²では1800 時間以上安定していた。輝度の半減期は1 GA/cm2の定電流駆動で4000時間 9 y = 0. 67)の発光が確認され、この発光は乾燥窒素雰囲気中で10000 このEL素子に電圧を印加して電液を流したところ、 $1.3\,\mathrm{V} \cdot 7.5\,\mathrm{GA}/\mathrm{cm}^2$ で98000cd/m2の緑色(発光極大波長 Amix = 525mm、色度座標×=0. **輸送層は20四周とした。** 0時回であった。

(実施例12)

実施例1において、正孔注入層を 4 0m厚に形成し、正孔伸送層を例示化合物 ||- 102とルブレンとを用いて20m厚に形成し、この上に発光層を実施例9 と同様に例示化合物!-102とA1Q3と例示化合物!-201とを用いて形 成するほかは同様にして来子を作製した。

6000時間(1050cd/m²、駆動電圧上昇1.5V)、初期輝度300d/m² で80000cd/m2の類緑色 (発光極大波長 Amax=525nm、560nm、色度座 で10000時間以上安定していた。資度の半減期は10A/cm2の定電流配動で 展×=0.40y=0.55)の発光が確認され、この発光は乾燥窒素雰囲気中 このEL菜子に電圧を印加して電液を洗したところ、13V・90 GA/ca<sup>2</sup> では25000時回であった。

- 1 (キナクリドン) を用いて同様に来子を作数し、特性を聞べたところ、良好 実施例9、10において、例示化合例1-103の代わりに、例示化合物1 な特性を得た。

(安施例14)

Sua/secで被指し、それと関節に

実施例 1 において、発光層を、正孔在入輸送性化合物として例示化合物 - 1 02、電子往入輸送住化合物としてトリス(8-キノリノラト)アルミニウム A1Q3)を各々用い、ほぼ同じ蒸着速度0. (東施利11)

**1**098/08360

32

実施例9、10において、例示化合物1-103代わりに、例示化合物-1 (スチリル系アミン化合物) を用いて同様に素子を作数し、特性を調べたところ 良好な特性を得た。

(実施例15)

安施例11,12において、例示化合物1-201の代わりに、例示化合物 |-1 (キナクリドン)を用いて同様に東子を作数し、特性を聞べたところ、良 好な物性を得た。

(新新型16)

実施例11、12において、例示化合例1-201の代わりに、例示化合例 - 1 (スチリル条アミン化合物)を用いて同様に果子を作数し、特性を調べたと ころ、良好な特性を得た。

次に多色発光に対応した有機区し来子の実施例を示す。まず、これらの実施例 等に用いた正孔注入層用の化合物HIM、正孔輸送層用の化合物および正孔輸送 性のホスト材料として用いられるTPD005は以下に示すものである。

TOOOS

次いた、クマリン記録符(密水汽台を1-103)、ルブアン(密水汽台を1 22) およびトリス (8-キノリノラト) アルミニウム (A1Q3) の発光ス

スクトルを参数倒として示す。

<歩単座□>

クマリン誘導体の発光スペクトルを図2に示す。このときの発光スペクトルは 以下に示すような構成の有機をし業子を用いて別定したものである。

厚さ100mの1TO透明電極 (陽極)を有するガラス基板 (1. mm厚)を 、中性洗剤、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄し、煮沸エタノール中から引き上げて乾燥し、NYオゾン洗浄後、蒸着装置の基板ホルダーに固定して、1 有後EL素子の作数

次いで、凡 K' - ジフェニル N K' - ピス [N-フェニル・N-4- トリル(4-アミノフェ **ニア)] ヘンジジン(HIM)を栽培選択 3m/secで50mの呼さに栽培し、** × 1 0-6 torr まで対圧した。

正孔住入間とした。

NNN'N-テトラキス (3-ピフェニルトイル) ベンジジン (TPD005) を蒸着速度 2m/secで 10mの厚さに蒸増し、正孔輸送器とした。

さらにトリス (8-キノリノラト) アルミニウム (A1Q3) とクマリン関導 体とを蒸締遊成 2mm/secと 0.0 2mm/secで状態強し、クマリン配導体が1... Ovol %となる電子輸送住発光層を 7 Chaの厚さに形成した。

2nm/secで200mmの厚さに蒸増して破倒とし、保護層としてAlを100m さらに、滅圧状態を保ったまま、M8A8(重量比10:1)を蒸着速度の. 蒸増し有機EL素子を得た。

図2からわかるように、クマリン誘導体は6.10m付近に発光循大波長を有す る。発光スペクトルの半値巾 (ピーク強度の半分の点の巾) は7 色であった。 ルブレンの発光スペクトルも図3に示す。このときの発光スペクトルは以下に 示すような様成の有機を上業子を用いて別定したものである。 有機EL素子の作製 厚さ100mmの1TO透明電極 (隔極)を有するガラス基板 (1. mm)を 中性洗剤、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄し、煮沸エタノール中か 3

T098/08360

次いた、N.N.-ジフェニル-N.N.-ピス [N-フェニル-N-4-トリル(4-アミノフェニル)] ペンジジン(H.I.N)を基金液度 3m/ secで 1.2mの厚さに蒸着し、

正孔柱入層とした。

N.N.N. - デトラキス- (-3-ピフェニル-I-イル) ペンジジン (TPD006) を蒸着速度 2cm/secで 1 2cmの厚さに蒸着し、正孔値送層とした。

さらに、TPD005とトリス(8-キノリノラト)アルミニウム(A 1 Q 3)とを体援比が1:1となるように、かつルブレン(例示化合物 1 — 2 0)を2.5 vol %合むように 4 Onaの厚さに共蒸油し、混合器タイプの第 1 の発光層とした。このときの蒸棄液度は、適に 0.0 Gna/sec、 0.0 5 na/sec、 0.0 0 2 5 na/secとした。

次いで、成圧状態を保ったまま、電子注入輸送発光層として、トリス(8キノリノラト)アルミニウム(A 1 G 3)を蒸設速度 0. 2m/secで 2 2 mの浮さに煮着した。

さらに、以圧状態を保ったまま、MgAg (国際比10:1)を蒸発速度の. 2ma/secで200maの厚さに蒸遊して微値とし、保護層としてAlを100m 煮溜し有機EL業子を得た。 図3からわかるように、ルブレンは560m付近に発光値大波長を有する。発 光スペクトルの半値中は75maであった。

〈参考例3〉 クマリン試算体の発光スペクトルを図2に示す。このときの発光スペクトルは 以下に示すような構成の有機EL素子を用いて浏定したものである。

有機EL森子の作製 トリス (8-キノリノラト) アルミニウム (A 1 Q 3) の発光スペクトルを図 4に示す。このときの発光スペクトルは以下に示すような構成の有機EL素子を E

有機EL業子の作数

厚さ100mmの1TO透明電極(隔極)を有するガラス基板(1. mmp)を、中性洗剤、アセトン、エタノールを用いて組音波洗浄し、煮沸エタノール中から引き上げて乾燥し、UVオゾン洗浄後、蒸着装置の基板ホルダーに固定して、

1×10<sup>-6</sup>lorrまで**似圧した。** 次いで、4、4、4、4" -トリス(-N- (-3-メチルフェニル) -N-フェニルアミノ)トリフェニルアミン(MTDATA)を蒸発速度 2m/secで4 0 maの厚さに蒸落し、正孔柱入層とした。

N. N. N. N. ーテトラキス (-3-ピフェニル-1-イル) ペンジジン (TPD005) を、蒸港速度 2mm/secで15mmの厚さに蒸着し、正孔勧送層と

次いで、故圧状態を保ったまま、電子注入輸送性の発光層として、トリス(8-+ナノリノラト)アルミニウムを蒸着速度の. Sm/secで70mの厚きに蒸着し

さらに、成圧状態を保ったまま、M.B.A.B.(国雪比10:1)を蒸着速度の. 2mm/secで200mmの厚さに蒸増して徴値とし、保護層としてA.1を100m 蒸着しEL業子を得た。

図4からわかるように、トリス (8キノリノラト) アルミニウム (A 1Q3) は540m付近に発光極大波長を有する。発光スペクトルの半値巾は110mであった。

< 実施例17>

厚さ100mmの1T〇通明電極(陽極)を有するガラス基板(1. mmp)を、中性洗剤、アセトン、エタノールを用いて超音液洗浄し、煮沸エタノール中から引き上げて乾燥し、Mオゾン洗浄後、蒸着装備の基板ホルダーに固定して、1×10-glortまで試圧した。

※いた、K.N.-ジフェニル-K.N.-ピス(N-フェニル-N-4-トリル(4-アミノフェニル)] ヘンジジン(H.I.M)や機能施収のm/secで20mの呼ばに機能し、Fizaはmmaniを

いて別定したものである。

(3g)

KKK".K-デトラキス- (-3-ピフェニルーイル) ベンジジン (TPD006 を蒸発速度 2mm/secで15mmの厚さに蒸発し、正孔輸送層とした。

した。このと並の繊維法度は10.0 cm/sec.0.0 cm/sec.0.00 とを体積比が1:1となるように、かつルブレン (例示化合物1-22) を2 6vol%合むように 2 Oomの厚さに共蒸争し、超合階タイプの第 1 の発光層と さらに、TPD005とトリス(8キノリノラト)アルミニウム(A1Q3 25m/sechした。

し、低台層タイプの第2の発光層とした。このときの栽培液度は隠に0.0~6~ ン既得体の例示化合物 1 — 1 0 3 を 1 0 vol %合むように 2 0mmの厚さに共蒸着 また、TPD005とA1Q3とを体視比が1:1となるように、かつクマリ

/sec. 0. 0 Pus/sec. 0. 0 0 Ins/secとした。 次いで、故圧状態を保ったまま、電子注入輸送発光層として、トリス(8キ ノリノラト)アルミニウム(A 1 Q 3)を積着速度 0. 2m/secで 5 0 nmの厚 さらに、対圧状態を保ったまま、MBAB (重量比10:1)を蒸着速度0. みに熟着した。

この有機EL来子に電圧を印加して電液を流したところ、1g・50mA/cm<sup>2</sup> で5000cd/m2の資料色 (発光極大波長 Anix=560m, 500m, 色度座標 **厚度1000cd/m²、初期配動電圧7.2V、配動電圧上昇3.0V)であった** x=0.39y=0.55)の発光が確認され、この発光は乾燥アルゴン雰囲気 中で1000時間以上安定していた。部分的非発光部の出現および成長は全くな 2 na/secで 2 0 0maの厚さに蒸増して陰極とし、保護層としてA 1 を 1 0 0m かった。阿度の半規則は1 CmA/cm3の定電流駆動駆動で40000hr (初期 燕雅 心有機 医 上来子 を得た。

兄光していることがわかる。この場合の兄光スペクトル比C/R、クマリン誘導 体 (510mm) /ルプレン (560mm) は0. 65であった。また、発光スペク トルの半値巾 (最大ピークの強度の半分の点の巾) は120mであり、クマリン 図5に発光スペクトルを示す。図5より、クマリン誘導体とルブレンがともに 紙等体、ルプレンともに発光していることがわかる。また、実施例9に比べ着し

く寿命が延びている。したがって、ルブレンを含む混合層が長寿命化に寄与して いることがわかる。

会を2~

Sec. 28. ルブレンとクマリンとを各義増速度 0. ham/sec、 0. 0 0 2 5nav/sec、 0. 0 TPD005の正孔輸送層を形成したのち、A1Q3と 含む電子輸送性の発光層を 4 Ona厚に形成し、その後 A 1 Q 3の電子注入輸送層 Evol %、クマリン転車体を1. を50mpに形成するほかは同様にして有機EL業子を得た。 0 1 ma/sec で共獲着し、ルブレンを 2. **製施例17において、** 

がわかる。このときのC/RはOであり、発光スペクトルの半値中は7 mであ この発光スペクトルを図6に示す。図6からルブレンのみが発光していること

**人比較更8>** 

比較例?において、発光層のホスト材料をAIQ3のかわりにTPD005と した正孔倫送性の発光層を形成するほかは同様にして有機EL素子を得た。

がわかる。このときのC/Rは0であり、発光スペクトルの半値中は7 mであ この発光スペクトルを図りに示す。図りからルブレンのみが発光していること

**△元数型9~** 

ルブレンを各基番遊度 O. Jum/sec、O. O O 2 2um/secで共義者し、ルブレン を 5. 2vol %合む電子輸送性の発光層を 5 Challpに形成し、さらにこの上にAiの3 とクマリン誘導体を各蒸盪速度 0. nm/sec 、0. 0 0 1nm/sec で共蒸篭 その後AIQ3の電子注入輸送器を50m厚に形成するほかは同様にして有機 **実施例17において、TPD005の正孔輸送層を形成したのち、A1Q3と** し、クマリン誘導体を 1. Ovol %含む電子輸送性の発光層を 2 Ona厚に形成し 臣上案子を得た。

わかる。このときのC/RはOであり、発光スペクトルの半値巾は7 Gaであっ この発光スペクトルを図るに示す。図8からルブレンのみの発光であることが

比較例9において、2層様成の発光層のホスト材料をともにTPD005とした正孔倫送性の発光層を2層形成するほかは同様にして有機EL業子を得た。

 実施例17において、TPD005の正孔を送暦を形成したのち、TPD005とルブレンを名務着遺貨0、1na/sec、0、0025na/secで共務省し、ルブレンを2、5vo1%合む正孔を送性の発光層を20mpに形成し、次いでA1Q3とクマリン既等体を名乗着速度0、1na/sec、0、001na/secで共栽組し、クマリン既等体を1、0vo1%合む電子を送性の発光層を20mpに形成し、その後A1Q3の電子注入を送間を50mpに形成するほかは同様にして有機E1当する話を

この有機EL表子に電圧を印加して電液を流したところ、13・50m/cm<sup>2</sup>で4500cd/m<sup>2</sup>の資禄色(発光極大波長 Amax = 560m, 510m, 色度磨硬 x = 0. 42y = 0. 54)の発光が確認され、この発光は乾燥アルゴン桝田気中で10時間以上安定していた。部分的非発光部の出現および成長は全くなかったいた。輝度の半減期は10m/cm<sup>2</sup>の定電流配動配動で100hr(初脳輝度)1000cd/m<sup>2</sup>、初期駆動電圧 6. 5V、駆動電圧上昇3. 0V)であった。

図10に発光スペクトルを示す。図10より、クマリン研導体とルブレンがともに発光していることがわかる。この場合の発光スペクトル比C/Rは0.5であった。また半値中は80mmであった。

このものでは、クマリン誘導体とルブレンの発光がみられるが、発光寿命が短く変用的でないことがわかった。

文庫の17において、TPD005の正孔輪送暦を形成したのち、TPD005と A I Q 3 とルブレンを名務構造成の、0 5m/sec、0、0 5nm/sec、0・00 2 5nm/secで共機増し、TPD005:A I Q 3が1:1となり、ルブレンが

2. 5vol %合まれる混合語タイプの発光層を2 Chapに形成した。次いでA 1Q 3 とクマリン誘導体を名義着速度 0. pm/sec、0.001mm/secで共蒸着し、クマリン誘導体を1. Ovol %合む電子輸送性の発光層を2 Chapに形成し、その後 A 1Q 3の電子注入輸送器を 2 Chapに形成するほかは同様にして有機E + カスキカネ

この有機を1乗子に電圧を印加して電流を流したところ、13・50mA/cm<sup>2</sup>で4000cd/m<sup>2</sup>の質録色(発光極大波長 Amax = 510mm、560mm、色度座領 x = 0.42 y = 0.54)の発光が確認され、この発光は乾燥アルゴン雰囲気中で1000時間以上安定していた。部分的非発光部の出現および成長は全くなかった。輝度の半減期は10mA/cm<sup>2</sup>の定電液配動船動で40000hr(初期質度1000cd/m<sup>2</sup>、初期配動電圧6.9V、起動電圧月3.0V)であった

図11に発光スペクトルを示す。図11より、クマリン誘導体とルブレンがともに発光していることがわかる。この場合の発光スペクトル比C/Rは0.42であった。また半値中は130mmであった。

**〈戦補使19〉** 

実施例17において、配合層タイプの終1および第2の発光層のホスト材料のTPD006とA1Q3の体積比をTPD005/A1Q3=75/25となるようにするほかは同様にして有機を1乗予を得た。

この有機とし素子に電圧を印加して電流を流したところ、13・50mA/cm²で4100cd/m2の資緑色(発光値大数長 Amax = 510nm、560nm、色度座線 x = 0.32 y = 0.58)の発光が確認され、この発光は乾燥アルゴン雰囲気中で1000時間以上安定していた。部分的非発光部の出現および成長は全くなかった。輝度の半減期は10mA/cm²の定電流配動配出 p 2.5 V)であった。輝度の半減期は10mA/cm²の定電流配動配上 p 2.5 V)であった。図12に発光スペクトルを示す。図12より、クマリン誘導体とルブレンがともに発光していることがわかる。この場合の発光スペクトル比C/Rは1.4であった。また半値中は120mであった。このように混合層のホスト材料の比率をかえることにより実施例17とは異なるC/R比が得られることがわかる。

348)

(350)

## **〈独特版20〉**

実施例17において、混合層タイプの第1および第2の発光層のホスト材料の TPD005とA1Q3の体徴比をTPD005/A1Q3=66/33となる ようにするほかは同様にして有機EL妻子を得た。

この有機E L銀子に電圧を印加して電流を流したところ、12・50mA/cm2で3500cd/m2の質録色 (発光極大波長 Amax = 510ma, 560ma, 色度度震 x = 0.34 y = 0.57)の発光が確認され、この発光は枝様アルゴン雰囲気中で1000時間以上安定していた。部分的非発光部の出現および成長は全くなかった。輝度の半紋即は10mA/cm2の定電液監影配動で20000hr (初期算度900cd/m2、初期配動電圧7.3V、駆動電圧月2.5V)であった。

図13に発光スペクトルを示す。図13より、クマリン筋導体とルブレンがともに発光していることがわかる。この場合の発光スペクトル比C/Rは1.4であった。また半値中は130mであった。このように混合層のホスト材料の比率をかえることにより実施例17とは異なるC/R比が得られることがわかる。

安施例17において、混合層タイプの第1および第2の発光層のホスト材料のTPD005とA1Q3の体積比をTPD005/A1Q3=25/75となるようにするほかは同様にして有機をL装子を得た。

この有機E L 菓子に電圧を印加して電流を流したところ、13・50mA/cm<sup>2</sup>で4200cd/m<sup>2</sup>の資緑色(発光塩大波長 Amax = 510ma、560ma、色度磨原 x = 0.47 y = 0.51)の発光が確認され、この発光は乾燥アルゴン雰囲気中で1000時間以上安定していた。部分的非発光部の出現および成長は全くなかった。輝度の半規即は10mA/cm<sup>2</sup>の定電液配動局動で15000hr(初期 輝度900cd/m<sup>2</sup>、初期駆動電圧7.5V、駆動電圧上昇2.5V)であった。

FREE COCG/E・・の別略を開発し、うく・略が発圧上弁 2・うく)にあった。 図14に発光スペクトルを示す。図14より、クマリン誘導体とルブレンがともに発光していることがわかる。この場合の発光スペクトル比C/Rは0・25であった。また半値中は8 Cmmであった。このように、混合層のホスト材料の比単をかえることにより実施倒17とは異なるC/Rはが得られることがわかる。

実施例17~21の結果から、発光層のホスト材料をかえることにより、発光 特性の変化がみられることがわかる。 また、比較例7~11の結果を併せて考えると、多色発光の方法として、発光層のホストのキャリア輸送特性を本発明の範囲にすればよいことがわかる。

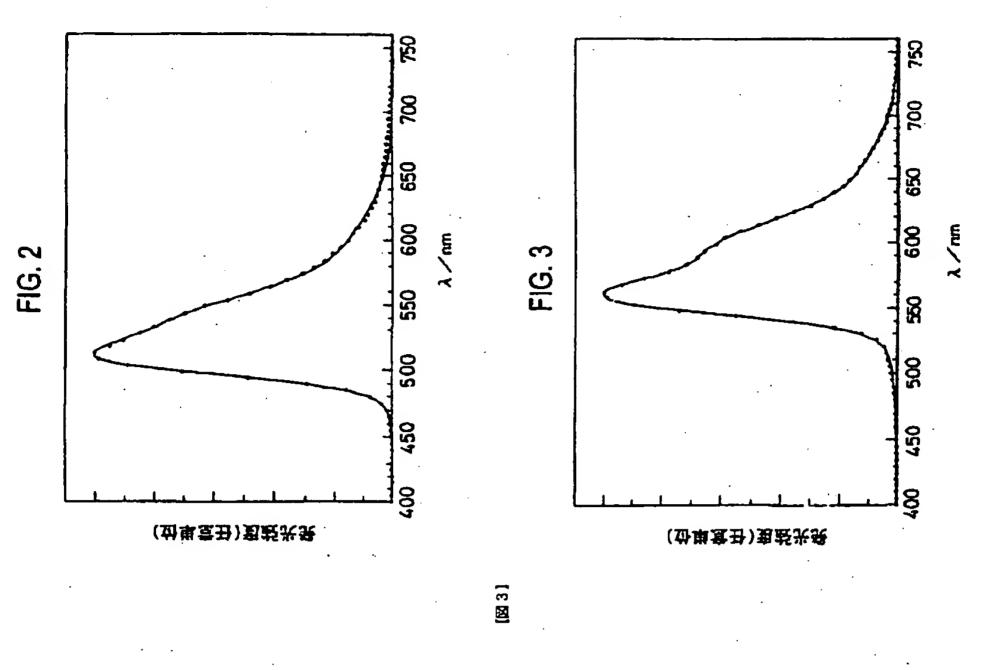
以上より、観暦する発光層のキャリア輸送特性を本発明のように選ぶことによって(好ましくは、例えばバイボーラ型発光層として、混合語タイプの発光層を含む2間以上の発光層を設けることによって)、2種以上の発光癌の発光が実用レベルで得られることがわかった。したがって多色発光が可能なことが確認され

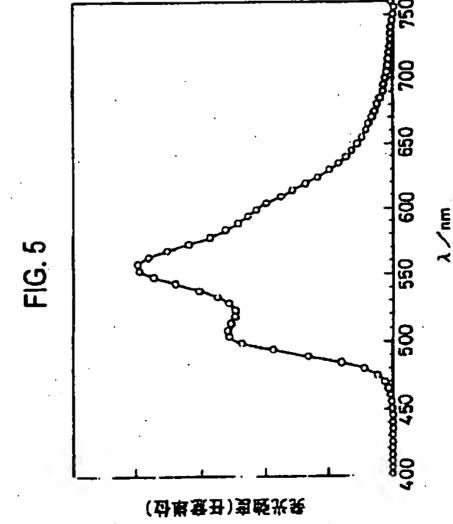
さらに、パイポーラ型である混合層のホスト材料の混合比を変えることで2層以上ある各発光層からの寄与を変化させることが可能になることがわかる。また、避合比は各層で独立に変えることもでき、これによる変化も期待できる。このようなパイポーラ型ホスト材料としては混合タイプのみならず、単一種のパイポーラ型材料とすることも可能である。本発明のポイントは視層する発光層のキャリア輸送性を選ぶことであり、キャリア輸送性を変えるには材料を変える必要が

## 産業上の利用可能性

以上より本発明の化合物を用いた有機をし業子は高輝度な発光が可能であり、連続発光時の輝度低下および駆動電圧上昇の小さい信頼性の高い業子であることは明らかである。また、複数の蛍光物質をそれぞれ安定に発光させ、広いスペクトル領域にわたる発光を得ることができ、多色発光が可能になる。さらに、多色発光のスペクトルを自由に設計することができる。

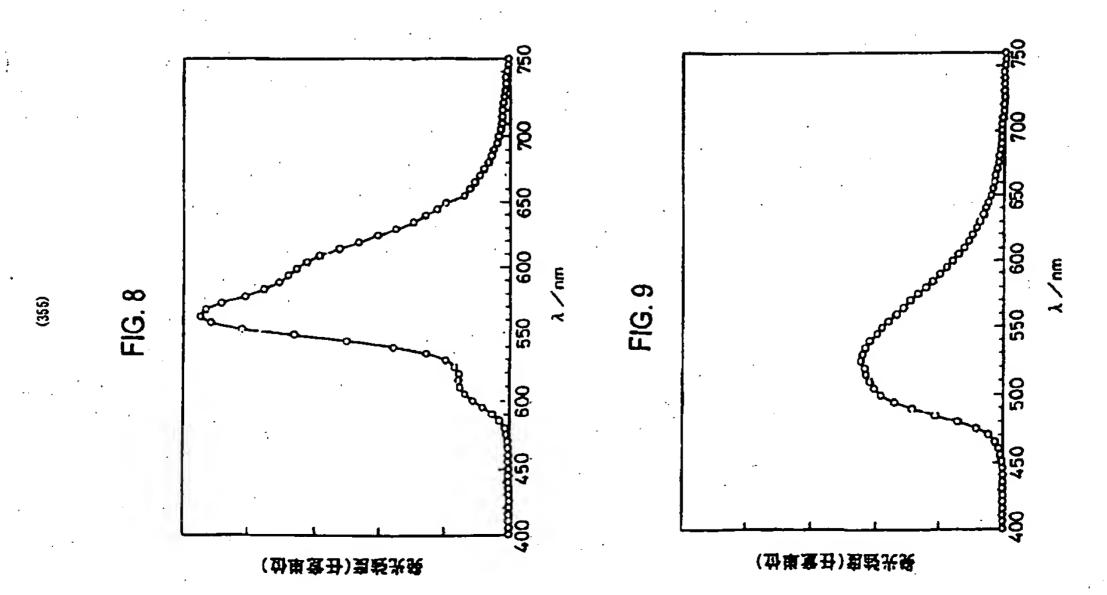






(383)

(3図)

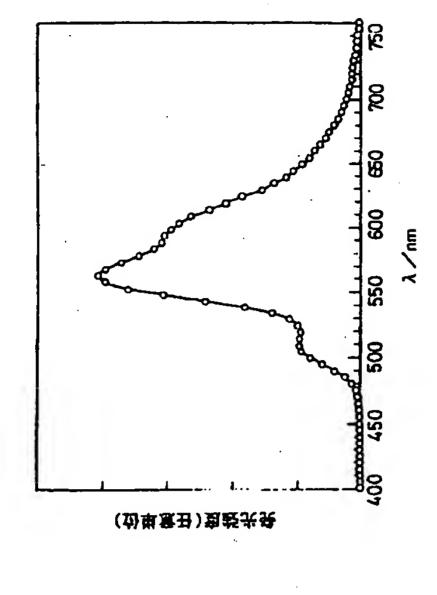


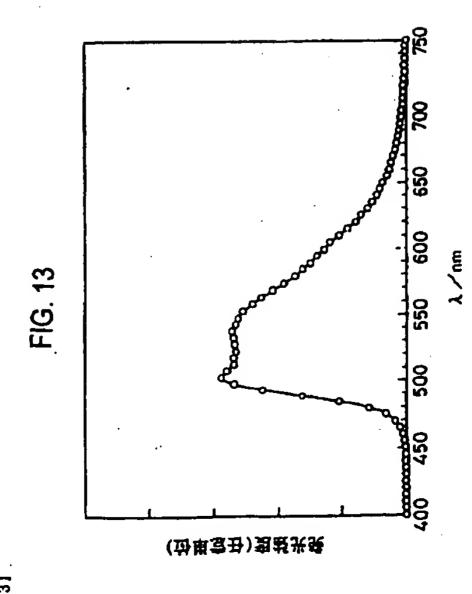
(8 図)

FIG. 12



(如単意丑)鬼藍光桑





**#**098/08360

(360)

国际出版条件 PCT/JP97/02869

[囚敗城登報告]

A DEFO	(1)の1) 部分が経済(1) 部分の組みと主義の組み	Interestate contract	60070	
ច	//C09K11/0			
B. 調査を行った分野 調査を行った長小級資料	1った分割 8小級数料(回販物T分類(1 P.C))			
hr. Ci* :	/14, CC		. •	
44年度中国	後小波波が以外の液体で四波を行った分野に合またももの			
国際調査で使用した幕子ゲ	ーサペース (デーサペースの名称、	<b>订新に使用した原語</b> )		
C. 関連する 別用文献の カテゴリーキ V	5とほのられる文献 3/財文献名 及び一部の箇所が間違すると 3.P. 8-48656. A (ディーディーケイ 2.0. 0.2. 9 8), 特許請求の範囲31, 3 0.2.8 1 個, 第 [0.3.4.7] 概, 第 [0.2.2.2]	ときは、その知道する種所の表示 イ株式会社)、20.2月、1996 ( 35-36, 第10104] 種, 第10 2] 細& E.P., G.B.B.B.B.	<b>経験する</b> <b>請求の</b> 前周の春号 1-18	
> %	243, A (パイメ 特許証券の範囲1, むドブイイスの転り	2位)、30、8月、1994 (30 20] 徳 (ファミリーなし) 1月、本資金村工術園事を設在、19	1 - : 8	
. <i>&gt;</i>	年6月1日, 第200頁, 第228頁, 第410頁, 第28頁, A (出光質機能式会 91), 第10頁右上包第11打一第15126214, A	. 28. 6. 1991 (28. 14EP, 387715, A16.		•
X Canada	C個の殺きにも文献が刊等されている。	□ ハペチントファミリーに関する別紙を参照。	纸件等温。	-
+ 3. 部文 (A. 存に配 (B. 発行文 (C.) 協定 (C.) 協定 (D.) ロ域に (P.) 回域に	3.用文歌のカテゴリー ・特に国道のわる文献ではなく、一般的技術水準を示す もの ・発行文献ではあるが、国際出版目以後に公安されたも の ・経行文献ではあるが、国際出版目以後に公安されたも の ・ 原行文献ではあるが、国際出版目以後に公安された ・ の名称を主張に経路を整成する以表文は他の文献の紹介 ・ 日本しくは他の特別な理由を確立するために引用する 文献(現由を付す) ・ 日間による語序、使用、展示年に古及する文献 ・ 日間による語序、使用、展示年に古及する文献 ・ 1 国際出願目的で、かつ優先権の主張の基礎となる出慮	の日の後に公教された大戦 「T」国際出版日文は優先日後に公教さ て出版と予格するものではなく、 館の私弟のために別用するもの 「X」体に図述のある大戦であって、当 の制度在文は忠孝佐がないと今人 「Y」 毎に国道のある大戦であって、当 上の大戦との、当祭者にとって自 よって選挙性がないと考えられる	公表された文献であって なく、基例の原理又は限 もの て、当額文献のみで紹明 て、当該文献のみで紹明 と考えられるもの て、当該文献と他の1以 って自然である組合せに られるもの	
国際経営を定了した	プレたB 10.11.97	国際国産権告の報送目 18.11	1.97	
2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年 2000年	四国政主義的の名称及びおて完 日本囚修行庁(1 S A / J P ) 第叙称中1 0 0 京京都千代田区政が昭川7日 4 参 9 号	佐井庁母後は(権限のある権权) 大久保 元等 株成者を 03-3581-1101	4H 9636	· _ ·
個式PCT/	一少) (1992年7月			

	1		
19. 3-255190, A (水イエア株式金比 協1名), 14, 11月, 19 91 (14, 11, 91), 中井部文の協1を15, 5227252, A 19. 2-210790, A (株式会比9コー), 22. 8月, 1990 (22. 0 8. 90), 中計画文の協田 (ファミリーなし) 19. 4-834894, A (株式会比9コー), 20. 11月, 1992 (20. 11. 92), 作計解文の範囲1、図1 (ファミリーなし) 11. 92), 作計解文の範囲1、図1 (ファミリーなし) 19. 7-142169, A (革産化学株式会比), 2. 6月, 1996 (19. 0 16. 95), 特計解表の個別4 (ファミリーなし) 19. 8-12569, A (丁マニリーなし) 19. 8-125629, A (丁マニリーなし) 19. 3-182762, A (紅土電線末ス会比), 23. 7月, 1993 (23. 07. 99. 4とし) 19. 2-250292, A (永太会社9コー), B. 10月, 1990 (08. 1 0. 90), 全文をUS, 5085947, A		91角文献名 及び一部の循所が錯蔑するとをは、その関連する箇所の表示 P. 6-271843、A (住友化学工家株式会社), 27,9月,1994 (2,09,94), 第【0005】 四、第【0024】 週(ファッリーなし)	### 1 3 9 - 1 8 4 - 6 9 - 1 8
19. 2-210790, A (株式会社リー), 22. 8月, 1990 (22. 0 8. 90), 株計選択の範囲1 (ファミリーなし) 19. 4-834894, A (株式会社リー), 20. 11月, 1992 (20. 11. 92), 体計選択の範囲1、図1 (ファミリーなし) 19. 7-142169, A (三面化学株式会社), 2. 6月, 1806 (02. 0 6. 95), 修計選集の範囲4 (ファミリーなし) 19. 8-12969, A (ディディーケイ・サイ様式会社), 16. 1月, 1996 (19. 01. 56), 全文 (ファミリーなし) 19. 5-182762, A (本土電路電気会社), 23. 7月, 1993 (23. 07. 93), 全文 (ファミリーなし) 19. 2-260292, A (本土電路電気会社)), B, 10月, 1990 (06. 1 0. 90), 全文をUS, 5085947, A	<b>&gt;</b>	-255190, A (パイオニア株式会社、位1名), 14, 11月, 14, 11月, 14, 11月, 17, 11月, 17, 11月, 11月, 11月, 11月,	4-6, 9-1
8.34894, A (株式会社リコー)、20.11月.1992(20.), 作件時次の範囲1. 図1(ファミリー化し) 142169. A (三番化学株式会社)、2.6月.1905(02.0), 特所酵彙の範囲4(ファミリー化し) 2.69, A (ディーディーケイ株式会社)、16.1月.1996(1.50)、全文(ファミリー化し) 182762. A (新士電越株式会社)、23.7月.1993(23.1.2)、全文(ファミリー化し) 2.60292. A (林式会社)コー)、8.10月.1990(08.1.全文化US, 5.085947. A	>	-210790, A (株式会社リコー), 22.8月,1990(22.), 特許調束の範囲1 (アアミリーなし)	4-6, 9-1
142169. A (三番化学株元会社), 2. 6月. 1896 (02. 0) 特別課本の範囲4 (ファミリーなし) 12969. A (ディーディーケイ株式会社), 16. 1月. 1896 (1. 50), 全文 (ファミリーなし) 182762. A (富士電館株式会社), 23. 7月. 1993 (23. 25. 25. 29.2, A (本社会社)=-), B. 10月. 1990 (08. 1. 全文をUS, 6085947. A	>	834894, A (株式会社リコー), 20. 11月. 1992 (20), 作作時式の範囲1、関1 (アナミリーなし)	10-18
12969. A (ディーディーケイ様式会社). 16. 1月. 1896 (150), 全文 (ファミリーなし) 182762. A (哲士電籍株式会社), 23. 7月. 1993 (23. ), 全文 (ファミリーなし). 全文 (ファミリーなし). 全文をUS, 5085947. A. (本式会社) は、10月. 1990 (08. 1). 会社 (1509) は、10月. 1990 (10月. 1990) は、10月. 1990 (10月.	<b>≻</b> -	-142169, A (三菱化学株式会社), 2. 6月. 19p6 (02., 6月時来の範囲4 (ファミリーなし)	<b>5</b> 3
182762, A (紅土電解床式会型), 23.7月, 1993 (23.75.260292, A (砂式会社ラニー), B. 10月, 1990 (08.1,全文をUS, 5085947, A		12969, A (ディーディーケイ様式会社)、16、1月、189 . 56), 全文 (ファミリーなし)	4
250292, A (衛送会社9=-), B. 10月. 1990 (08. 1) 全文化US, 5085947, A	<	182762。A (哲士電視麻式会社), 23.7月.1993 (23 . 全丈 (ファミリーなし)	4-6, 9-1
	≺	250292, A (承达会社》3一), B. 10月. 1990 (08. , 全文企US, 5085947. A	4-6.9-1
	·		
	,		

869

PCT/1P87/02

**电影光谱符令** 

医聚替拉特金

		#	
		り指求の範囲の一部についた作	
	ļ	まに	
	ı	9	
		なこ	
		*	
		2	
	<u> </u>	が	
ı	200	13.	
	6	97	
l	3	其	
	田の一田の間重ができないときの常見(第1ページの1の限金)	り、この国際資本収告は次の理由により	
	<b>B</b>	e	
	神足	-	
	40		
	117	CT17条(9)(b)) の規定により	
	140	3	
•	Ė	6	
į	8	7.4	
	120	-	
l	6	2	
	日本の毎日	E	. •
	<b>X</b>	公益多条票3位	これ
	#	184	こんなが
	7	光	14

日本本の範囲	は、この国際関連機関が関金をすることを製しない対象に係るものである。
727.	

まる程度まで夢定の政件を関たしてい		
は、有価値な区域調査をすることができる程度まで所定の設件を関たしてい ものである。つまり、	-	
2.   請求の範囲 ない医療地震の部分に係るもので		

は、紋属指状の範囲であってPCT規則6.4(4)の第3大及び第3文の模定に
日本水の発田
ص

発色の手一位が欠台しているときの意見(第1ページの2の概念) 従って記載されていない。 第日報

文に近くらようにこの国際出版に二以上の名的があるとこの国際國本権国は都めた。 1、他許証本の範囲11年の保存の形式、クァリン都等体を右右する名光語と、アトラアリールジアミン製等体も右右する正式は入事はよび/女には絶滅他の雇とを有する手機とし輩子に関するものできる。 2. 合評証本の範囲10 - 1.8に成る場のほと、イイボーラ型第元層を合むる場以上の名光層を有し、この第九階はの国を存むの国をとして正礼は入在な107/12とは協議性の国を在し、配置側の国としては予許入在および/女には協議在の国を有し、前四2 即以上の第九階がイガーラ回発光譜の土の第台は、1.4だ、イガーラ型発光層として自己は登出を対して、カーク型発光層によりは反回の正礼をは体の名光層はよび/もしくは存着回の属子を込在の名法律と、このバイボーラ型発光層よりはあられると、またものである。 なって、上面1の名前はとこの名前は2010に共活する参照な技術的を要は認められないから、これらの名前群が第一の一般の民党教を形成するように議題している一群の兄のとは認めるとは認められない。

- ナペイの気圧可能な語水 この国歌舞座雑智は、 1. 区 田智人が必要な道句関系が数料をすべて基的内に来付したので、の範囲について作成した。
- たので、道 ナベイの政治可信な望水の位配について信託する 近加強者手数料を原本するまでもなく、 な国政学教科の統督を決めなかった。 **□**
- 子数料の割 この国際観光総告は、 3. [] 计個人が必要な迫が関策学数年を一部のみしか益的内に並付しなかったのか、 付ののった次の証券の範囲のなに心に、作成した。
- 量初小配金 この国際関係権力は、監決の権国の 4. [] 広義人が必要な治体的公子を発生を取回されませったかったので、されている名のに成る次の指文の位置について行成した。

造の関者年数学の英語の甲立てに関する注象 □ 3.3が諸素平徴券の他付と共に出版人から典観中立てがあった。 図 1.3が関数子数件の他付と共に出版人から異議中立てがわった。

(1992年7月) (210 (第1ページの反業(1)) MAPCT/13A/

適加職を手続行の他付と共に出題人から異議中立てがなかった。

フロントページの統計

東京都中央区日本橋1丁目3番1号 ーディーケイ株式会社内 #1 (72) 発明者

(住) この公表は、国版事務局 (WIPO) により国版公開された公報を基に作 成したものである。

なおこの公表に係る日本語特許出題(日本語実用新案登録出題)の国際公開の 効果は、特許法第184条の10第1項(実用新案法第48条の13第2項)に より生ずるものであり、本掲載とは関係ありません。

(362)

1098/08360